

スリ・ランカ国看護教育プロジェクト 実施協議調査団 / 計画打合せ調査団報告書

平成 9 年 4 月
(1997年4月)

国 際 協 力 事 業 団
医 療 協 力 部

序 文

スリ・ランカ民主社会主義共和国では看護婦不足が深刻であるにもかかわらず、既存の看護学校では教員、教材の不足や施設の老朽化により、量、質ともに十分な看護婦の養成が困難となっています。このため、同国政府は看護婦不足への対策と看護婦の質の向上を図ることを目的に、1992年に、わが国に対し、無償資金協力による看護学校建設および技術協力を要請してきました。

これを受け、当事業団はプロジェクト方式技術協力による看護教育プロジェクト実施の可能性について調査すべく、1995年8月に事前調査団を派遣し、続いて1996年2月から4月に長期調査員を派遣しました。

これらの調査結果を踏まえ、1996年5月19日から5月31日までの日程で、厚生省健康政策局看護課長久常節子氏を団長とする実施協議調査団を派遣し、同年10月から5年間のプロジェクト方式技術協力を実施することを合意しました。

さらに、協力開始から半年を経た、1997年3月30日から4月7日までの日程で厚生省看護研修研究センター教官和賀徳子氏を団長とする計画打合せ調査団を派遣し、協力内容のレビューと今後の協力計画についての協議を行いました。

本報告書は、上記調査団の調査結果を取りまとめたものです。

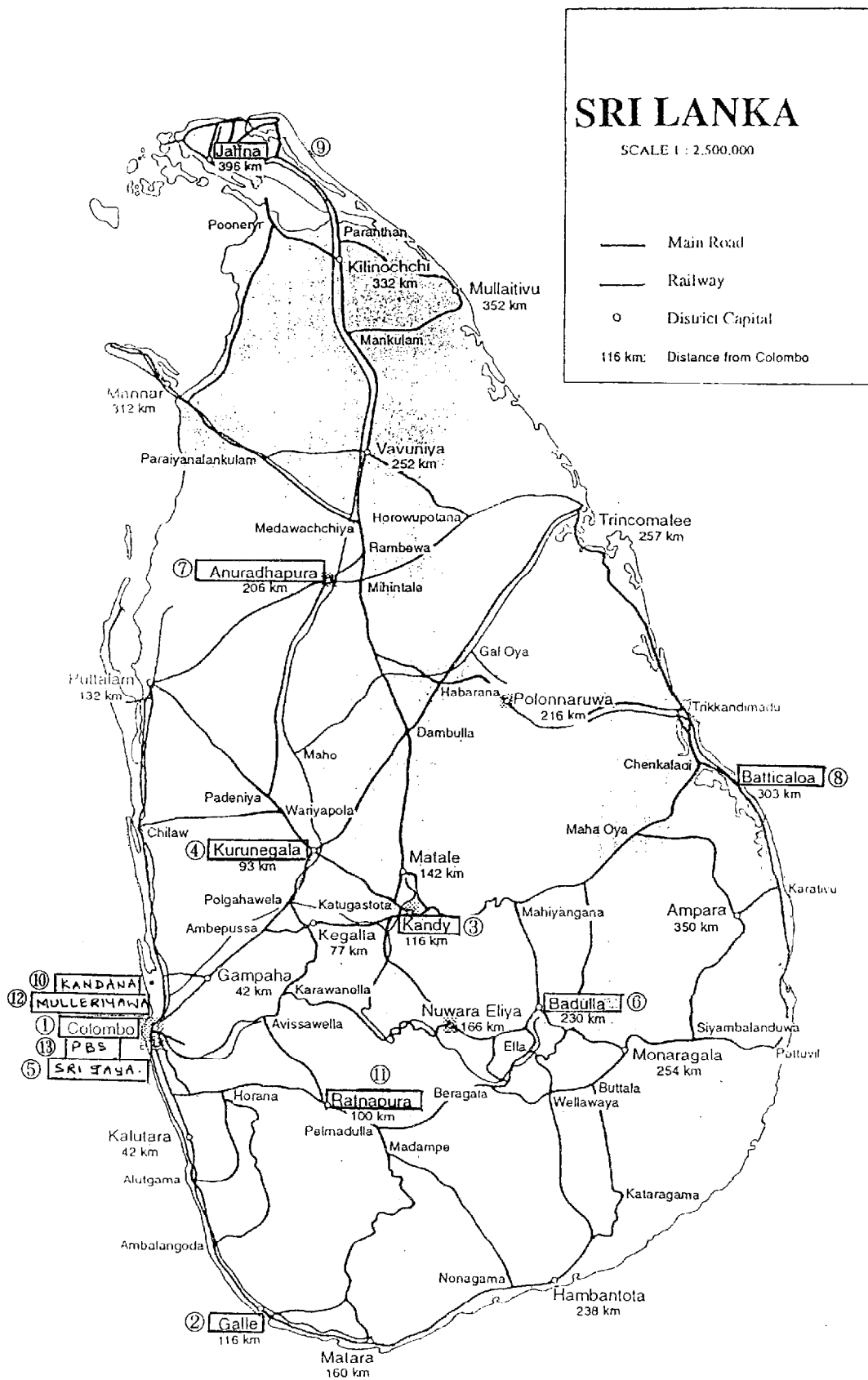
ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表しますとともに、本プロジェクトの実施運営に対しまして、さらなるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

1997年4月

国際協力事業団

医療協力部長 福原 毅文

地図：スリ・ランカ民主社会主義共和国
および看護学校位置図



目 次

序 文 地 図

．実施協議調査団報告書	1
1．実施協議調査団派遣	3
1 - 1 調査団派遣の目的	3
1 - 2 調査団の構成	4
1 - 3 調査日程	5
1 - 4 主要面談者	6
2．実施協議調査結果	8
2 - 1 調査概要	8
2 - 2 実施協議内容	8
2 - 3 今後の課題	10

附属資料

実施協議調査団討議議事録(R / D)	15
プロジェクトデザインマトリックス(和文)	29
保健省組織図	30

．計画打合せ調査団報告書	31
1．計画打合せ調査団派遣	33
1 - 1 調査団派遣の目的	33
1 - 2 調査団の構成	33
1 - 3 調査日程	34
1 - 4 主要面談者	35
2．計画打合せ調査結果	36
2 - 1 調査概要	36
2 - 2 総括	38
2 - 3 実施計画の進捗状況	42
2 - 4 資機材の供与および利用状況	48
2 - 5 看護学校の視察結果	48

附属資料

計画打合せ調査団ミニッツ	53
プロジェクト運営委員会資料	66
長期調査概要報告	97

Ⅰ．実施協議調査団報告書

1．実施協議調査団派遣

1 - 1 調査団派遣の目的

(1) 要請内容および背景

スリジャヤワルダナプラ総合病院(以下、S J G H)はわが国の無償資金協力により1984年に完成した約1,000床の総合病院で、スリ・ランカ民主社会主義共和国(以下、スリ・ランカ)保健省管轄(半官半民)の病院として高度な医療サービスを提供している。1986年からは5年間にわたり同病院を対象とし、新生児・産婦人科・C C U・I C U等の分野を中心とした治療、看護技術協力プロジェクトが実施された。しかし同病院では看護婦が不足しているためその養成が急務となっており、施設の不足から病院では倉庫の一部を利用して付属の看護学校が看護婦を養成している。また、同国の看護学校は国立10校ならびに半官半民のS J G H付属校の計11校が存在するが、いずれも教員、教材の不足、施設の老朽化等が看護教育の質の向上への障害となっており、改善が急務となっている。この状況に対処するためスリ・ランカ政府はS J G H付属看護学校の建設に対する無償資金協力ならびにI C U、C C U等の専門看護を対象とした技術協力を日本政府に要請してきた。その後、1995年8月に実施した事前調査では、同看護学校をあくまで基礎教育の向上をめざしたモデルケースとして位置づけ、他に10校ある国立看護学校における教育の質の向上・高度化を目的としたプロジェクトを実施することで合意した。続く1996年2月に長期調査員を派遣し、プロジェクトサイクルマネジメント(P C M)手法によるプロジェクト計画を作成した。今般の調査団派遣は上記の諸調査を基にした5年間の活動計画と日本、スリ・ランカ双方の投入計画につき最終的に先方と合意を得るためのものである。

(2) 目的

看護教育プロジェクトに関する長期調査による結果、S J G Hおよび他の国立看護学校の施設・設備はきわめて貧弱で、そのうえ看護教員の慢性的不足により学生に対する十分な教育がされておらず、看護教育上、大きな問題となっている。このような現状を改善するために看護学校全体の教育の質の改善を目的として教材開発、看護技術、教材供与を含めたプロジェクトを実施し、スリジャヤワルダナプラ看護学校をモデルケースとして位置づけ、他の10校の教育レベルを引き上げる必要がある。上記事前調査および長期調査により技術協力プロジェクトの実施基本方針はスリ・ランカ側とすでに原則合意しているところ、これらについて確認し、今後5年間の協力内容を討議議事録(R / D)に取りまとめ、署名交換を行う。

1) 無償資金協力による看護学校の建設前と建設後の2段階とし、建設前は他10校の看護教育ベースラインサーベイを実施する。完工後は第1段階で得られたデータに基づき看護教

員・看護婦に対する臨床の場での訓練等の介入プログラムを考案、実施していく。

2) サーベイを基にした当該学校設置への適正基準づくり

3) 教育カリキュラムの策定、教材・機材の選定等学校設置準備

1 - 2 調査団の構成

	担 当	氏 名	所 属
団長	総 括	久 常 節 子	厚生省健康政策局看護課長
団員	看護教育	佐々木 正 子	東邦大学佐倉看護専門学校副校長
団員	研修計画	小 林 繁 郎	国際協力事業団医療協力部医療協力第一課特別嘱託
団員	協力計画	富 沢 一 洋	国際協力事業団医療協力部医療協力第一課職員

1 - 3 調査日程

日順	月日	曜日	移動および業務
1	5月19日	日	東京発(11:30)→シンガポール(17:25)JL-719 シンガポール発(20:25)→コロンボ(21:25)SQ-442
2	5月20日	月	JICA事務所表敬訪問(中村所長/稲見所員) 大蔵省表敬訪問(外国援助局課長 Mr.Passaperuma) 保健省訪問(保健次官 Dr.D.Dissanayake)、R/D討議打合せ SJGH訪問(理事長 Dr.J.B.Peiris、病院長 Dr.D.L.De Lanerallieほか)、 R/D討議打合せ
3	5月21日	火	保健省においてR/Dに関する討議 日本大使館訪問(金井書記官)、協議状況説明
4	5月22日	水	無償資金協力調査団との合同打合せ(施設建設内容の討議)
5	5月23日	木	保健省 R/D最終協議、R/D署名 JICA事務所訪問(中村所長)、協議結果報告
6	5月24日	金	資料整理
7	5月25日	土	キャンディ総合病院および看護学校視察 久常団長、佐々木/富沢団員帰国 コロンボ発(23:55)→
8	5月26日	日	シンガポール着(6:15)SQ-401 シンガポール発(9:45)→成田着(17:35)SQ-12 (以下小林団員のみ) 資料整理
9	5月27日	月	保健省訪問、無償資金協力調査団と合流(施設建設内容について協議)
10	5月28日	火	SJGH(研修生/専門家派遣、機材供与要請書提出の説明)
11	5月29日	水	保健省訪問、無償資金協力調査団と合流(施設備品供与のリスト作成)
12	5月30日	木	コロンボ発(1:10)→バンコク(6:10)TG-308 チュラロンコーン大学看護学部訪問(タイの看護教育事情についての情報収集)
13	5月31日	金	バンコク発(10:45)→成田着(19:00)TG-640

1 - 4 主要面談者

(1) スリ・ランカ側関係者

1) 大蔵省外国援助局

Mr. B. H. Passaperuma Deputy Director(外国援助局課長)

2) 大蔵省国家開発局

Mrs. P. Alailima Director(国家開発局長)

Ms. W. A. S. Mahawens Deputy Director(国家開発局課長)

3) 保健省

Dr. Dudley Dissanayake Secretary(保健次官)

Dr. M. A. Jayasena Deputy Director General(Logistics)(業務調整課副総局長)

Dr. H. S. B. Tennakoon Director(Training)(研修課部長)

Dr. K. E. S. Dalpata Deputy Director General(医療サービス局長)

Dr. G. Jeganathan Deputy Director General(医療サービス局長)

Mrs. N. C. De Costa Director Nursing Education(看護教育課長)

Ms. Kusum Vithama Director Nursing Medical Education(看護課長)

Ms. Karma Saranguhewa Director Public Health Nursing(公衆衛生看護課長)

4) スリジャヤワルダナプラ総合病院(S J G H)

Dr. J. B. Peiris Chairperson(理事長)

Dr. D. L. De Laneralle Director(病院長)

Dr. Keinthei Kuwanage Deputy Director(副病院長)

Mrs. M. W. Ranawala Tutor(看護教員)

Mrs. S. Abeywardena Tutor(看護教員)

Mrs. S. Samarawickrama Tutor(看護教員)

Ms. H. A. S. Sri Chandra Matron(総婦長)

Mrs. M. Dayananda Deputy Matron(副総婦長)

5) J I C A 集団研修帰国研修員(専門看護・看護管理コース)

Mrs. B. D. Chandralatha Nurse(コロンボ看護学校)

6) コロンボ総合病院・看護学校

Mrs. Sheila Parनावithana Principal(校長)

(2) 日本側関係者

- | | |
|------------------|--------------|
| 1) 在スリ・ランカ日本国大使館 | 金井書記官 |
| 2) JICAスリ・ランカ事務所 | 中村所長
稲見所員 |

2 . 実施協議調査結果

2 - 1 調査概要

本調査団は 1995 年 8 月に実施された事前調査、および 1996 年 3 月の長期調査結果に基づき、スリ・ランカ側とプロジェクトの方向性、活動内容の策定について協議し、合意を得て R / D を結ぶために派遣され、以下の活動を行った。

- 1) スリ・ランカにモデル看護学校を設立するための基礎情報獲得のため国立看護学校の視察調査
- 2) 5 年間の暫定実施計画(T S I)、プロジェクトデザインマトリックス(P D M)案について合意を得る
- 3) R / D の署名
- 4) プロジェクト方式技術協力実施に必要な書類の作成(A1 フォーム、A2/A3 フォーム、A4 フォーム)

主要な協議結果は以下のとおりである。

- 1) スリジャヤワルダナプラ総合病院(S J G H)の看護学校はプロジェクトの発足時に国立の看護学校(National School of Nursing of Sri Lanka)と呼称し、学校の運営は他の 10 校の国立看護学校と同じく、保健省の管轄下に置くという一致の見解を得た。
- 2) プロジェクトの目標は看護教育の基礎を確立させることが最重点であることをお互いに確認し合った。
- 3) プロジェクト事務所開設に際して S J G H 側より開設に必要な設備(部屋、電話回線、水道設備、業務用机等)の提供の確約を得た。
- 4) R / D の署名が行われ、プロジェクトの発効日の 1996 年 10 月 1 日から 5 年間実施されることに決定した。
- 5) 今年度(1996 年度)は日本側からチームリーダー、業務調整、看護理論の分野の 3 名の専門家を長期で派遣し、スリ・ランカ側からは研修員として 2 名を日本に派遣するよう要請した。
- 6) プロジェクト方式技術協力による機材供与は S J G H の看護学校だけでなく、他の 10 校にも必要機材を分配することで相手側と合意した。

2 - 2 実施協議内容

- (1) 看護教員は 1 学年の学生数では現状の 3 名で運営して、新学年が入学時に 7 名の教員に増やし、3 学年がそろった時点で 12 名の教員に増員させるという相手側の提案を得た。

- (2) 新看護学校開校と同時に必要なスタッフ(事務員、タイピスト、雑役婦、運転手、その他)の CADRE(定員枠)のリストの提出を求めた。
- (3) 看護学校の校長は看護経験者の専任職として学校運営にあたるように要請した。
- (4) プロジェクト開始後、卒後研修学校の教員もカウンターパートとして日本への研修員の対象としていくことに合意した。
- (5) プロジェクト方式技術協力における機材供与は、スリジャヤワルダナプラ看護学校への単独供与としないで、他の 11 校(卒後研修看護学校を含む)にも配分することを相手側に伝えた。
- (6) 今年度のプロジェクト方式技術協力による相手側の機材供与リストでは、医療機材や看護機材よりむしろ学校設備の備品の申請が目立った。
- (7) 今年度の研修生派遣の枠は 2 名であるが、保健省側から 1 名、S J G H 側から 1 名を派遣するよう要請した。
- (8) 看護学生に支給される給料(Stipend)は労働の報酬としてではなく、学生への奨学金として支給しているとスリ・ランカ側よりの説明があった。
- (9) 現行の看護教育カリキュラムに関しては、スリ・ランカ側も見直していく方針であるという見解を得た。
- (10) 看護学生の年間休日数(日本のような夏期、冬期、春期休暇)が全く設けられてなく、学生の健康に影響を及ぼす可能性があると指摘した。しかし相手側は「スリ・ランカでは休日が多く、年間の休日は合計で 116 日も取っているので休日が少ないということはない」と反論した。
- (11) スリジャヤワルダナプラ看護学校の今年度の学生入学(57 名)は 7 月に予定されている。教員の教授方法は専門分野別ではなく、総合型(General)の形式を取っている。
- (12) 保健省側の対応が遅いので何らかの条件を付けたほうがよい。例えばプロジェクトの終了後のメンテナンスはどうするべきかについて。(大使館金井書記官談)

- (13) スリジャヤワルダナブラ看護学校はS J G Hのための施設ではなく、国立看護学校であることを相手側に認識させる必要がある。(大使館金井書記官談)
- (14) 教育は絵やテレビ等の視覚によって知識を与えることが大切で、言葉で教えてそれを相手が言葉のまま記録するのが教育であるという考えを保健省の関係者が持っているので問題である。(大使館金井書記官談)
- (15) スリ・ランカにおいて看護教育の技術援助は非常に重要である。1人の教員が多くの学生を抱えている講義スタイルは問題である。これを解消するためにも近代知識、近代技術、教授開発に関する技術の援助を日本側より得たい。(大蔵省外国援助局課長 Mr. Passaperuma 談)
- (16) カウンターパートの日本でのトレーニングはできるだけ若い層の研修員を派遣するようにしたほうがよい。(大蔵省外国援助局課長 Mr. Passaperuma 談)
- (17) スリジャヤワルダナブラ看護学校の運営予算は1997年から直接、大蔵省から配分される予定である。正式には5月末に決定の予定である。
- (18) 無償資金協力調査団との話し合いでは、今回の調査で協力内容が決定するわけではないので、プロジェクト方式技術協力側との整合性を検討して、再度スリ・ランカ側と協議して決定していく方針である。

2 - 3 今後の課題

(1) 看護学生の募集について

前回の調査時、および今回、S J G Hの病院長と直接話し合った際、学生の募集は今年度57名をすでに入学させているが、建物が完成する、しないにかかわらず毎年、今年に引き続いて学生を入学させるという確約を取っていた。しかし、帰国直前、Mrs. De Costa(看護教育課長)より、学生の毎年の受入れは看護学校が開校してからであって、開校前は不可能であるという説明を受けた。このような食い違いが今後も生じるおそれも十分考えられるので、文書として保管しておいたほうがよい。

(2) カウンターパートの日本でのトレーニングについて

研修員の枠は今年度2名となっており、保健省側とS J G H側から各1名を視察型研修で

日本に派遣する旨伝えたところ、保健省からは看護教育課長の Mrs. De Costa、S J G Hからは総婦長と副校長を代行している Ms. Sri Chandra を要請した。しかし帰国直前になり、S J G Hからは Ms. Sri Chandra の代わりに S J G H の病院長を派遣させたいという看護教育課長の説明があった。看護教育のためのプロジェクトであるのに看護関係者を日本に派遣しないのは問題である。今後このようなケースが起こらないとは限らないので研修員の派遣は慎重に検討しなければならない。

附 属 資 料

実施協議調査団討議議事録(R / D)

プロジェクトデザインマトリックス(和文)

保健省組織図

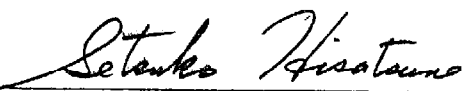
① 実施協議調査団討議議事録 (R / D)

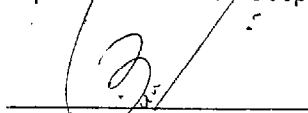
RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE
IMPLEMENTATION STUDY TEAM AND THE
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE NURSING EDUCATION PROJECT

The Japanese Implementation Study Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Setsuko Hisatsune, visited the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka from May 19, 1996 to May 23, 1996 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Nursing Education Project in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka.

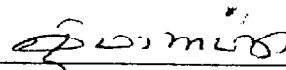
During its stay in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Sri Lanka authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned Project.

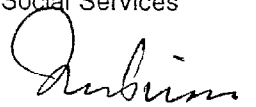
As a result of the discussions, the Team and the Sri Lankan authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.


Dr. Setsuko Hisatsune,
Leader,
Implementation Study Team,
Japan International Cooperation Agency


Mr. B. H. Passaperuma
Deputy Director of External Resources
Ministry of Finance

Colombo, May 23, 1996


Dr. Dudley Dissanayake
Secretary,
Ministry of Health, Highways and
Social Services


Dr. J. B. Peiris
Chairman,
Sri Jayewardenapura General Hospital

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The government of Sri Lanka will implement the Nursing Education Project (hereinafter referred to as "the Project") in cooperation with the Government of Japan.
2. The project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

II. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the government of Japan will take, at its own expense, the following measures through JICA according to the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

The Government of Japan will provide the services of the Japanese experts as listed in Annex II.

2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

The Government of Japan will provide such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III.

The Equipment will become the property of the Government of Sri Lanka upon being delivered C.I.F to the Sri Lankan authorities concerned at the ports and /or airports of disembarkation.

3. TRAINING OF SRI LANKAN PERSONNEL IN JAPAN

The Government of Japan will receive the Sri Lankan personnel connected with the Project for the technical training in Japan.

4. SPECIAL MEASURES FOR MIDDLE-LEVEL TRAINERS' TRAINING PROGRAM

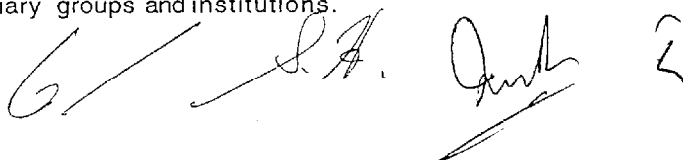
- (1) The Government of Japan will supplement a portion of the following local expenditures necessary for the training programs for middle-level manpower conducted in Sri Lanka.

- (a) Travel allowances to and from the place of training for training participants
- (b) Expenditures for preparation of teaching materials
- (c) Travel allowances for field trips for training participants
- (d) Expenditures for the purchase of supplies and equipment necessary for training programs.
- (e) Travel allowances for instructors when they accompany training participants on field trips.
- (f) Fees for instructors invited from institutions other than ones directly connected with the Project.

- (2) Support for the above mentioned expenditures will be reduced annually. The reduced portion of the expenditures will be replaced by the Sri Lankan side.

III. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF SRI LANKA

1. The Government of Sri Lanka will take necessary measures to ensure that the self-reliant operation of the Project will be sustained during and after the period of Japanese technical cooperation, through the full and active involvement in the Project by all related authorities, beneficiary groups and institutions.



3. The Steering Committee will be responsible to establish collaborative relationship between the Ministry of Health, Sri Jayawardenapura Nursing School, Sri Jayawardenapura General Hospital and the 10 national nursing schools.

4. The Japanese Team Leader (Chief Advisor) will provide necessary recommendations and advice to Secretary of Health and Chairperson of the Steering Committee on any matters pertaining to the implementation of the Project.

5. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Sri Lankan counterpart personnel on technical matters pertaining to the implementation of the Project.

6. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established whose functions and composition are described in Annex VI.

V. JOINT EVALUATION

Evaluation of the Project will be conducted jointly by the two Governments through JICA and the Sri Lankan authorities concerned, (at the middle and) during the last six months of the cooperation term in order to examine the level of achievement.

VI. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of Sri Lanka undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in technical cooperation for the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in Sri Lanka except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

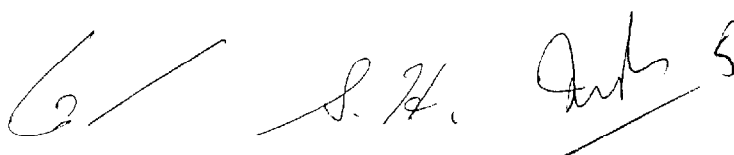
VII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

VIII. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five years from October 1, 1996.

ANNEX I	MASTER PLAN
ANNEX II	LIST OF JAPANESE EXPERTS
ANNEX III	LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT
ANNEX IV	LIST OF SRI LANKAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL
ANNEX V	LIST OF LAND, BUILDINGS, AND FACILITIES
ANNEX VI	JOINT COORDINATING COMMITTEE

The block contains three handwritten signatures or initials. From left to right: a stylized signature that appears to be 'G', a signature that appears to be 'S.H.', and a signature that appears to be 'J. H. S'.

ANNEX I
MASTER PLAN

1. Objective of the Project

1-1. Overall Goal:

To make an effort for the improvement in the quantity and quality of nurses in Sri Lanka.

1-2. Project Purpose:

A model school of nursing will be established.

2. Outputs of the Project

2-1. Present situations surrounding nursing education will be identified.

2-2. Model management of a nursing school will be established.

2-3. Teaching methods of nursing will be modified.

2-4. An ideal environment for nursing education will be created.

3. Activities of the Project

3-1-1. To collect data on the teaching environment of the 10 nursing school.

3-2-1. To plan, implement and evaluate school management.

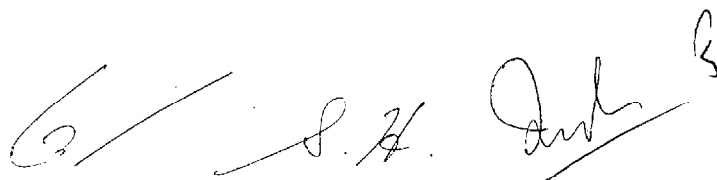
3-2-2. To enable the school to formulate a vision of its own.

3-3-1. To introduce new methods of nursing education wherever relevant.

3-3-2. To provide training in developing teaching materials.

3-3-1. To provide equipment and materials for practical training.

3-3-2. To supply relevant books for the school library.

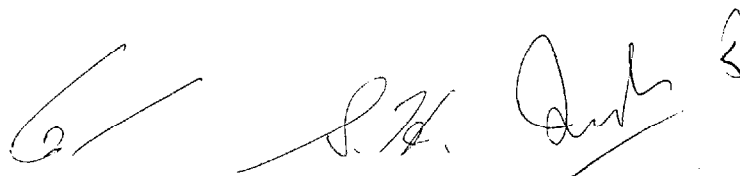
The block contains three handwritten signatures or sets of initials. The first is a stylized 'G' with a diagonal line. The second is 'S.H.' with a flourish. The third is a cursive signature followed by a large 'B'.

Annex II

LIST OF JAPANESE EXPERTS

1. Team Leader
2. Project Coordinator
3. Experts in the following fields:
 - (1) Enhanced teaching methodology
 - (2) Production of audio-visual materials
 - (3) Clinical skills
 - (4) School management and administration.
 - (5) Other related fields mutually agreed upon as necessary

The request for experts will be made through submission of an application (A-1) form by Ministry of Health (hereinafter referred to as "MOH"), Government of Sri Lanka.

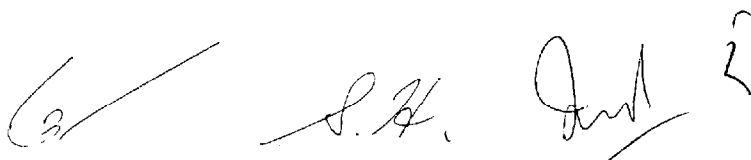


Annex III

LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. Equipment for training and education of nursing
 - (1) Audio-visual equipment
 - (2) Training dummies
 - (3) Anatomical human bodies
2. Equipment for other related fields mutually agreed upon as necessary

The request for the equipment will be made through the submission of an application (A-4) form by MOH, the Government of Sri Lanka, on an annual basis.

Handwritten signature and initials in black ink, appearing to be 'S.H. Ind' followed by a stylized mark.

Annex IV

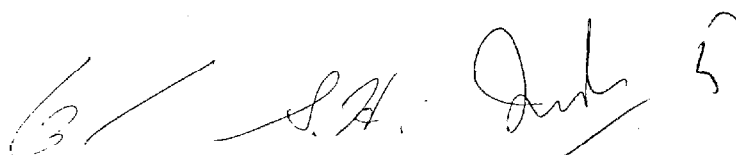
LIST OF SRI LANKAN COUNTERPARTS AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Steering Committee Members

- 1.1 Secretary, Ministry in charge of the Subject Matter of Health (Chairperson)
- 1.2 Director General of Health Services
- 1.3 Deputy Director General of Health Services (Planning)
- 1.4 Deputy Director General of Health Services (Logistics)
- 1.5 Deputy Director General of Health Services (Medical Services)
- 1.6 Director, Nursing Education
- 1.7 Director, Nursing Services
- 1.8 Chairman, Sri Jayawardenepura General Hospital
- 1.9 Director, Sri Jayawardenepura General Hospital
- 1.10 Chief Matron, Sri Jayawardenepura General Hospital
- 1.11 Deputy Chief Matron, Sri Jayawardenepura General Hospital

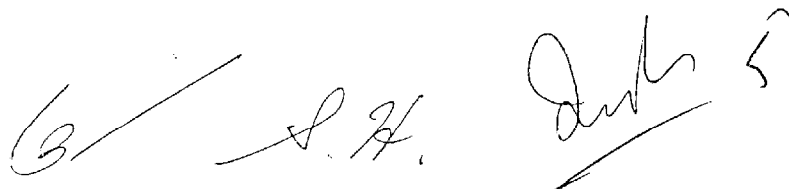
2. Counterparts in the following fields:

- (1) Enhanced teaching methodology
- (2) Production of audio-visual materials
- (3) Clinical skills
- (4) School management and administration.
- (5) Other related fields mutually agreed upon as necessary

Handwritten signature and initials, possibly reading 'S.H. Indu' with a flourish.

Annex V
LAND, BUILDING, AND FACILITIES

1. Land
2. Buildings and facilities
 - (1) Sufficient space for the implementation of the Project
 - (2) Offices at MOH, SJGH and relevant facilities for Team Leader and Japanese experts
 - (3) Facilities such as electricity, gas, water supply, sewerage system, telephone service and furniture necessary for the Project activities.
 - (4) Other facilities mutually agreed upon as necessary

Three handwritten signatures in black ink, arranged horizontally. The first signature on the left is a stylized 'G' with a diagonal line. The middle signature appears to be 'S.H.'. The signature on the right is more complex, with a large 'D' and a small '5' at the end.

Annex VI
JOINT COORDINATING COMMITTEE

1. Functions

The Joint Coordinating Committee will meet at least once a year and whenever a need arises, and work :

- (1) To formulate the annual work plan of the Project within the framework of the R/D
- (2) To monitor the progress of the Project
- (3) To evaluate the activities of the Project
- (4) To discuss other matters relevant to the Project

2. Composition

- (1) Chairperson: Chairperson of the Steering Committee

- (2) Members: Sri Lankan side

- a) Members of the Steering Committee
- b) Director General, Department of External Resources, Ministry of Finance and Planning
- c) Director General, Department of National Planning, Ministry of Finance and Planning
- d) Director General, Department of National Budget, Ministry of Finance and Planning

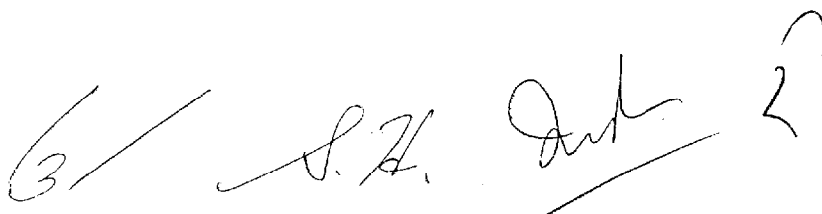
- (3) Members: Japanese side

- a) Chief Advisor
- b) Coordinator
- c) Japanese experts
- d) Resident Representative of JICA in Sri Lanka
- e) Other personnel dispatched by JICA, as necessary

- (4) Observers:

Representatives of the Embassy of Japan in Sri Lanka

- (5) The Joint Coordinating Committee can invite any related person to discuss specific issues

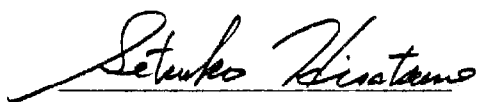
The block contains several handwritten signatures and initials in black ink. From left to right, there is a large, stylized signature that appears to be 'G.', followed by 'S.H.', and then a signature that looks like 'JICA'. To the right of these is a large, handwritten number '2'.

**TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
AND PROJECT DESIGN MATRIX
OF
THE NURSING EDUCATION PROJECT**

The Japanese Implementation Study Team (hereinafter referred to as "the Project") and the Sri Lankan authorities concerned have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation and the Project Design Matrix of the Nursing Education Project (hereinafter referred to as "the Project") as attached hereto.

This schedule and the matrix have been formulated in connection with the attached document of the Record of Discussions signed between the Team and the Sri Lankan authorities concerned for the Project, on condition that the necessary budget be allocated for the implementation of the Project and that the schedule and the matrix are subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of implementation of the Project.

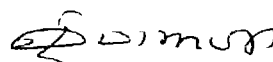
Colombo, May 23rd, 1996



Dr. Setsuko HISATSUNE
Leader,
Implementation Study Team,
Japan International Cooperation Agency,
Japan



Mr. B. H. Passaperuma
Deputy Director,
External Resources,
Ministry of Finance



Dr. Dudley Dissanayake
Secretary,
Ministry of Health,
Highways, and Social Services



Dr. J. B. Peiris
Chairman,
Sri Jayawardenapura General Hospital



TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION

I. ACTIVITIES

YEAR I July, 96-Mar. 97	YEAR II Apr. 97-Mar. 98	YEAR III Apr. 98-Mar. 99	YEAR IV Apr. 99-Mar. 00	YEAR V Apr. 00-Mar. 01
----------------------------	----------------------------	-----------------------------	----------------------------	---------------------------

- | | | | | |
|--|--------|--|--|--|
| 1. To carry out basic study on nursing education of 10 nursing school | -----> | | | |
| 2. To evaluate substances of implementation based on the plan of school management | -----> | | | |
| 3. To draw up a vision of nursing school's own | -----> | | | |
| 4. To transfer new teaching methodology on nursing education | -----> | | | |
| 5. To carry out training in developing teaching materials | -----> | | | |
| 6. To provide equipments and materials for practical training | -----> | | | |
| 7. To provide reference books for library in nursing school | -----> | | | |

II. INPUTS BY JICA

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. Dispatch of Japanese Experts | | | | |
| A. Team Leader | -----> | | | |
| B. Coordinator | -----> | | | |
| C. Nurse of field in teaching methods | | | | |
| D. Nurses of field in clinical skills | | | | |
| E. Nurse of field drawing up the teaching materials for nursing education | 4 - 5 long-term experts -----> | | | |
| F. Experts in other fields | | | | |
| 2. Counterpart Training in Japan | | | | |
| A. Tutors to study school management & teaching methods | 2 - 3 persons -----> | | | |
| B. Other fields as necessary | | | | |
| 3. Provision of the equipment for Technical Cooperation | * | * | * | * |
| 4. Japanese Mission to Sri Lanka | Consultation Team Consultation Team Evaluation Team | | | |

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION

III. INPUTS BY SRI LANKA

	YEAR I July, 96-Mar. 97	YEAR II Apr. 97-Mar. 98	YEAR III Apr. 98-Mar. 99	YEAR IV Apr. 99-Mar. 00	YEAR V Apr. 00-Mar. 01
1. Assignment of personel					
A. Ministry of Health					
B. Sri Jayewardenapura General Hospital					
2. Office spare					
A. Ministry of Health					
B. Sri Jayewardenapura General Hospital					
3. Annual Report	*	*	*	*	*

Staffing in accordance with Nursing Education Project

PROJECT DESIGN MATRIX FOR NURSING EDUCATION IN SRI LANKA

	NARRATIVE SUMMARY	VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTION
GOAL	To make an effort the improvement of the quantity and quality of nurses in Sri Lanka.	Satisfaction in the number of a regular nurse in SJGH after 5 years. Increase in number of nurse in Sri Lanka after 5 years.	Statistics data of related organization In-depth analysis on existing statistical data	Financial support Administrative and reporting system Current nurse policy will continue at national level
Pre-Condition	A model school of nursing will be established.	Introduction of the latest learning and skill on nursing for nurse students and nurses.	Questionnaires to nurse related personnel Status analyses on nurse related personnel's activities Research and report of statistics data on nursing education of national and private nursing school	Priority of the project will be continued by government.
Objectives	1. Present Situations surrounding nursing education will be identified. 2. Model management of a nursing school will be established. 3. New teaching methods of nursing will be established. 4. An ideal environment for nursing education will be created.	1-1. Number of nurse student 1-2. Number of nurse lecturer 1-3. Number of clinical lecturer 1-4. Level of professional skill on nursing 1-5. Present status of nurse staff were trained by experts 3-1. Lesson form of nursing education 3-2. Practice teaching form of nursing education 4-1. Utility level of equipments 4-2. Quality, quantity and category on equipments	Research and record of all the nursing school by survey staff Research and record of all the nursing school by counterparts Annual report and training activity plan of Government	Trained staff will be allocated appropriately in Sri Jayewardenepura Hospital. Appropriate level of annual budget will be allocated to nursing school. Supply of nurse students will be stabilized. Public peace in the country will be stabilized. Support of government will be practiced according to the plan.
Activities	1. To collect data on the teaching environment of the 10 nursing school. 2. To plan, implement and evaluate school management. 3. To enable the school to formulate a vision of its own. 4. To introduce new methods of nursing education. 5. To provide training in developing teaching materials. 6. To provide equipment and materials for practical training. 7. To supply relevant books for the school library.	INPUTS (Japanese Side) 1. Dispatch of Japanese experts 2. Training of Sri Lanka counterparts in Japan 3. Supply of equipments 4. Other necessary supplies (Sri Lanka side) 1. Allocation of counterparts for Japanese experts 2. Expense for local cost 3. Provision of office space for Japanese experts		Government will practice Management and administration of nursing school. To obtain cooperation and comprehension of related nursing school.
				Pre - Condition Government will allocate fund, skill, and staff for project.

Out

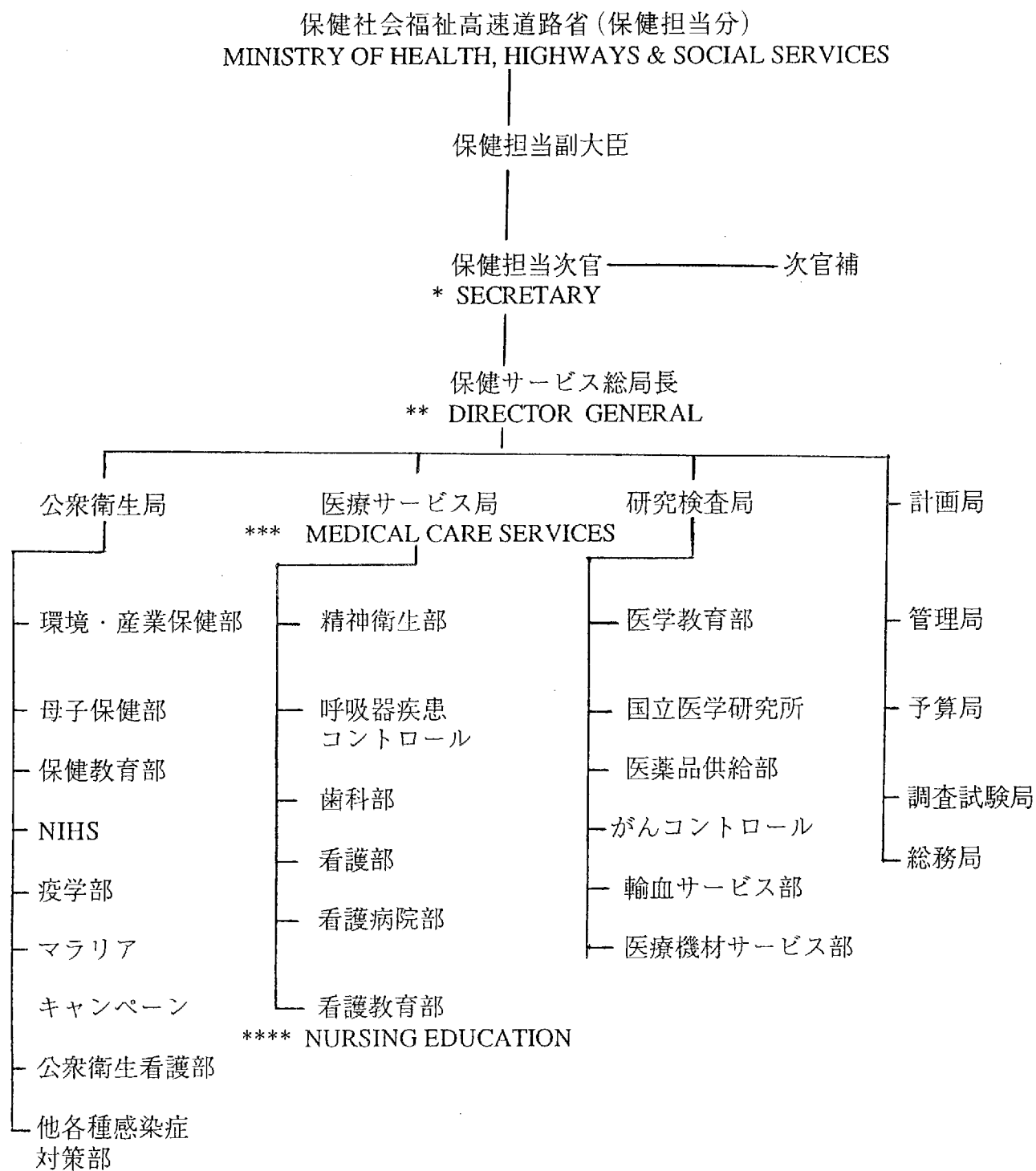
② プロジェクトデザインマトリックス (和文)

Project Design Matrix for the Nursing Education Project in Sri Lanka

プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
上位目標 スリランカ全体の看護婦の質的・量的向上を図る	1.5年後のSJGH看護婦の充足率 2.将来のスリランカ看護婦の充足率	関係機関における既存の資料	
プロジェクト目標 看護教育のモデル校を設ける	看護学生、看護婦に対する最新の看護知識・技術の導入	1.看護従事者へのアンケート調査 2.看護従事者への状況調査 3.国立・私立看護学校の教育に関する資料、統計の調査報告 4.SJGHの統計資料	スリランカ政府の本件に対するプライオリティが持続する
成果 1.スリランカ全体の看護教育の実態が把握出来る。 2.学校運営管理の新しいモデルが出来る。 3.教育方法の新しいモデルが完成する。 4.モデル的な教育環境が完成する。	1-1.看護学生数 1-2.看護教員数 1-3.臨床指導者数 1-4.専門的技術レベル 1-5.訓練を受けたスタッフの活動状況 2-1.予算管理体制の状況 2-2.教員の就業時間の状況 2-3.学生寮の管理状況 3-1.看護教育の授業形態 3-2.看護教育の実習形態 3-3.教員間の研修回数 4-1.機材の利用度 4-2.教材の種類・量・質	1.保健省の年次報告書 2.看護従事者へのアンケート調査 3.サーベスタッフによる看護学校の調査と記録 4.カウンターパートによる看護学校の調査と記録	1.政府が計画通り支援を行う。 2.看護学生の供給が安定している。 3.スリランカ政府がSJGHの看護教育に高いプライオリティを起し続ける。 4.看護学校への運営予算が毎年継続的に確保される。
活動 1.スリランカ全体の看護教育のベースラインサーベを行う。 2.学校運営計画を策定し、実施評価する。 3.学校独自のビジョンを作成する。 4.新しい教育法を教授する。 5.教材作成技術を指導する。 6.実習教材を供与する。 7.必要図書を供与する。	投入 日本側 専門家派遣 長期 名 (リガー、) 短期 約 名 (他) 機材供与 約 億円 (医療機器、情報機器、車輛等) 研修 日本研修 年間 2～3 名 スリランカ側 カウンターパート配置 プロジェクト運営予算の確保 プロジェクトオフィスの提供 プロジェクト支援体制の確立		前提条件 政府はプロジェクトに必要な資金、技術、人員を配置する。

Note: This matrix is subject to change within the framework of the Record of Discussions when the necessity arises in the course of the Project implementation.

③ 保健省組織図



* Dr. Dudley Dissanayake
 ** Dr. Reggie Perera
 *** Dr. K.C.S. Dalpadatu
 **** Ms.N.C. de Costa

II．計画打合せ調査団報告書

1 . 計画打合せ調査団派遣

1 - 1 調査団派遣の目的

本件プロジェクトは1996年10月に開始され、無償資金協力による看護学校完成前の第1段階として、長期専門家(チーフアドバイザー、業務調整員)とスリ・ランカ側カウンターパートの協力により、看護学校(モデル校)設置の参考とするための全国の看護学校における看護教育のベースラインサーベイ、看護学校設置のための準備を行っており、1997年度からの本格的な活動計画策定の段階にある。

こうしたタイミングをとらえ、これまでのプロジェクトの進捗状況を当初計画とこれまでの活動の整合性の観点からレビューし、課題や問題点を把握するとともに、今後の(とりわけ1997年度の)活動計画とめざすべき目標を設定し、日本、スリ・ランカ双方でこれを確認するため、計画打合せ調査団が派遣された。

1 - 2 調査団の構成

	担 当	氏 名	所 属
団長	総 括	和賀 徳子	厚生省看護研修研究センター教官
団員	看護教育	豊島 閲子	財団法人国際看護交流協会研修事業部長
団員	協力計画	大塚 卓哉	国際協力事業団医療協力部医療協力第一課職員

1 - 3 調査日程

日順	月日	曜日	移動および業務
1	3月30日	日	12:00 移動(成田→シンガポール：SQ997) 21:00 移動(シンガポール→コロンボ：SQ402)
2	3月31日	月	08:45 JICAスリ・ランカ事務所表敬 / 打合せ 09:20 在スリ・ランカ日本大使館表敬 / 打合せ 10:30 スリ・ランカ大蔵省外国援助局表敬 / 協議 11:35 スリ・ランカ保健省表敬 / 協議 15:35 スリジャヤワルダナプラ総合病院(S J G H)表敬 / 協議 16:15 プロジェクト専門家打合せ
3	4月1日	火	09:20 S J G H協議 15:00 カンダナ看護学校表敬 / 視察 16:05 コロンボ北病院(ラガマ)表敬 / 視察
4	4月2日	水	10:10 ゴール看護学校表敬 10:40 カラピティヤ総合病院視察 12:05 ゴール看護学校協議
5	4月3日	木	09:40 S J G H協議 11:35 スリジャヤワルダナプラ看護学校協議 / 視察 14:20 S J G H協議 15:35 スリ・ランカ公開大学(看護コース)表敬
6	4月4日	金	14:20 プロジェクト運営委員会 15:50 議事録署名
7	4月5日	土	10:00 議事録署名(パッサペルマ大蔵省外国援助局課長)
8	4月6日	日	23:55 移動(コロンボ→シンガポール：SQ401) 和賀団長 / 豊島団員)
9	4月7日	月	02:40 移動(コロンボ→バンコク：TG308) 大塚団員) 09:45 移動(シンガポール→成田：SQ012) 和賀団長 / 豊島団員) 10:30 移動(バンコク→カトマンドゥ：TG311) 大塚団員)

1 - 4 主要面談者

所属先名	面談者名	職 名
在スリ・ランカ日本大使館	金井 要	一等書記官
JICAスリ・ランカ事務所	狩野 良昭 藤原 純子	所長 副参事
スリ・ランカ大蔵省外国援助局	B・H・パッサペルマ	課長
スリ・ランカ保健省	D・ディサナヤケ K・C・S・ダルパタドゥ S・A・P・グラニサラ N・C・デ・コスタ	次官 計画課長 局長 看護教育課長
スリジャヤワルダナプラ総合病院(S J G H)	J・B・ピーリス D・L・デ・ラネロール M・ダヤナンダ	会長 院長 総婦長
スリジャヤワルダナプラ看護学校	B・S・アベイワルダナ S・サマラクラワ	教官 教官
カンダナ看護学校	H・W・ハルケビダナ W・D・K・ウィジャヤンシ D・S・ヘティアラチチ K・パシラナ	副校長 教官 教官 教官
コロンボ北病院(ラガマ)	P・G・メヒパラ K・アマラシング	院長 総婦長
ゴール看護学校	M・G・B・シルバ C・ヤガハウィタゲ S・アベイセベラ A・W・J・チャンドラ L・ソマパラ	校長 副校長 教官 教官 教官
カラピティヤ総合病院	K・L・セナナヤカ	婦長
スリ・ランカ公開大学(看護コース)	N・B・ラトナシリ C・デ・シルバ P・C・H・サマラセケラ U・ハンダ T・マーセネス V・ペレラ	健康科学課長 コーディネーター コンサルタント コンサルタント 教育アシスタント 教育アシスタント

２．計画打合せ調査結果

２－１ 調査概要

２－１－１ スリ・ランカ側関係各省との協議

スリ・ランカ側関係各省を表敬し、本調査団の目的につき説明し、これまでの本プロジェクトの活動をレビューするとともに、今後の活動計画(特に1997年度の活動計画)につき協議を行った。

協議概要は以下のとおりである。

(1) 大蔵省外国援助局(パッサペルマ課長)

保健医療分野における看護婦の役割は、スリ・ランカで一般的に認識されている以上に大きいと理解している。よって、本件はスリ・ランカにおける看護教育の拡充のみならず、保健医療分野全体の改善につながる重要なプロジェクトであると認識している。1996年10月にプロジェクトを開始して以来、リーダーおよび業務調整員を中心に、順調にプロジェクト活動を実施しているようであるが、看護教育のマネージメントおよび看護婦養成のためのトレーニングカリキュラムの確立が今後の最重要課題であり、スリ・ランカ側にとっても1997年度は本プロジェクトが本格的に始動する勝負の年であるといえる。残念ながら、スリ・ランカにおいて医者が看護婦を軽視しているのは事実であり、また、保健医療分野であるため、大蔵省として提言できる領域も限定されていることは否めないが、今後、できる限りの協力を行いたいと考えている。

(2) 保健省(ディサナヤケ次官)

デ・コスタ看護教育課長の日本での研修の件では大変お世話になった。スリジャヤワルダナプラ看護学校の新校舎は1999年3月に建物が完成し、同年6月にスリジャヤワルダナプラ総合病院(SJGH)から独立し、新体制での開校を予定しているが、本プロジェクトに関しての日本への研修員は同校で働くように調整したいと考えている。

同校教員の選定については、現在も公募による公平な選定を行っているが、今後、JICA側の立ち会いのもとで行うことを約束する。

(3) SJGH(D・L・デ・ラネロール院長)

将来、看護婦の不足が予想されるため、1997年7月に25人の学生の追加入学を予定している。現在の学生(2年生)は1999年11月に卒業予定であるが、1999年6月には新たに100人の学生が同校に入学する予定であり、一時期、3学年が重なることになり、現在の7人

の教員では対応できない。そのことは十分認識しているが、看護婦不足の解消が最重要課題であるので、教官の補充については同病院の理事会に通して何とかしたい。また、今後、保健省、S J G Hおよび看護学校間の予算の流れについても、効率的な体制を確立していきたい。

2 - 1 - 2 プロジェクト運営委員会の実施

スリ・ランカ側関係機関との協議を踏まえ、4月4日、保健省にてプロジェクト運営委員会が開催された。

ディサナヤケ委員長(保健省次官)の司会進行のもと、プロジェクトより1996年度の活動および1997年度の実行計画につき説明がなされた。また、本調査団長より調査報告も行われた。

同委員会においてスリ・ランカ側が了解した日本側からの要求項目は以下のとおりである。

- ・スリ・ランカ側は各看護学校においてみられる看護教育機材の不足を解消する。
- ・保健省はデ・コスタ看護教育課長をサポートするためのアシスタントをつける。
- ・保健省は本プロジェクトに車を供与する。

2 - 1 - 3 ミニッツ署名交換

上記の協議内容を踏まえ、和賀団長とスリ・ランカ側(ディサナヤケ保健省次官、ピーリスS J G H会長、パッサペルマ大蔵省外国援助局課長)との間で議事録に署名を行った。

2 - 1 - 4 看護学校視察

スリ・ランカにある11校の看護学校のうち、カンダナ看護学校(コロンボ市北部)とゴール看護学校(ゴール市)の2校、およびその臨床実習実施病院(それぞれ、コロンボ北病院(ラガマ)、カラピティヤ総合病院)の視察を行った。視察結果は以下のとおりである。

(1) カンダナ看護学校

学生数は96人(入学時は116人)で、そのうち80人が寮生活を営んでいる。コロンボ北病院(ラガマ)までは約5キロメートル(車で約15分。渋滞がひどいとさらに時間がかかる)あり、学生は病院まで学校所有の2台のマイクロバスにより移動している。現在、講義はシンハラ語で行われているが、今後、英語による講義も予定している。

学校の設備は他校と比較して整備され、管理が行き届いている。また、教室は広く机・椅子も完備されている。ただし、保健省から与えられている図書費は年間2万ルピー(約4万円)に過ぎず、専門書などはほとんど買えないのが現状である。また、病院における臨床実習が週に50時間(日本は週に30時間)と多いため、学生の負担も大きい。

(2) コロンボ北病院(ラガマ)

ベッド数は1,100床、看護婦は460人、患者数は1,000人以上。平均入院日数は3日間と短く、分娩後の退院も48時間以内となっている。院長は非常に若い、看護教育システムの改善は病院の改善にもつながるという考え方をもっており、看護教育に対して理解がある印象を受けた。また、患者のプライバシーへの配慮も有していた。

一方、病院の施設はよいとはいえず、エレベーターなど故障したままで、放置してある機材が目についた。また、衛生状態もよいとはいえず、例えば外科病棟では、血で染まった枕をそのまま放置していたり、異臭が漂っていたりした。

(3) ゴール看護学校

学生数は150人。講義はシンハラ語で行っている。学生の臨床実習場所であるカラピティヤ総合病院までは約5キロメートル(車で約10分)であり、学校と病院間の道路の舗装状態は悪い。学生は学校所有のバスで移動している。

(4) カラピティヤ総合病院

ベッド数は1,000床以上。大きく3病棟に分かれており、調査団およびプロジェクト専門家は3組に分かれて視察を行った。ちょうど学生の臨床実習の試験が行われていた。学生の臨床実習時間は7:00～16:00までの9時間である。病院の衛生状態は決してよいとはいえない。

2 - 2 総括

(1) 主要調査結果 - 概要

< 1996年10月以降の進捗状況 >

- 1) 長期専門家の活動拠点がS J G Hの中に設置され、設備が整えられつつある段階であるが、以下に示すようにプロジェクトとしての活動が、スリ・ランカ側とのよい関係をつくりながら円滑に進められている。
- 2) 長期専門家(佐々木リーダー、小林業務調整員)による1996年10月から1997年3月31日までの調査結果と活動内容を、資料に基づいてスリ・ランカ側とともに双方で確認した。

10校の国立の看護学校のうち、Batticaloa校、Jaffna校を除いた8校およびS J G H校の調査が予定どおり終了し、統計的整理の段階にある。

活動内容としては諸会議のうち、作業委員会が1996年11月および1997年1月に開催され、学校設立の準備活動が進められている。この会議は2～3カ月ごとに開催される予定である。スリ・ランカ側のメンバーとともに円滑に会議が進められているこ

とを確認した。

現在は、学則、寄宿舍に関する規則について、日本のものを参考にしながら検討をしている段階である。

1997年の活動内容のひとつであるワークショップの開催について、デ・コスタ保健省看護教育課長と開催日時、テーマ、プログラム、参加者の人数(教員：25名、実習病院側：49名)、参加者の基準等について協議し、円滑に進められていた。

- ・ワークショップ修了者には「修了証書」が出される

- ・修了証書はデ・コスタ看護教育課長、佐々木リーダーの名前で出される予定

3) 1996年度派遣の長期専門家(看護教育担当)として大野夏代氏が1997年3月19日より着任し、佐々木リーダーのもとにプロジェクトのメンバーとしてとけこみ、積極的に活動を開始していた。

4) 日本への研修員の派遣のうち、「看護教育」の分野で、デ・コスタ看護教育課長が1997年3月4日～3月29日の3週間派遣された。この研修の報告をスリ・ランカ側とプロジェクトのメンバーとともに聞くことができた。

- * 日本の看護婦は看護が好きである

- * 日本の看護婦は「看護」をしている

- * 日本の看護学生は授業料を払って教育を受けている

- * 臨床実習は「教育」として行われている

- * 日本の看護学生は寄宿舍の管理を自分たちで行っている

- * 日本にはすばらしい施設設備を備えた学校もあるが、そうでないところもある

- * スリ・ランカでは看護の「量」のみに着目しているが、「質」を考えなければならない
カリキュラムの見直しをする必要性を強く感じ、5月のワークショップ終了後に検討委員会を設け取り組みたい等の報告がされた。

- * また、日本の看護教員養成について知る機会がなかったことを残念がっていた。

今後のプロジェクトの推進にとって、彼女の派遣は有意義であったことを確認できた。

5) カンダナおよびゴールの2看護学校を視察し、器材の導入が待ち望まれていることを確認した。1996年度のは1997年6～8月には、いったんS J G Hに搬入され、そこから各学校に配分される予定である。電気系統等の変更をする必要がなく、円滑に導入されるものと思われる。

また、ゴール看護学校では、2年修了時の実技試験を視察できた。試験は、学生の実習病棟の婦長と他校の教員とが試験官になり実施されていた。これまでのスリ・ランカの看護教育で培ってきた技術(主として診療の補助技術)の確かさを確認できた。カリキュラムを何らかの形で改正するにしても、この点を考慮する必要性を感じた。

< 1997 年度計画に関して >

- 1) 基本調査として、1997 年度は実習病院に重点を移し、調査が継続される。
- 2) 1997 年度の派遣予定の樋口まち子氏(地域保健)は、プロジェクトへの参加に意欲的であることを確認できた。
- 3) 活動計画として、1997 年 9 月に予定されているワークショップは、日本からの専門家を招かず、大野、樋口の両氏を中心に行う予定である。
- 4) 1997 年 8 月と 1998 年 1 月の短期専門家として、両期間とも「基礎看護実習」の領域の専門家を希望している。
- 5) 日本への 2 名の研修員の派遣は、予定どおり実施されてよいことを確認した(1 名は S J G H のデ・ラネロール病院長であり、1 名はラトナプラ看護学校の看護教員アラッチチである)。
派遣研修員の選考にあたっては、J I C A のプロジェクトチームが参加することが確認された。
- 6) 1997 年度導入予定の器材もリストに従って、導入されてよいことを確認した。

(2) 以上の一連の調査、協議内容を踏まえ、日本、スリ・ランカ双方で確認し、ミニッツに取りまとめ、署名交換した。

(3) 今後の問題点(および展望)

- 1) 学校の開始時期について、デ・コスタ看護教育課長より次官が同席の場で、1999 年 6 月であるとの言葉があった。この時期が円滑に実現するように進められることを期待する。
- 2) プロジェクトに対するスリ・ランカ側の信頼と期待が高い一方、第 1 回の運営委員会(Steering Committee)の会合が開催されたが、メンバー構成からみたとき、合同調整委員会(Joint Coordinating Committee)との混乱があった。誰が Chairperson であるか、何について協議するかという意識が薄かったように見受けられた。
この会で重要な事項が検討されることから、この会の運営を軌道に乗せることが重要である。
- 3) 看護学校の運営予算の流れとして、国立の看護学校としてスタートする時点から、直接財務局から看護学校におりてくるという見解である。(デ・コスタ課長談)

現在の予算の流れには、大きく 2 つある。

直接、財務局から学校長へ

財務局から病院(長)へ、病院(長)から学校長へ

(S J G H は自治病院であるが、後者のタイプに属する)

* 調査団とＳＪＧＨ側との協議の段階では、国立の看護学校になってからも のままの
ほうが人件費の点からよいという考えが出された。

* 運営委員会の場合、 の場合でも、学校の予算と病院の予算を分けて運営することが
次官から提案された。

* この問題は看護学校(長)の組織上の位置づけの問題とも関連するので、今後の重要な
課題として検討を継続する必要がある。

- 4) ＳＪＧＨ側との協議の席で、看護婦不足(看護婦：420 / ベッド数：660)の対策として、
現在、看護学生が44名いるが、保健省では新たな入学を予定していないので、ＳＪＧＨ独
自に25名程度(年間の退職者数に匹敵する)の新入生を取りたい旨が提案された。

仮に、新入生を受け入れた場合の問題として、以下の点をあげ、検討した。

1999年6月(国立看護学校としての始業)～1999年10月(現在の44名の卒業)の3
コースの重複

1999年10月～2000年6月までは、2コースの重複

教員が国立の看護学校の開設準備に携われない

7名(予定)の教員で3コースを担当することは困難である

7名の教員は国立の看護学校のための要員であり、25名のための教員は考えられ
ていない

2000年6月の入学生(2回生)のための準備が困難

新しい校舎と以前のままの校舎で教育を受ける2つのタイプがでる

検討の結果、この提案は引き下げられたが、看護婦不足という問題は今後も何らかの形
でプロジェクトに影響を及ぼしてくることが考えられる。

- 5) 日本への研修員の派遣にあたって、研修場所との連絡調整に直接、佐々木リーダーが携
わっている現状がある。日本国内で、専門的な計画調整を行えるようにする必要がある。
- 6) 長期専門家として1997年8月から派遣予定の樋口氏に関して、佐々木リーダーから、日
本の看護教育に関する全体的な知識(あるいは専門とする地域保健に限定して)を得るため
の何らかの研修が必要ではないかという提案が出された。
- 7) 現在のＳＪＧＨの看護教員2名のプロジェクトへの参加意識は、やや消極的であるよう
に見受けられた。しかし、「寮の規則のシンハラ語を英訳して会に参加します」という発言
からは、具体的な行為がイメージできるようになれば、積極的になるのではないかと思わ
れる。
- 8) 看護学校の基本調査に対して、C校が非協力的であるということであるが、単に学校長
個人の考え方であれば問題はないと考えるが、今回の調査では明らかにできなかった。周
囲の学校が変われば自ずと変わらざるを得ないであろう。

国立の看護学校の「学校長会」のようなものを組織する必要があるかどうか、今後検討してみるのもよいのではないか。

- 9) 運営委員会のなかで次官から、日本とスリ・ランカのカリキュラムの違いに着目し、現在スリ・ランカの内容にはない「老年看護学」をぜひ取り入れるように提案された。メンバー意識がカリキュラムに注がれるよい機会であった。
- 10) また、同委員会のなかで、これまでの進捗状況のなかから、デ・コスタ看護教育課長の超多忙な状況とそれによるプロジェクトへの影響が問題点として出され、その場で、彼女の補佐として現在のP B Sの教員を1人つけることが約束された。
- 11) また、長期専門家が活動に使用できる車1台も同委員会のなかで約束された。

2 - 3 実施計画の進捗状況

2 - 3 - 1 協力活動の進捗状況

プロジェクト開始後の長期専門家による協力活動は主に次の3点である。調査団はその活動内容について、スリ・ランカ側関係者ならびにプロジェクト専門家との意見交換、活動現場の視察等により確認し、課題や問題点の把握を行った。

国立看護学校の実態調査について

看護学校開設準備活動について

中堅技術者養成のためのワークショップ開催準備活動について

(1) 国立看護学校の実態調査について

全国の看護学校の現況調査から、モデル看護学校設置のための方向性および活動内容を探ることを目的とした本調査は、国立看護学校10校のうちBatticaloa校、Jaffna校(いずれも紛争地域)を除く8校およびS J G H看護学校の計9校を対象に実施され、予定どおり終了している。

調査方法は、アンケートならびにインタビュー形式による。調査期間はアンケート調査が2月16日より3月19日の約1カ月間であり、続いて佐々木リーダー、小林調整員の各対象校および関連病院での関係者へのインタビューが行われた。

調査の焦点は次の4点に置かれ、約21項目にのぼっている。

学校運営に関する統計

学校の建物および設備に関する情報

実習病院の職員、患者に対する統計

看護学校、実習病院の現況視察

アンケートの回収状況は9校中、7校がインタビュー時の回収であり、期限内回収は2校にとどまった。これにはスリ・ランカの状況として、統計的感覚が薄い、紙不足などが影響を及ぼしているといえる。調査団が訪問したカンダナ、ゴール看護学校のアンケート(回答)には量的に大きな開きがみられたが、このことは、他の調査対象校に共通するものと予測される。

調査の結果は今後の集計、まとめによるが、長期専門家の報告による調査結果の概要報告では、施設の老朽化、教員、設備の不足、学生の募集が毎年定期的には実施されない、入学時期が一定でない、学生間の教育レベルに差がありすぎる、などがあげられ、看護教育をとりまく環境の厳しい一面を浮き彫りにしている。

スリ・ランカにおける看護分野で、同様の調査が行われたのは初めてのことである。プロジェクトがうまく発展し実施されるためには、国の状況にプロジェクトを適合させることが必要である。その意味でも今回の調査で全国の看護教育の状況がおおむね把握されたことの意義は大きいと思われる。

前述の調査結果の概要は、スリ・ランカの看護教育が抱える課題の多くが、保健・医療体制や教育システムとの関連を示している。プロジェクト推進上、考慮を要する点と思われる。

なお、佐々木リーダーらによる各看護学校および病院訪問はプロジェクトへの関心を喚起しており、今後「中堅技術者養成コース」の実施、供与機材の有効活用等の点で好ましい影響をもたらすものと思われた。

(2) 看護学校(モデル校)設置準備活動

1996年5月23日に締結されたR/Dには、看護学校設立準備に向けて運営委員会、合同調整委員会の設置が謳われている。プロジェクトチームは双方の委員会開催に先立ち、モデル校開校に関する一切の事務的準備を進めるため、スリ・ランカ側カウンターパートとの協議による、作業委員会(Operation Committee)を発足させた。これは、看護学校側に本委員会を置き、そのメンバーのなかには保健省看護教育課長、SJGH院長、事務長、看護部長らのほか、その他の看護学校教員をも含んでいる。他方、分化委員会は臨床指導体制を整えるために設置され、SJGHの看護管理者ならびにSJGH看護教員をメンバーとしている。実際の会議は、学校設立の準備段階にあることから、表2-1のとおり合同作業委員会の形式で2回開催されている。討議内容はミニッツとしてまとめられ、会の円滑な進行が伺われる。

各委員会の実施状況は次のとおりであった。

表 2 - 1

開催月日	委員会名	参加委員	討議テーマ
1996年11月27日 (於 S J G H)	合同作業委員会	S J G H 院長 副看護部長 教員 佐々木リーダー 小林調整員 プロジェクト秘書	・ プロジェクトの T S I 確認 ・ 委員会の開催計画と討議事項の確認 ・ S J G H 側の教員退職に伴う募集・雇用について、ほか
1997年 1 月27日 (於 S J G H)	合同作業委員会	保健省看護教育課長 S J G H 院長 S J G H 看護部長 教員(3 名) 在スリ・ランカ J I C A 職員 佐々木リーダー 小林調整員 プロジェクト秘書	・ 学生の新宿舎に関する基本設計の説明 ・ 寮則について ・ S J G H による 3 人の教員募集・雇用について ・ 看護学校学則に関し、佐倉看護学校の学則の一部導入について ・ その他
1997年 4 月 4 日 (於保健省)	運営委員会	・ 保健省次官ほか 保健省関係者 3 名 ・ S J G H 理事長 ・ S J G H 院長 ・ J I C A 事務所長 ・ 佐々木リーダー ・ 小林調整員	・ 1996 年度プロジェクト報告 ・ 1997 年度プロジェクト計画確認 **(ob) 在スリ・ランカ日本大使館 一等書記官 (ob) 調査団・ 3 名

**(ob) オブザーバー

モデル看護学校の教員は 1999 年の開校時 10 名が予定されている。在職中の S J G H 看護教員 4 名のうち、退職予定者 1 名を除く 3 名はそのなかに含まれ、カウンターパートとして開設準備活動に参加している。

第 1 回合同作業委員会では、プロジェクトチーム側から開設準備に向け今後検討していくべき課題(案)が 18 項目にわたり提示されている。第 2 回目は、それらの項目にある教育哲学、組織、学則、カリキュラムの策定等のなかから、最も身近で具体的な課題である「学則」「寮則」が取り上げられ、日本の例を参考にしながら検討を進めている段階であった。

運営委員会の第 1 回目は、前記の 4 月 4 日、保健省においてディサナヤケ委員長(保健次

官)を議長とし開催された。その内容は1996年度プロジェクトの活動報告ならびに1997年度の計画についての説明であり、次の点について質問や要望が出され、確認された。

- 1) スリ・ランカの看護教育カリキュラムの時間数が多いのは、スリ・ランカの看護学生は給料を得て働きながら学んでいる(保健次官)、したがって、夏休みなどの休暇はない、1週間の就学時間は50時間である。
- 2) 1995年3月以降、看護学生の募集をしていないことについて、保健次官からは、「1998年から入学システムが変わる、看護分野では毎年入学できるようになるだろう」との説明があった。
- 3) カリキュラムに老人看護をいれてほしい。
- 4) スリ・ランカ側は、供与機材を受けるについて、管理上の規則をつくる。
- 5) プロジェクトチーム側からスリ・ランカ側に出され、了解された要望やスリ・ランカ側の見解は次の3点である。

看護学校の予算が不足している点について、「学校予算の流れはすべて直接学校にいくことが望ましい」との保健次官の見解が示された。

保健省は看護教育課長にアシスタントを1名つける。

保健省はプロジェクトのために車を1台準備する。

S J G Hの看護教員は作業委員会の中核として本プロジェクトにかかることが期待されている。「モデル校として全国の看護学校から、将来、見学者を迎えることを誇りに思う。有能な看護婦を養成したい。そのためには高い教育レベルを維持したい」4月8日の作業委員会に間に合うよう、シンハラ語の学則を英訳する」など、S J G Hの教員から聞かれた言葉からプロジェクトに寄せる期待の大きさ、参加意欲を確認することができた。新しい看護学校の具体的な活動が進めば教員のより積極的な参加が期待できるものと思われるが、そのためには当面の教員不足(3名)がS J G Hにより早期に解決されることが望まれる。

(3) 中堅技術者養成のためのワークショップ準備活動

1997年度活動内容のひとつである、中堅技術者養成枠によるワークショップの開催については、プロジェクトチームとデ・コスタ看護教育課長の間で3回の準備会議がもたれ、日程、テーマ、プログラム、参加者基準、人数等について協議され、円滑に進められている。概要は次のとおりであった。

- 開催日程：1997年5月26日～31日(6日間)
- 開催場所：Sri Lanka Foundation Institute
- 対象者：74名(看護学校教員：12校/23名、卒後教育課程教員2名、実習

病院・指導者：18施設 / 49名)

* S J G Hからは最多の6名が参加予定となっている。

- テー マ : Clinical Supervision of Student Nurses
- 目 的 : 演習の意義の理解、教授法の習得を図るなど5項目のほか、スリ・ランカおよび日本の看護の現状を知らしめ看護の水準向上に資する。

調査団訪問時は各施設による人選の段階であり、締め切りを数日後に控えていた。

第1回ワークショップには、日本側から3名の短期専門家(講師)派遣が決まっている。

ワークショップ修了者には「修了証書」が出される予定である。

2 - 3 - 2 長期専門家派遣

1996年度末までに次の長期専門家が派遣され、初年度計画に沿った活動は前述のとおり、おおむね円滑に進められている。看護教育課長、S J G H院長、看護教員らカウンターパートとの「共働」関係が良好に保たれている証左ともいえよう。

チームリーダー : 佐々木正子氏(1996年9月25日～1998年9月24日)

業務調整員 : 小林 繁郎氏(1996年9月4日～1998年9月3日)

専門家(看護理論) : 大野 夏代氏(1997年3月19日～1999年3月18日)

(1) 活動拠点

長期専門家の活動拠点はS J G H 3階・有料病棟の3部屋(佐々木リーダー用、小林業務調整員用、秘書室用)が確保され、11月1日に事務所が開設されている。事務運営に必要な机、椅子、キャビネット、本棚、電話、コピー機、FAXなどの備品、機材は1996年度末までにほぼ揃い、事務所の基盤は整備されている。スリ・ランカ側の対応、協力は円滑であると判断された。

なお、大野専門家、1997年8月赴任予定の樋口専門家の事務室は4階有料病棟の2人部屋が当てられ、ドアの取り付け、壁の塗り替えが終わったばかりであった。机、椅子、戸棚等の備品はほぼ揃い、7月に予定されている1996年度の供与機材(テレビ・ビデオ等)の搬入を待つ状況であった。

(2) 事務所環境

有料病棟(20床)の一角に設置された事務所環境は、機材、資材等が置かれている業務調整員室、秘書室はやや狭いが、ほかは十分なスペースが確保されており、冷房設備、トイレ・シャワーが付設、人の出入りが少なく(同病棟の占床率50%)閑静であるなど、良好のようであった。電気、水道は時に止まることもあり、コンピューター、コピー機に支障を

来すこともあるようである。

なお、保健省内に設置される予定だった長期専門家用事務室は、同省内にスペースの確保ができず、実現されていない。看護教育課長デ・コスタ氏によれば、「保健省の拡張工事が計画されており、完成時には事務室が確保され、長期専門家との打合せがもっと容易になる。しかし、本年度(1997年1月～1998年1月)予算には組み込まれておらず、来年度に希望をつないでいる」とのことであり、今後の動向が期待される。

(3) 生活環境

佐々木リーダー、小林業務調整員が居住する区域は、市内でも最も安全で閑静な住宅街であり、S J G Hの事務所には車で20～30分の走行距離と、地の利は良好のようであった。専属のドライバー、お手伝いさんも信頼がおけ、安心して任せられる、生活上困っている点はとりたててないなど、おおむね快適な生活が送れているようであった。赴任後間もない大野専門家はホテル住まい中であり、JICA現地事務所が提携する不動産屋を通し、物件探しにあたるなど生活環境を整える段階にある。

2 - 3 - 3 研修員の受入れ

1996年度の研修員受入れ枠で日本に派遣されたカウンターパートは次の2名である。

Mrs. Ivimal Chandra de Costa (保健省看護教育課長)

: 1997年3月4日～3月29日(3週間)

Ms. Malinee W. Ranawaka (S J G H看護学校教員)

: 1997年3月25日～6月18日(12週間)

調査団は研修から帰国して間もないデ・コスタ看護教育課長から、以下の内容の報告を合同作業委員会メンバーとともに聞くことができた。

最も参考になり、印象に残った観察点、学んだ点として、

日本の看護婦は献身的に仕事をこなしている。

日本の看護婦は働くことを喜びとしているようだ。

機械や物品を注意深く扱い、管理が行き届いている。

準備段階から最後まで仕事を計画的に運んでいる(自分を受け入れてくれたすべての施設で感じた)。

日本の看護学生は授業料を払って学んでいる。よく勉強している。

臨床実習は教育として行われている。

看護学生の教育・監督は学校、病院双方のすべての看護職の総合的な係によってなされている。

看護学生は寄宿舍の管理を自分たちで行っており、ゴミひとつ落ちていない。

今後の課題としたいこととして、

院内教育プログラムの推進(国の看護婦は年功序列で研修の機会を得るが、1年目から教育する必要を感じている)。

新しい看護学校の学生はS J G Hで臨床実習を行うが、S J G Hの看護婦の継続教育を始めるべきだ。

看護の量より質の向上に力点を置きたい。日本の患者のベーシック・ヒューマン・ニーズは満たされている。

看護教育カリキュラムを見直すべきである。5月のワークショップ終了後、検討委員会を設け取り組みたい。

日本の研修で学び得なかった点として、教員養成校のプログラム、教育方法等があげられた。

本プロジェクト最初の研修員として、保健省看護教育課長が日本に派遣されたことの意義は大きい。それは、「ロールモデルとなり得る看護職を育てたい、看護学生の教育には現場の看護婦の継続教育が必要、教育カリキュラムの見直しが必要」等の点で認識を深められた点からも明らかであり、今後のプロジェクト推進に好ましい影響をもたらすものとする。

2 - 4 資機材の供与および利用状況

1996年度に供与される予定の資機材のスリ・ランカへの到着は1997年6月ごろに予定されている。機材はいったん、S J G Hに保管され、そこから各学校に配分される予定である。各看護学校の供与機材格納スペース、電気系統については、大きな問題はないことが確認された。

2 - 5 看護学校の視察結果

調査団は期間中、看護学校および実習病院各2カ所、さらに公開大学(Open University)を視察、前述のベースラインサーベイを基に実態の把握を試みた。

その結果は次のとおりである。

- 1) 看護学校(S J G H含む11校)の入学は1995年が最後であり、1994年、1996年の入学生は取っていないため、現在2年次1クラスが在学するのみである。これは大学の検定試験(Aレベル)の合格者が成績順で大学入学を許可されるというスリ・ランカの教育システムによるもので、1994、1996年は大学のintakeがないことによることが確認できた。
- 2) 看護教育のマスタープランに沿った、2年修了時の実技試験の場面の視察から、スリ・ランカの確立された試験システムを確認できた。一人一人の学生が他校の教員と病棟婦長により、2時間半にわたり「与えられた患者への対応」を評価されるもので、卒業時までには評価項目をクリアするよう指導される。ゴール看護学校(学生158人)の場合、試験に10日

間を要するなど効率的ではないにしても、個々の能力を育てるひとつの優れた方法であると思われた。今後、カリキュラムを見直すについて、この点を考慮する必要性を感じた。

3) 看護学校の教育器材、資材は少ないが、鍵のかかる戸棚の整理整頓はきちんとなされ、管理は行き届いている。ちなみに、ゴール看護学校の実習病院であるカラピティヤ総合病院には、看護学生用の戸棚が病院の予算で整備され、管理されていた。今後の供与機材の管理・保管についても問題はないように思われた。

4) 現行カリキュラムについて教員は「保健省からの指導であり、問題はない」等、現状に満足し、問題意識は薄いと思われた。

5) 実習病院側が期待する看護婦は、「スキルの優れた看護婦であり」「必要なスキルは学生が現場でさまざまなケースに接し、医師・看護婦から教わることで初めて身につく」との院長の見解があり、学生が長時間臨床で実習することの必要性が強調されている。医師の指示で即戦力として働ける看護婦の養成がスリ・ランカの看護教育の状況であり、カリキュラム見直し時の留意点ともいえる。

6) 教育現場からの問題点としては、

- ・学校と実習病院が離れており、交通の便が悪い(移動に30分要する)
- ・学校予算が不足(雑誌代として年間4万円を中央政府から受ける)

7) 臨床実習現場からの問題点としては、

- ・ベッド数より患者の数が多く、教育的な臨床指導がなかなかできない
- ・OHP等の教育機材、図書がなく学生に効率よく教えられない

大学進学やほかの職業についたなどで、20名が退学している。

学生は精神病院での実習のため不在であった。前述の調査でも長期専門家により指摘されているとおり、臨床実習時間が長時間に及んでいる。繰り返しになるがその実態は次のとおりである。

学習時間：月～金 1日9時間（07時～16時）

土 半日5時間（07時～12時）

1週間の合計学習時間 50時間

休 暇：1カ月につき4日および祝祭日

ゴール看護学校／カラピティヤ総合病院の視察から；

ゴール看護学校は1956年に創設され、1988年から1995年まで毎年1クラス100人以上の学生が入学、卒業している。

視察時、折よく2年次後期の実地試験(スキルテスト)中であることがわかり、臨床実習病院であるカラピティヤ総合病院での試験の模様を見学、スリ・ランカの試験システムを知ること

ができた。

内科病棟でのスキルテストの方法

- 学生は5グループに分けられ、外科・内科・産科系のテストを受けるため病棟をローテーションする。対象患者は試験官が指定するが、その基準としては、入院間もない、慢性疾患を有する等。
- 試験官は病棟婦長と他校の看護教員がペアとなり、1人の学生に付き、2時間半、1日3名の学生の評価を行う。したがって全員終了まで10日間を要する。内科病棟でのスキルテストにはコロンボ看護学校の教員があたっていた。
- 評価は評価用紙、見学、インタビューの方法で行っており、卒業時までに100点をクリアするような指導を行っている。

全国看護学校(SJGHの看護学校を含む)の試験官のローテーションは保健省看護教育課が決め、移動費、滞在費などの負担をしている。学生数によっては7～10日間を要し非効率的ととれるが、他校の教員による客観的評価、他校教員と現場婦長の情報交換の場となっており、国内の看護レベルの向上にこのシステムが活用されているようにも思われた。

また、一人一人の学生を卒業時までに育て上げるという、きめ細かな教育の一部を見聞し、スリ・ランカが長年培ってきた看護教育上のスキルが生かされる協力であることが望ましいと思われた。その意味でも今後、「中堅技術者養成」によるワークショップ・セミナーが、研修や研究、討議の場として展開していくことが望まれる。

附 属 資 料

計画打合せ調査団ミニッツ
プロジェクト運営委員会資料
長期調査概要報告

MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE NURSING EDUCATION PROJECT

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") assigned by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Ms. Tokuko Waga, Lecturer, National Center for Nursing Education and Research of Japan, visited the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka from March 30 to April 6, 1997 for the purpose of consulting the activities concerning the Japanese Project-Type Technical Cooperation for the Nursing Education Project in Sri Lanka (hereinafter referred to as "the Project"), and discussing the future implementation of the Project.

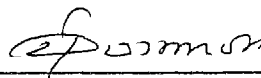
During its stay, the Team observed the overall progress, exchanged views and had a series of discussions with Sri Lankan authorities concerned and the Team.

As a result of the discussions, both sides agreed to recommend the matters referred to in the document attached herewith to their respective Governments.

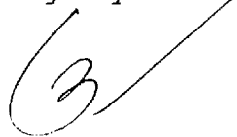
Colombo, April 4, 1997

和賀 徳子

Ms. Tokuko WAGA
Leader, Consultation Team for
Nursing Education Project in
Sri Lanka, JICA



Dr. Dudley Disanayake
Secretary, Ministry of Health,
Highways and Social Services



Mr. B.H. Passaperuma
Deputy Director, Department of
External Resources, Ministry of
Finance



Dr. J.B. Peiris
Chairman, Sri Jayawardenepura
General Hospital

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Both sides agreed that the Project had been well organized and implemented as planned in the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D") and the tentative schedule of implementation signed on May 23, 1996.

- (1) Dispatch of Japanese Experts

Three (3) long term experts were dispatched in 1996 Japanese Fiscal Year (hereinafter referred to as "FY") including the Team Leader and Coordinator.

The detail of the dispatched experts is shown in Annex I.

- (2) Provision of Equipments

As the budget of 1996 FY, the approximate thirty million Japanese Yen has been provided by the Japanese Government in order to purchase necessary equipments which should be allotted for 11 nursing schools impartially for the technology transfer of the Project. The delivery of the equipments will be completed in 1997 FY.

The detail of the planned equipments is shown in Annex II.

- (3) Training of the counterparts in Japan

Two (2) counterparts, in the fields of Nursing Management and Nursing Education had their training in Japan in 1996 FY.

The detail of the training in Japan is shown in Annex III.

- (4) Study of National Nursing Schools

Baseline survey at the nine (9) nursing schools (including Sri Jayawardenepura General Hospital (hereinafter referred to as "SJGH"), excluding Batticaloa and Jaffna) has been carried out to collect data on the teaching environment of the nursing school.

2. The team and Sri Lankan sides made the detail of tentative implementation schedule clear as the annual work plan in 1997 FY which had been formulated in line with the R/D based on the review of the overall progress and the current achievement of the Project.

FL

~. Ind 2

The annual work plan is shown in Annex IV.

(1) The target activities

School Management

- (1) - To continue of the study on present conditions of all the nursing school.
 - To establish a new model nursing school at Sri Jayawardenepura.
- (2) - To improve the regulations of school and student quarters.
 - To prepare regulations book based on the nursing school in Japan.
- (3) - To reconsider the three year general nursing curriculum in Sri Lanka
 - To collect the data on nursing education looking back over the existing system in Sri Lanka

(2) Inputs

(2)-1. Dispatch of Japanese Experts

Four (4) long term experts will be stationed continuously in the Project, their expertise are as follows:

- a) Team Leader
- b) Coordinator
- c) Nursing Education (Nursing Skill)
- d) Nursing Education (Community Health)

and short term experts will be dispatched occasionally in related fields based on the necessity of the Project, upon which both sides agreed.

The detail plan of the dispatch of the experts in 1997 FY is shown in Annex V.

(2)-2. Provision of Equipments

The equipments which is able to be expected to contribute to the Project's purpose will be provided within the limit of the budget of JICA based on the plan upon which both sides agreed.

fl

v -

Ind B

The detail plan of the provision of equipments in 1997 FY is shown in Annex VI.

(2)-3. Training of the counterparts in Japan

The Sri Lankan counterparts of the Project will be sent to Japan as trainees in the each field of the Project's activities to contribute to the project's purpose based on the plan upon which both sides agreed. The number of the trainees accepted in 1997 FY will be at least two (2).

The detail plan of the training in Japan 1997 FY is shown in Annex VII.

On the occasion of selection of candidates who will be sent to Japan as counterpart trainees, Sri Lankan side should consult with the JICA Project Team about the matter.

The result of the training in Japan should be evaluated both in Japan and Sri Lanka using indicators shown in PDM annexed in the tentative schedule of implementation.

After returning to Sri Lanka, the trainees are expected to be involved in various teaching activities at the nursing school or hospital to propagate their expertise.

(3) Necessary support as the pre-conditions by the both sides

(3)-1. Japanese side

- a. The Japanese experts are expected to be sent timely and appropriately, and to be suitable specialist for the Project activities.
- b. The procurement provision of equipments is expected to be proceeded on schedule for the smooth implementation of the Project. The equipment is expected to be available before the arrival of the experts.

(3)-2. Sri Lankan side

- a. The closer relationship between SJGH and Ministry of Health, Highways and Social Services is expected to make the project activities more effective and efficient.

和

✓

Jul 5

- b. The necessary procedure of the custom clearance for the equipment concerned with project's activities should be taken as soon as possible.
- c. The sufficient budget and the establishment of organization for the national nursing schools management should be secured.
- d. The Director of SJGH on his capacity as the Director In-Charge of the SJGH side regarding the Project has been entrusted with the responsibility of taking decisions related administrative matters in consultation with the Project Leader.

(4) Contribution to the other nursing school

The overall goal of the Project is to improve the quality and quantity of nurses in Sri Lanka according to set up a model nursing school, therefore it is necessary not only to take the upgrading and improvement of the Sri Jayawardenepura Nursing School but also to take the contribution to the improvement of the situation of other ten (10) nursing schools in Sri Lanka into consideration.

- 4. Both sides appreciated the fruitful discussions and agreed to further their cooperation and joint efforts by all possible means for the successful completion of the Project and to promote friendly relationship between the two (2) countries.

412

2

Jul 2

Annex I. (Implementation of dispatched experts)

CATEGORY	EXPERTISE	NAME OF THE EXPERTS	TERM	96	97
				Sep.	Oct. Nov. Dec. Jan. Feb. Mar.
Long Term Expert	Team Leader	M.SASAKI	1996/09/25 -98/09/24		
	Coordinator	S.KOBAYASHI	1996/09/04 -98/09/03		
	Nursing Education	N.ONO	1997/03/19 -99/03/18		
Short Term Expert					

(Remarks)

_____ Implementation

9/12

21

- 58 -

Dr. S.

Annex II. Equipments has been provided in 1996 FY

NO.	NAME OF EQUIPMENTS	QUANTITY	SPECIFICATION
1	WIRELESS MICROPHONE	24	WIRELESS HEATING AMP
2	STAND FAN	24	SF-85R (220V) 40CM
3	AUTOMATIC AIR POT	24	PLK-33FF
4	WALL CLOCK	48	4KG93-019
5	TYPEWRITER	12	AP1800
6	COMPUTER	1	PRO LINEA 5133/5 2000ML/CDS
7	RECORDING DOLL	10	FIRST AID M21
8	INJECTION SIMULATOR	10	INTRAVENOUS AC220V 50HZ M50
9	NURSE TRAINING DOLL	10	M57 KYOKO
10	SPHYGNOMANOMETER	60	MY-2034
11	STETHOSCOPE	60	MY-2045
12	COPY PRINTER	11	SF-6500 SUPERFAX
13	MICROSCOPE	24	CHD-212E (SP)
14	STERILIZER	24	MY-4014
15	DRESSING DRUMS	24	LARGE
		24	MIDDLE
		24	SMALL
16	VEHICLE	1	4WD
17	VIDEO-TAPE FOR NURSING EDUCATION	48	FUNDAMENTAL SKILL OF NURSING

和

✓

- 60 -

5

Annex IV. (Annual Work Plan 1997 FY)

Contents of Work Plan	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1. The preparative activity to establish national nursing school												
2. Study on the actual condition of nursing school and hospital												
3. Development of teaching method												
4. supervision for community health												
5. Workshop for middle-level trainers training												

Annex V. (Tentative Plan of the Dispatch of Experts 1997 FY)

CATEGORY	EXPERTISE	NAME OF THE EXPERTS	TERM	97												98		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
Long Term Expert	Team Leader	M.SASAKI	1996/09/25															
			-98/09/24															
	Coordinator	S.KOBAYASHI	1996/09/04															
			-98/09/03															
	Nursing Skill	N.ONO	1997/03/19															
			-99/03/18															
	Community Health	M.HIGUCHI	1997/08/01															
			-99/07/31															
Short Term Expert	Nursing Skill		1997/08/01															
			-97/10/31															
	Nursing Skill		1998/01/10															
			-98/03/09															
Workshop Seminar	Seminar Lecturer	A.YAMAMOTO	1997/05/21															
			-97/06/04															
		T.KAWAGUCHI	1997/05/21															
			-97/06/04															
		A.UCHINUNO	1997/05/21															
			-97/06/04															

(Remarks)

Implementation

Detail term of every expert is not determined yet

Annex VI. (Tentative Plan for the Provision of Equipment 1997 FY)

Tentative Planning Budget: [Total] Purchasing Cost: 47,660,000 yen Shipping Cost: yen

NO.	ITEM	QTY.	APPR. COST (x 1,000 yen)	SUMMARY OF FUNCTION	PURPOSE
1	Beds for Patient	20	3,400	Control of hi-low, reverse position by handle	It is necessary for the demonstration practice
2	Side-Table for Bed	20	860	With caster	Same as above
3	Cabinet for Bed-Side	20	730	With caster	Same as above
4	Accordion Screen	20	1,340	Accordion type	Same as above
5	Utility Cart	11	3,080	Multiple function	Same as above
6	Compact Cart	11	1,188	Wagon cut down space	Same as above
7	Dressing Cart	11	3,080	Multiple function	Same as above
8	Stethoscope for education	22	374		Same as above
9	Wall Chart for Human Anatomy	11	5,632	Panel type	For the lecture of physiology & anatomy

Annex VI. (Tentative Plan for the Provision of Equipment 1997 FY)

Tentative Planning Budget: [Total] Purchasing Cost: 47,660,000 Yen Shipping Cost: yen

NO.	ITEM	QTY.	APPR. COST (x 1,000 yen)	SUMMARY OF FUNCTION	PURPOSE
10	Cabinet for Wall Chart	11	1,452	Panel case with caster	Safekeeping
11	Slide Projector	11	2,200		To upgrade the contents of education using audio-visual material
12	Computer	11	7,700		Improvement of administration and management on nursing school
13	Video tape for nursing education	1 set	3,000		To upgrade the contents of education using audio-visual material
14	Screen for Slide Projector	11	1,408	Stand type	To upgrade the contents of education using audio-visual material
15	Vehicle	2	8,000	4WD	It is necessary for this study of project team
16	Microbus	1	4,000	30 seater	It is necessary for the SJGH nursing school of field practice

11/2

2. - 64 -

Full

Annex VII. (Tentative Plan of Training in Japan 1997 FY)

Field	Expected Period	Expected Training Organs	Remarks
1) School Management	Three Weeks	1.Ministry of Health and Welfare	
2) Nursing Education	Three to Six Months	1.Ministry of Health and Welfare	

412

2.

- 65 -

QAL

5

**REPORT OF THE IMPLEMENTED WORK AND IMPLEMENTATION PLAN
OF NURSING EDUCATION PROJECT**

4.4.1997

Nursing Education Project

Team Leader : M.SASAKI

Coordinator: S.Kobayashi

**1.The activity reports of Project in fiscal year 1996
(From 1st Oct.1996 to 31st Mar.1997)**

Components of Activity :

1.Study into the actual conditions of National Nursing School
(Annex-I)

A.Reports of Study

B.Point at the issues

2.The preparative activity for establishment of national nursing
school (Annex-II)

A.Start of the preparative activity committee for establishment of
national nursing school

B.Substances of discussions

3.The preparative activity for workshop on middle - level training
trainers training (Annex-III)

A.Start of the preparative activity committee

B.Substances

2.Annual work plan of Project in 1997 Fiscal Year

1. Implementation of the study into the actual conditions on nursing
school and practice hospital

2. Implementation of the preparative activity for establishment of
national nursing school

3. Implementation of WORKSHOP on middle - level trainers' training
for practical instructor and tutors

4. Implementation of the SEMINAR on development of teaching methods

SUMMARY OF THE STUDY OUTCOME ON NATIONAL NURSING SCHOOL

1. Purpose of the study

To find out a direction and a measure of the active substances of Project based on the out come :

- A.To understand the current status of national nursing school
- B.To collect relevant information and data which could enhance the acquisition of knowledge

2. Nursing school for the study

All the national nursing school (except Batticaloa, Jaffna) including Sri Jayawardenapura Nursing School

3. Method of the study

- A.Questionnaire
- B.Interview

4. The main components of the study

- A.To collect the statistics material for the school management on the students and staff of nursing school
- B.To collect the data on the building and facilities of nursing school
- C.To collect the statistics material on the staff and patients in the practical hospital
- D.To inspect the current conditions of nursing school an practical hospital

5. The main summary of the study's outcome

- A.The curriculum of each nursing school is being implemented based on the master plan which was made up by Ministry of Health.
- B.In all of the nursing schools, the student body for the student nurses is being established and the students have the regular quarters daily according to the regulations of student quarters
- C.It was remarkable matter that the building of some nursing schools and practical hospital were old and poorly maintained.
- D.It was remarkable matter that the teaching material for the nursing and audio -visual material was insufficient.
- E.There is shortage of student quarters in the most nursing schools.
- F.There is shortage of tutors in proportion to number of the students.
- G.There is not regular time of the entrance into the nursing schools for students.
- H.The applications for the students is not being implemented regularly.
- I.There is some difference in ability between the students.

- J. There is insufficient to purchase the stationery which should be needed for daily work of the tutors.
- K. Tutor staff can not use the office equipments sufficiently due to principles management.
- L. There is not sufficient the nursing material at clinical practice in the hospital.
- M. The practical hospital is a long way from the nursing school (Badula, Galle).
- N. There is shortage of reference books of library for the students.
- O. It was remarkable matter that some facility of student quarters can not use due to these damage, such as students room, toilet, bath room and so on.
- P. Some nursing schools are using the wood for cooking due to doesn't have the facility of the electric and gas appliances .

**COMPARISON WITH SRI LANKA AND JAPAN ON CURRICULUM
FOR THREE - YEAR PROGRAMS IN NURSING**

LECTURE		HOURS			
		SRI LANKA	SJGH	JAPAN(As of 1996yrs.)	
Basic Subjects	Science	60		Humanities	60
	Psychology	45	43	Social Science	60
	Social Science	45	26	Natural Science	60
	English	100	344	English	120
				Physical Education	60
	Subtotal	250	413		360
Professional Subjects				Introduction to Medicine	30
	Anatomy & Physiology	130	140	Anatomy & Physiology	120
	Microbiology	56	56	Microbiology	45
	Public Health	104	39	Public Health	30
	Nutrition	92	80	Nutrition	30
	Pharmacology	74	55	Pharmacology	45
	Pathology	20	20	Pathology	75
	Social Welfare			Social Welfare	30
	Health-related Laws & Regulations			Health-related Laws & Regulations	30
	Biochemistry			Biochemistry	30
	Mental Health			Mental Health	45
	Medicine		56		
	Surgery		77		
	Paediatrics		55		
	Gynaecology & Obstetrics		54		
	Subtotal	476	632		510
Nursing	Fundamentals of Nursing	275	266.5	Fundamentals of Nursing	300
	Medical & Surgical & Nursing	360	169	Adult Nursing	315
	Nursing Ethics		20	Gerontological Nursing	90
	History of Nursing		42	Paediatric Nursing	120
	Psychiatric Nursing	85	85	Maternal Nursing	120
	Paediatric Nursing		53		
	Gynaecology & Obstetric Nursing	105	56		
	Ward Management	32	19		
	Subtotal	857	710.5		945
	Electives				150
	Grand total	1,583	1,755.5		1,965

COMPARISON WITH SRI LANKA AND JAPAN ON CURRICULUM
FOR THREE - YEAR PROGRAMS IN NURSING

	Unit : Hour		
	SRI LANKA	SJGH *	JAPAN **
LECTURE	1,583	1,755.5	1,815
CLINICAL PRCTICE	4,836	3,673	1,035
PRACTICE & RETURN DEMONSTRATION		240.5	
FIELD TRAINING	456		
GROUP WORK	643	265	
LIBRARY		180	
OBSERVATION TOURS		40	
ELCTIVES			150
TOTAL	7,518	6,154	3,000

* As of 1992 Batch

** As of 1996 yrs.

THE OPERATION COMMITTEE MEETINGS ON MANAGEMENT POLICY FOR THE PREPARATIVE
ACTIVITY FOR ESTABLISHMENT OF NATIONAL NURSING SCHOOL

The First Meeting:

- ◆ Date : 27th November 1996
- ◆ Place : Conference Room - SJGH
- ◆ Contents of Discussion: Confirming the matters of preparative activities
for establishment of national nursing school.

The Second Meeting:

- ◆ Date : 27th January 1997
- ◆ Place : Conference Room - SJGH
- ◆ Contents of Discussion: Confirming the design of the new Students'
Hostel

The Third Meeting:

- ◆ Date : 8th April 1997
- ◆ Place : Conference Room - SJGH
- ◆ Contents of Discussion: School Regulations

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

THE PROCESS OF MEETING

MEETING ON MANAGEMENT POLICY FOR THE PREPARATIVE ACTIVITY FOR ESTABLISHMENT OF NATIONAL NURSING SCHOOL

DATE: 27th. Nov. 1996 10:00 - 11:00 AM

PLACE: Conference room

ATTENDANCE: DIRECTOR, CHIEF MATRON, DEPUTY CHIEF MATRON, TUTORS,
JICA TEAM LEADER, JICA COORDINATOR, JICA SECRETARY.

CONTENTS OF DISCUSSION: To confirm how can we deal with the matter
should be created by the preparative activity for establishment of national
nursing school

COMPONENTS OF MATERIAL

I. MATERIAL ON MANAGEMENT POLICY

1. PROGRAM

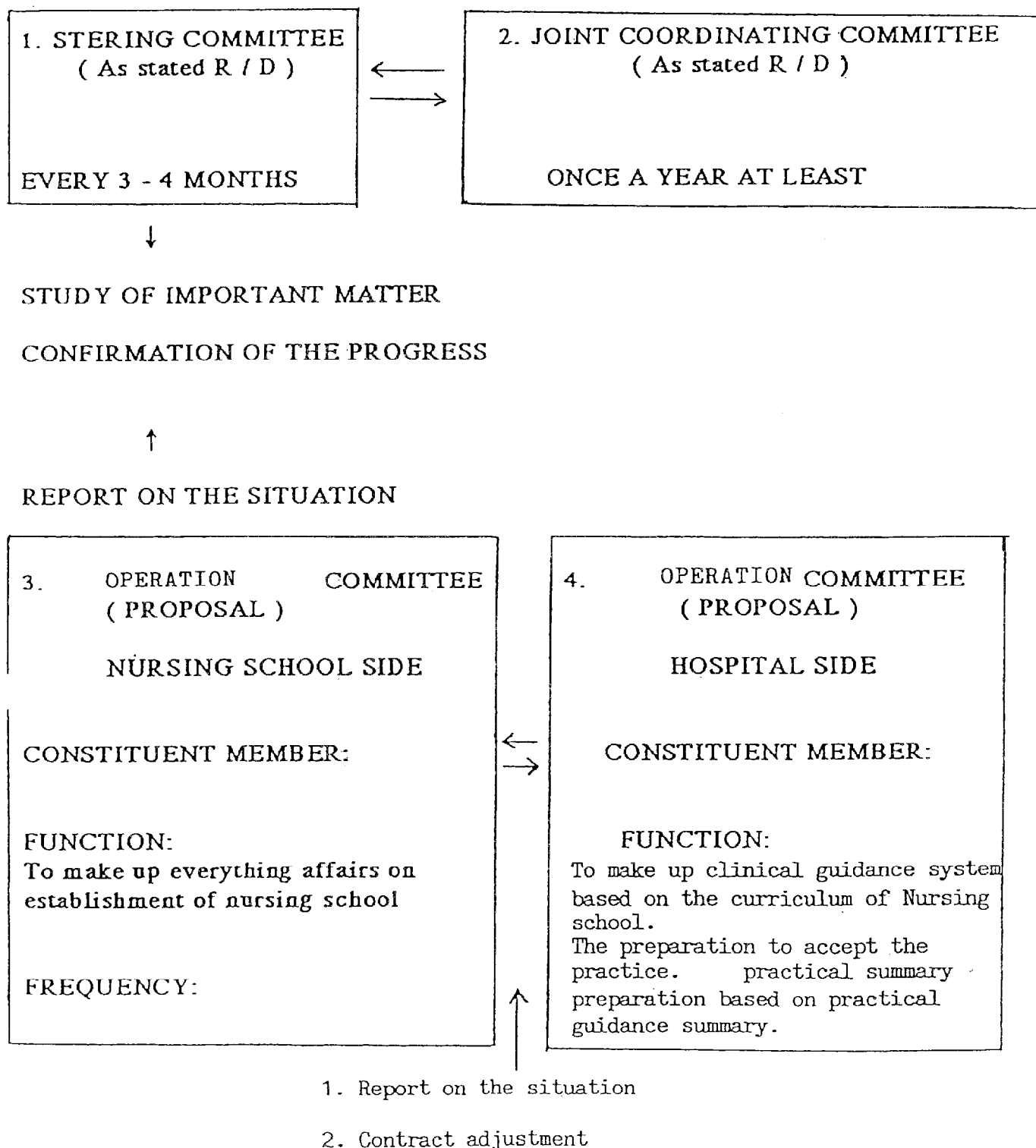
2. COOPERATION WITH PROJECT AND COMMITTEE

3. CONTENTS OF THE PREPARATIVE ACTIVITY

II. SCHEDULE OF NEXT MEETING

2. COOPERATION WITH PROJECT AND COMMITTEE

✱ ORGNIZATION AND COOPERATION WITH MEETINGS



諸会議開催のスケジュール
Schedule of various meeting

	1996年度 1996Year						1997年度 1997 Year												1998年度 1998 Year											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営委員会 (Steering committee)	—																													
合同調整委員会 (Joint-coordinating committee)	—																													
作業委員会 (Joint-Operation committee)	—																													
“ 分科委員会 (Operation committee)	必要に応じて随時会議 Meeting will be held whenever it necessary																													

3. PREPARATIVE ACTIVITIES FOR ESTABLISHMENT OF NURSING SCHOOL.

- (1). Purpose of Establishment . Philosophy of Education
- (2). Establishment of the school.
Founder, Name of school, Location, The expected date of establishment, Course of study, years required for graduation, the regular number of students.(each year)
(Total)
- (3) Organization of the school.
- (4) School regulations.
- (5) Allocation of lectures: types of job, names, number, date of employment, preparation period.
- (6) Allocation of other staff: types of job, names, number; date of employment, preparation period.
- (7) Planning of Education curriculum.
Purpose of education, goals of education, course of study, (lectures & practices) and required hours; school events. Calendar of school year (Including holidays)
table of progress, contents of lectures, lecturer in charge of each subject, lesson plan, teaching utilizing nursing education materials and audio-visual materials, select textbooks and books.
- (8) Secure Institutions for clinical practice.
Name of Institutions, time table of clinical practice, table of progress, guidelines of clinical practice, guidelines of supervising clinical practice.
- (9) Store nursing education materials, audio-visual materials, Office supplies and other materials in each room.
- (10) Select and purchase books.
- (11) Secure the management expenses, first year and the following years.
- (12) Develop application handbook and school information book, recruit students by entrance examination.

- (13) Develop regulations.
Division of duties, meetings (Executive committee meeting, faculty meeting, lecturer's meeting, entrance examination committee meeting, clinical practice supervisors' meeting, research training meeting), rules of registration (examination . admission of promotion, admission of graduation) rules of attendance, rules of health maintenance, rules of facility maintenance, rules of disaster management, rules of library use, rules of nursing practice room use, notifications.
- (14) Develop a school badge and a school song.
- (15) A residence hall
Develop rules of management and instructions for resident.
- (16) Prepare for teaching staff to conduct and present research papers.
- (17) Prepare for public relation activities (with parents and an Alumni association)
- (18) Prepare for student organization activities (School festival, extra-curricular activities, presentations among students).

MINUTES OF THE FIRST COMMITTEE MEETING

Date: 27th November, 1996.

Venue : Conference Hall - S J G H.

Attendance: Director, Deputy Chief Matron, Tutors, JICA Team
Leader, JICA Coordinator, JICA Secretary.

The Team Leader addressed the meeting and thanked everyone who were present. Thereafter the Coordinator explained the plan and purpose of the meeting.

- * A name for the committee meeting was proposed by the Deputy Chief Matron, as the Joint Operation Committee Meeting.
- * The process of the meeting and the Time Table of Preparative Activities for Establishment of Nursing School was read by the Coordinator.
- * The construction of the building is to be completed by March 1999.
- * The grant equipment for the school by the Japanese Government are to be sent here before the commencement of the school.
- * The list of items that is to be given by the JICA Project Technical Cooperation to the eleven Nursing Schools was read by the Director.
- * A Joint Coordinating Meeting is to be held at least once a year, chaired by the Secretary, Health.
- * The Steering Committee will discuss the day to day problems and progress under the advice of the Team Leader.
- * Finally it was decided that, the Joint Operation Committee Meeting to be held once in three months, two weeks before the Steering Committee.

(2)

- * However, in case of an emergency, the Committee will be called at any time.
- * The Director proposed to advertise and recruit three new Tutors by the S J G H itself. He also suggested to inform Mrs. De Costa, that the S J G H will recruit the tutors on its own, without the help of the Ministry, as two of the S J G H tutors will be leaving soon.
- * Four Text books designed for the Sakura Nursing School in Japan, will be translated and printed according to the Sri Lankan standards, in due course.
- * Finally. the next Joint Operation Committee meeting was scheduled for the 23rd January, 1997, at 10 a.m.

MINUTES OF THE 2ND OPERATION COMMITTEE MEETING

DATE: 27th Jan. 1997

9:00 - 10:00

PLACE: Conference Room (SJGH)

ATTENDANCE: Mrs. De Costa, Director(SJGH), Chief Matron, Tutors, Mrs. J. Inami, Mrs. M. Sasaki, Mr. S. Kobayashi & Secretary (JICA project)

SUBJECT: Discuss and confirm the design of the new Nursing Student's Hostel.

* * * * *

- * The Team Leader of JICA, Mrs. M. Sasaki welcomed all who were present at the meeting and explained the purpose of the meeting.
- * Thereonwards, the Coordinator of JICA, Mr. S. Kobayashi explained the components of material.
- * A brief summary of the first Operation Committee Meeting was given by Mr. Kobayashi.
- * SJGH is to advertise and recruit three new Tutors for the present Nursing School, as they have the provision to select.
- * Regulations of the Sri Lankan Nursing School was discussed and compared with that of the Sakura Nursing School in Japan.
- * The Coordinator also explained how the Sakura Nursing School's Management is handled by the resident student leaders.
- * It was decided to add Article 1 & 2 of Sakura School regulations to that of Sri Lankan Nursing School regulations.
- * A few of Sri Lankan regulations will be changed after further discussions with the Deputy Director.
- * Basic design and drawings of the new students' hostel was explained by the Coordinator.

(2)

- * New regulations are to be implemented according to the design and structure of the proposed student hostel.
- * Mrs. Inami of JICA staff, stated that students should have the right and power to choose and decide things on their own in order to learn the real situation of the patients.
- * Tutor sister Mrs. Ranawaka explained how the Nursing Students in Sri Lanka have the liberty to state their ideas to their Tutors.
- * Mrs. Inami also stated the necessity in having separate rooms for each student.
- * Finally, the JICA Team Leader thanked everyone for their valuable comments and suggestions and closed the meeting.
- * The next Operation Committee Meeting is to be held in April 1997.

~~-----~~

THE SECOND OPERATION COMMITTEE MEETING

MEETING ON MANAGEMENT POLICY FOR THE PREPARATIVE ACTIVITY FOR ESTABLISHMENT OF NATIONAL NURSING SCHOOL

DATE : 27th Jan. 1997

9:00 - 10:00 AM

PLACE: Conference Room

ATTENDANCE: Mrs. De Costa , Director Nursing Education, MOH.
Dr. D. L. De Lanarolle , Director, SJGH.
Mrs. Dayananda , Matron, SJGH.
Mrs. B. S. Abeywardena, Tutor, SJGH.
Mrs. S. Samarawickrama, Tutor, SJGH.
Mrs. M. W. Ranawaka, Tutor, SJGH.
Mrs. J. Inami , JICA Staff in Sri Lanka.
Mrs. M. Sasaki, JICA Project Leader.
Mr. S. Kobayashi, JICA Coordinator.
Mrs. Anne Nicholas, JICA Project Secretary.

CONTENTS OF DISCUSSION : To confirm and discuss what student quarters should be.

I . COMPONENTS OF MATERIAL

- ① Minutes of the first Preparative Meeting
- ② Regulation of student quarters on Nursing Schools in Sri Lanka.
- ③ Regulation of student quarters on Sakura Nursing School in Japan.
- ④ Basic design drawings of student quarters in SJGH.

II . SCHEDULE OF NEXT MEETING

Concerning School Regulations.

XXXXXXXXXXXX

THE PREPARATIVE COMMITTEE MEETINGS ON WORKSHOP-SEMINAR FOR
MIDDLE - LEVEL TRAINERS' TRAINING

The First Meeting:

- ◆ Date : 18th November 1996.
- ◆ Place : Galadari Hotel
- ◆ Contents of Discussion: Preparation for the meeting of workshop-seminar

The Second Meeting:

- ◆ Date : 18th December 1996.
- ◆ Place : Galadari Hotel
- ◆ Contents of Discussion: Preparation for the meeting of work-shop seminar

The Third Meeting:

- ◆ Date : 11th February 1997.
- ◆ Place : Galadari Hotel
- ◆ Contents of Discussion: Preparation for the meeting of work-shop seminar

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

WORK-SHOP FOR MIDDLE - LEVEL TRAINERS' TRAINING

SIGNIFICANCE: The work-shop is to be held with the object of enhancing the quality and the skill of nursing according to carry out the training of middle - level nurses and tutors in Sri Lanka under Technical Cooperation of Project by JICA.

DATE : 26th May, 1997 - 31st May, 1997

VENUE : Sri Lanka Foundation Institute

PARTICIPANTS: For middle-level trainers in Sri Lanka
Number of seventy four

- ① Tutors of 11 National Nursing Schools
- ② Tutors of PBS
- ③ Ward Sister / Senior Nurse
- ④ Nursing Administrative Personnel
- ⑤ JICA Experts

THEME : Clinical supervision of student nurses

PURPOSE :

1. To understand the significance of practice and demonstrations on nursing education.
2. To learn proper teaching methods looking back over existing teaching methods and components of demonstrations on SUPPORT OF DAY CARE which has been carrying it out at practical room in nursing hospital.
3. To get proper connection with fundamental practice of nursing and demonstrations by means of making out systematization of fundamental practice of nursing, such as time, object, components and method, looking back over the existing system of them.
4. To learn effective orientation looking back over the existing orientation of fundamental practice of nursing to the clinical instructor and student nurses.
5. To make out the meeting summary on practical instructor in order to have the meeting regularly for practical instructor between nursing school and practical hospital
6. To make an effort to upgrade the level of nursing by means of taking up as topics of work - shop concerning current condition and trends on nursing in Sri Lanka and Japan.

- METHOD : * There will be carried out based on the style of work - shop and seminar.
- * Demonstrations should be carried out by seminar style, in this case the number of each group consists of ten and make up seven groups.
- * Theme of seminar which take up by each group are different
- * Use of teaching material
- SPEAKER : Japanese side Two to three experts
Sri Lankan Side Three to four
- CONTENTS OF SEMINAR : DAY CARE OF DAILY LIVING See Annex 1
Use of VCR
- HOW TO USE THE VCR : These should be translated to English
- SUPPLEMENT : As regards the contents of work - shop and seminar, we have to pay attention being not alienate from the request of Sri Lankan side by understanding previously current condition of nursing education enough.

CONTENTS OF THE SEMINAR (THE FIRST)

GENERAL CARE FOR PATIENT

1. Sponge Bath
2. Medical Asepsis
 - Hand washing
 - Gown
 - Mask
 - Gloves
3. Positioning of Patients
 - Various positions for examinations & treatment.
 - Changing positions for comfort.
 - Lifting and turning.
 - Moving : Bed to chair
 - : Chair to bed
 - : Bed to trolley
 - : Trolley to bed
 - : Walking with support
4. Evening Care.
5. Feeding a helpless patient.
6. Care of Hair
 - Combing
 - Washing
7. Communication with the patient.

CONTENTS OF THE SEMINAR (THE SECOND)

SURGICAL CARE FOR PATIENT

1. Application of bandage to various parts of the body.
2. Surgical dressing.
3. Intramuscular injection.
4. Catheterization.
5. External Cardiac massage.

SELECTION OF PARTICIPANTS FOR THE WORKSHOPSchool of Nursing

Colombo	03
Galle	03
Kandy	03
Kurunegaya	02
Kandana	02
Badulla	02
Batticaloa	01
Jaffna	01
Ratnapura	02
Anuradhapura	02
Post Basic School	02
Mulleriyawa	01
Sri Jayawardhanapura G.H.	<u>01</u>
	<u>25</u>

SELECTION OF PARTICIPANTS FOR THE WORKSHOP
BY JICA

<u>Teaching & Provincial Hospital</u>	<u>No.</u>
National Hospital Sri Lanka Colombo	04
Sri Jayawardhanapura General Hospital	06
Teaching Hospital Colombo North	04
Lady Ridgeway Hospital	02
Castle Street Hospital for Women	02
De Soyza Hospital for Women	02
Eye Hospital	01
General Hospital Karapitiya	03
General Hospital Mahamodera	02
Teaching Hospital Kandy	03
General Hospital Anuradhapura	03
" " Badulla	03
" " Batticaloa	03
" " Kurunegala	03
" " Ratnapura	03
" " Jaffna	01
Mental Hospital Angoda	02
Mental Hospital Mulleriyawa	02
	<u>49</u>

CRITERIA FOR SELECTION OF NURSING OFFICERS
IN HOSPITALS

1. Age Below 55 years.
2. Should be incharge of ward or unit where student Nurses gain clinical experience.
3. Should be interested in student supervision.
4. Must be able to converse and understand English ,
as the work shop will be conducted in English.

Minutes of the 2nd Preparative Meeting

Date : 18 - 12 - 1996
: 16.00 - 17.00

Venue : G A L A D A R I H O T E L

Participants : Mrs.De Costa - Director Nursing Education, (MOH)
: Nursing Education Project :
Mrs.Sasaki
Mr.Kobayashi
Ms.Anne

Subject : Work shop Seminar

Contents of the Discussion

- * The Project Coordinator started the meeting by explaining the contents of the seminar. The topics of the seminar are to be explained and displayed to the students through the aid of a VCR.
- * Each film will be limited to a period of one hour.
- * Method of teaching shall be, first displaying the film on the relevant topic and then to have a discussion on the topic.
- * After each discussion the students shall prepare their own record on what they learned.

(2)

- * The video tapes will be rotated among the seven student groups, so that, each group shall have a chance to watch all the videos.

- * The Director of Nursing Education will be giving an introduction on the method of conducting the seminar.

- * At the overall discussion at the end of the seminar, the students shall prepare their plan as to how they will improve the implementation of the seven topics they learned, in their respective hospitals.

- * Out of each group one student shall give a record of their discussion, at the end of the seminar.

Finally the next Committee meeting was scheduled for 11th February, 1997, from 4 pm - 5 pm.

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

PROGRAMME (May 26 - 31, 1997)

Date	May 26 (Mon)	May 27 (Tue)	May 28 (Wed)	May 29 (Thu)	May 30 (Fri)	May 31 (Sat)
Time	8:30-9:00 Reception 9:00-10:30 Opening Ceremony 10:00-10:30 General Orientation	8:30-9:00 Introduction Seminar ① --Recording--	Seminar ② --Recording--	Lecture III [What Clinical Supervision should be by: Japanese Expert]	Seminar ③ --Recording--	Announcement Plenary Discussion
10:30-10:45	Tea Break					
10:45-12:30	Special Lecture [The current conditions and trends on Nursing in Sri Lanka] [-in Japan] by: Mrs. De Costa, JICA	Seminar ④ --Recording--	Seminar ⑤ --Recording--	Lecture IV [Educational evaluation] by: Japanese Expert	Seminar ⑥ --Recording--	10:45-11:45 Summary 11:45-12:15 Closing Ceremony
12:30-14:00	Lunch					12:30-14:00 Good bye party
14:00-15:30	Lecture I [The Knowledge and Skill in the Nursing Education] by: Japanese Expert	Seminar ⑦ --Recording--	Seminar ⑧ --Recording--	Seminar ⑨ --Recording--	Seminar ⑩ --Recording--	
15:30-15:45	Tea Break					
15:45-17:00	Lecture II [Method of Demonstration at practice room] by: Japanese Expert	Seminar ⑪ --Recording--	Seminar ⑫ --Recording--	Seminar ⑬ --Recording--	Seminar ⑭ --Recording--	
	18:00-19:30 Welcome Party	※Each Seminar ① to ⑭ is to be taken in rotation				

THE THIRD MEETING

THE PREPARATIVE MEETING ON WORKSHOP - SEMINAR

DATE : 11 - 02 - 1997
: 16:30 - 17:30

VENUE : G A L A D A R I H O T E L

PARTICIPANTS : Mrs.De Costa - Director Nursing Education (MOH).
: Nursing Education Project ;
Mrs.Sasaki . Mr.Kobayashi
Mrs.Anne

CONTENTS OF DISCUSSION : 1. Preparation for the meeting of
Work shop . Seminar
: 2. Question Period

MATERIAL I . Preparative Material

- ① Minutes of the 2nd Preparative Meeting on Workshop . Seminar
- ② Resume of Workshop . Seminar
- ③ Programme
- ④ Components of Seminar (The 1st, the 2nd)
- ⑤ Participants' Qualifications for Participation
- ⑥ Invited Guests
- ⑦ Speakers
- ⑧ List of VTR

II .The scheduled date of the next meeting.

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

MINUTES OF THE 3RD PREPARATIVE MEETING

DATE : 11 - 02 - 1997
: 16:30 - 17:30
VENUE : H O T E L G A L A D A R I
PARTICIPANTS : Mrs. De Costa - Director Nursing Education
(MOH)
: Nursing Education Project:
Mrs. Sasaki . Mr. Kobayashi
Mrs. Anne
SUBJECT : Workshop Seminar

Contents of the Discussion

- * The Team Leader welcomed the members of the meeting and thereonwards the contents of the discussion were explained by the Coordinator.
- * Minutes of the 2nd Preparative Meeting held on 18th December 1997 were read and altered.
- * Director of Nursing clarified the application form for the seminar which is to be held in May 1997.
- * The resume of the Workshop Seminar was read out by the Coordinator. It was confirmed to have the seminar from 26th May - 31st May 1997.
- * Mrs. De Costa proposed to make copies of the Nursing videos of Sakura Nursing School and display them in local Nursing Schools.

PROJECT DESIGN MATRIX FOR NURSING EDUCATION IN SRI LANKA

	NARRATIVE SUMMARY	VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTION
G O A L	· To make an effort the improvement of the quantity and quality of nurses in Sri Lanka.	· Satisfaction in the number of a regular nurse in SJGH after 5 years. · Increase in number of nurse in Sri Lanka after 5 years.	· Statistics data of related organization · In-depth analysis on existing statistical data	· Financial support · Administrative and reporting system · Current nurse policy will continue at national level
P U R P O S E	· A model school of nursing will be established.	· Introduction of the latest learning and skill on nursing for nurse students and nurses.	· Questionnaires to nurse related personnel · Status analyses on nurse related personnel's activities · Research and report of statistics data on nursing education of national and private nursing school	· Priority of the project will be continued by government.
O U T P U T S	1. Present Situations surrounding nursing education will be identified. 2. Model management of a nursing school will be established. 3. New teaching methods of nursing will be established. 4. An ideal environment for nursing education will be created.	1-1. Number of nurse student 1-2. Number of nurse lecturer 1-3. Number of clinical lecturer 1-4. Level of professional skill on nursing 1-5. Present status of nurse staff were trained by experts 3-1. Lesson form of nursing education 3-2. Practice teaching form of nursing education 4-1. Utility level of equipments 4-2. Quality, quantity and category on equipments	· Research and record of all the nursing school by survey staff · Research and record of all the nursing school by counterparts · Annual report and training activity plan of Government	· Trained staff will be allocated appropriately in Sri Jayewardenepura Hospital. · Appropriate level of annual budget will be allocated to nursing school. · Supply of nurse students will be stabilized. · Public peace in the country will be stabilized. · Support of government will be practiced according to the plan.
A C T I V I T I E S	1. To collect data on the teaching environment of the 10 nursing school. 2. To plan, implement and evaluate school management. 3. To enable the school to formulate a vision of its own. 4. To introduce new methods of nursing education. 5. To provide training in developing teaching materials. 6. To provide equipment and materials for practical training. 7. To supply relevant books for the school library.	INPUTS (Japanese Side) 1. Dispatch of Japanese experts 2. Training of Sri Lanka counterparts in Japan 3. Supply of equipments 4. Other necessary supplies (Sri Lanka side) 1. Allocation of counterparts for Japanese experts 2. Expense for local cost 3. Provision of office space for Japanese experts		· Government will practice Management and administration of nursing school. · To obtain cooperation and comprehension of related nursing school. Pre - Condition Government will allocate fund, skill, and staff for project.

スリランカ看護教育PDM案

プロジェクトの要約	指 標	指標データ 入手手段	外部条件
上位目標 スリランカ全体の看護婦の質的・量的向上を図る。	5年後S J G Hの看護婦定員を充足させる。 5年後スリランカの看護婦数を充足させる。	関係機関における既存の資料	
プロジェクト目標 看護教育のモデル校を設ける	看護学生・看護婦に対する最新の看護知識・技術の導入	- 看護従事者へのアンケート調査 - 看護従事者への状況調査 - 国立・私立看護学校の教育に関する資料、統計の調査・報告 - スリジャヤワル病院の統計資料	スリランカ政府の本件に対するプライオリティーが持続する。
成果 1. スリランカ全体の看護教育の実態が把握できる。 2. 学校運営管理の新しいモデルができる。 3. 教育方法の新しいモデルが完成する。 4. モデル的な教育環境が完成する。	1-1. 看護学生数 1-2. 看護教員数 1-3. 臨床指導者数 1-4. 専門的技術レベル 1-5. 訓練を受けたスタッフの活動状況 3-1. 看護教育の授業形態 3-2. 看護教育の実習形態 4-1. 機材の利用度 4-2. 教材の種類・量・質	- 保健省の年次報告書 - 看護従事者へのアンケート調査 - サーベystaffによる看護学校の調査と記録 - カウンターパートによる看護学校の調査と記録	- 政府が計画通り支援を行う。 - 看護学生の供給が安定している。 - 国内の治安が安定している。 - スリランカ政府がスリジャヤワル病院の看護教育に高いプライオリティーを起し続ける。 - 看護学校への運営予算が毎年継続的に確保される。
活動計画 1. スリランカ看護教育のベースラインサーベイを行う。 2. 学校運営計画を策定し、実施評価する。 3. 学校独自のビジョンを作成する。 4. 新しい教育方法を教授する。 5. 教材作成技術を指導する。 6. 実習教材を供与する。 7. 必要図書を供与する。	投入 〔日本側〕 1. 専門家 1-1. チーフアドバイザー 1-2. 業務調整 1-3. 看護教育（新生児、産科、ICU、小児科） 1-4. 教材開発 2. 機材 2-1. 学校運営管理用機材 2-2. 実習用機材 2-3. 視覚機器 2-4. 図書 【スリランカ側】 1. 研修施設 2. 運営経費 3. カウンターパート人件費	5年間 5年間 短期 短期	- 各看護学校の理解、協力を得る。 - 運営管理は政府に一任する。
			前提条件 ・政府はプロジェクトに必要な資金、技術、人員を配置する。

③ 長期調査概要報告

スリランカ国看護教育プロジェクト長期調査概要報告

1. 調査目的
平成7年8月に実施された標記プロジェクト事前調査の結果に基づき、プロジェクトの方向性及び活動内容の策定に資する補足調査を行う。
2. 調査員
小林 繁郎 国際協力事業団医療協力部特別嘱託
3. 調査日程 1996年2月28日～1996年4月12日
別添一の通り
4. 主要面談者
別添二の通り
5. 主要調査内容
 - 1) スリランカとしての適正基準を備えたモデル看護学校を設立するための基礎情報獲得のためスリジャヤワルダナブラ看護学校および他の国立看護学校の調査
 - 2) 1) の調査を基に作成した5年間の活動計画 (T.S.I) 案・P.D.M案の内容を具体化させる
 - 3) 日本側およびスリランカ側のプロジェクト投入計画につき合意を得る。
 - 4) 無償資金協力による校舎、宿舍建設のための資料作成
6. 主要調査結果概要
 - 1) 保健省およびスリ・ジャヤワルダナブラ総合病院 (SJGHと略す) はSJGHの看護学校をこのプロジェクトの発足時に国立の看護学校 (National School of Nursing of Sri Lanka) と呼称し、学校の運営は保健省の管轄下に置くという一致の見解を得た。
 - 2) 保健省保健次官はプロジェクト目標を他の国立看護学校より上位の位置付けにしたい考えであり、技術の移転もModern Technologyの分野を希望していた (Audio - Visual Operation, Computer Operation, Maintenance Staff, Library Staff, Type-Writer Operation)。
 - 3) 保健省保健サービス総局長はこのプロジェクトの目標をまず看護婦の基礎教育に置くべきであるとの見解を示した。

上記、2)、3) に関しては最終合同討議で、基礎教育からスタートすることに保健次官の同意を得ることが出来た。
 - 4) プロジェクト事務所開設に際してSJGH側より開設に必要な設備の提供の確約を得た。
 - 5) 看護学校完成までの約2年間に日本側はベースライン・サーベイ・学校運営・学校設置準備とともに看護理論の分野での専門家を派遣する計画であることを相手側に伝えた。
 - 6) P.D.M.の内容に関しては、スリランカ全体の看護教育の実態を把握することにより、S.J.G.H.で学校運営管理、教育方法の新しいモデルを開発し、モデル的な教育環境の完成に資することで、合意に至った。

別添 ー 1 看護教育プロジェクト長期調査日程

長期調査員 小林 繁郎

月 日	訪 問 先・面 談 者	面 談 内 容・調 査 内 容
2月28日(水)	コロンボ着	
2月29日(木)	JICA事務所訪問 中村所長・稲見所員 在スリランカ日本大使館訪問 金井書記官	調査目的について説明 金井書記官より保健省人事について説明あり 今後の看護教育のありかたについて説明あり
3月1日(金)	資料作成・整理	
3月2日(土)	資料作成・整理	
3月3日(日)	資料作成・整理	
3月4日(月)	資料作成・整理	
3月5日(火)	大蔵省・対外資源局 Deputy Director Mr. B. H. Passaperuma	事前調査団の調査結果に基づいた見解を伝える 1. スリランカにおける看護教育の現状と問題点 2. スリランカの看護教員体制上の問題点 Deputy Directorの見解 1. 大蔵省としてもプロジェクトに力を注いでいる 2. 保健省の取り組み方に問題 3. SJGHのManagementの問題
	大蔵省・国家開発局 Director Mrs. P. Alailima	Directorの見解 1. 教員の養成がされていないのは問題 2. 看護教育の組み立てがしっかりしていない 3. 看護教育のための予算は十分捻出している 4. SJGHがプロジェクトに対してどれだけの意識を持って臨んでいるか疑問である 5. 保健省内部の看護教育に対する熱意に問題
	Deputy Director Ms. W. A. S. Mahawens	

月 日	訪 問 先・面 談 者	面 談 内 容・調 査 内 容
3月5日 (火)	JICA 集団研修帰国研修員 専門看護・看護管理コース コロンボ総合病院勤務 Ms. C.A.Jayasinghe (Gr.IIA) Mrs. R.D.M.S.Weeratunga (Gr.II A) Ms. M.F.J.M.Kurera (Gr.II A) コロンボ看護学校 Mrs.B.D. Chandralatha (教員) コロンボ南総合病院 Mrs.N.S.Widyapathige (Sister)	スリランカの看護教育の現状について 1.看護分野での予算配分が医学分野に比較して非常に少ない 2.看護婦のための卒後教育を実施して欲しい 3.日本で学んだ知識や技術をスリランカで教える機会がない 4.POST- BASICの教育を実施してほしい
3月6日 (水)	保健省・保健次官 Secretary Dr.Dudley Dissanayake 保健省・看護教育 Director Mrs. N.C.De Costa コロンボ看護学校	Secretary の見解 1.国内のモデル学校を目指して日本側からの援助に最先端の技術を要請している 2.学校を他校と別格にする特別校にしたい考えている
3月6日 (水)	保健省・健康サービス局 Director General Dr.M.A.L.R.Perera Deputy Director Dr.K.E.S.Dalpatadu Additional Secretary Dr. Lucian Jayasuriya	Director の見解 1.Secretaryは現状を理解していない 2.プロジェクトはあくまでも看護婦のための基礎教育を目指している
3月7日 (木)	保健省・健康サービス局 Director General Dr.M.A.L.R.Perera Director Mrs. N.C.De Costa Deputy Director Dr.K.E.S.Dalpatadu Additional Secretary Dr. Lucian Jayasuriya	討議内容 1.プロジェクト活動の内容について説明 (既成のPCM案に基づき) 2.Director からの要請 (日本人専門家に対する) a.教授法の専門家 b.学校運営の専門家

月 日	面 談 先・面 談 者	面 談 内 容・調 査 内 容
3月8日(金)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Chairman Dr.T.B.Peiris Deputy Director Dr.Keenthi Kuwanage Matron Ms. H.A.S.Sri Chandra	討議内容 1.SJGHの看護教育の現状と問題点 2.今後の課題と解決法 病院内視察 看護学校建設予定地の視察
3月9日(土)	資料収集整理・作成の作業	
3月10日(日)	資料収集整理・作成の作業	
3月11日(月)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 看護学校訪問・視察 Deputy Director Dr. Keenthi Kuwanage Matron Ms. H.A.S. Sri Chandra Deputy Matron Mrs. M. Dayananda 看護学校 Tutor Mrs. S. Abeywardena Tutor Mrs. S. Samarawickrama コロombo国立看護学校 Principle Ms.Sheila Parनावithana	1.看護学校内で看護用備品の調査 2.蔵書数の調査 3.Matron, Tutorと調査質問書について事情聴取 4.資料収集
3月12日(火)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Director Dr.D.L.De Laneralle Tutor Mrs. M.W.Ranawala Tutor Mrs. S.Abeywardena Tutor Mrs. S.Samarawickrama 保健省 Additional Secretary Dr.L.Jayasuriya Director Mrs.N.C.De Costa	1.調査質問書について回答収集 2.看護婦の病院内教育のありかたについて討論 3.スリランカの看護婦事情について討論 プロジェクト用事務室の設置に関しての話し合い
3月13日(水)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Director Dr.D.L.De Laneralle Matron Ms. H.A.S. Sri Chandra Tutor Mrs.S.Abeywardena	1.調査質問書に関する回答収集

月 日	面 談 先・面 談 者	面 談 内 容・調 査 内 容	
3月14日(木)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Accountant Mr. D.S. Gamage Assistant Account Mr. S.K.D.Dharshana Deputy Matron Mrs. M. Dayananda	SJGHの年間予算の配分 院内教育の年間計画	
3月15日(金)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Deputy Matron Mrs. M. Dayananda Chairman Dr.T.B.Peiris 保健省看護教育部 Director Mrs.N.C.De Costa	病院内視察 PDM案の内容について説明 地方国立病院・看護学校視察の 打ち合わせ	
3月16日(土)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Deputy Matron Mrs. M. Dayananda	資料収集	
3月17日(日)	資料整理		
3月18日(月)	スリジャヤワルダナブラ総合病院 Director Dr. D.L.De Laneralle Deputy Director Dr.Kenthi Kuwanage Matron Ms.H.A.S.Sri Chandra Deputy Matron Mrs. M. Dayananda Tutor Mrs.M.W.Ranawala Tutor Mrs.S.SamaraWickrama	PDM案についての説明 A. 学校完成までの2年間の活動計画 B. 専門家の派遣分野 C. プロジェクト事務所の開設の準備 D. 学校建設に関する意見・要望	
3月19日(火)	クルネガラ総合病院 Director Dr.Kamal Jayasinghe クルネガラ看護学校 Matron Mrs.T.D.A.S.Gunatilake Tutor Mr.H.B.P.S.Werahera	病院主要施設見学 学校施設視察	a.Tutor数の不足 b.臨床指導者の必要性 c. 学生寮の設備が十分でない d. 教育用機材の不足
3月20日(水)	キャンディ総合病院 Deputy Director Dr.N.S.Thalgahagoda キャンディ看護学校	病院主要施設見学 学校施設視察	a. 学校運営のための予算の不足 b. 教育用機材の不足 c. 臨床指導者の育成

月 日	訪 問 先・面談者	面談内容・調 査 内 容	
3月21日(木)	アヌラダブラ看護学校 Acting Principle Mr. E. M. S. Gunatilake アヌラダブラ総合病院 Matron Ms. N. D. K. Weera Singa	学校施設見学 病院主要施設見学	a. 学生寮が老朽化して一部使用出来ない状態 b. Tutorが5人しかおらずTutor不足 c. 学生の管理に精一杯で教育に専念出来ない d. 教育用機材の絶対数の不足
3月22日(金)	ゴール看護学校 Vice Principal Mrs. Y. Malliyawada Tutor Mrs. P. P. Daya Gamage Tutor Mr. L. Somapara ゴール総合病院 Matron Ms. N. Weerawickrama	学校施設見学 病院主要施設見学	a. 学校が老朽化して傷みがひどく1カ月前に学校の一部は使用不可 b. 学生寮の一棟(40人収容)は老朽化して使用不可 c. Tutor数の不足 d. 教育用機材の不足 e. 学校と実習病院の距離が離れすぎ
3月23日(土)	ゴール看護学校 Principal Ms. M. G. B. Silva ラトナブラ看護学校 Principal Mrs. D. P. A. K. Weeraratne Tutor Mrs. B. J. Yasaratne ラトナブラ総合病院 Matron Mrs. V. P. E. Rauatanga	学校長と面談 看護学校施設見学 病院主要施設見学	a. 教育用機材の不足 b. 教員のための研修の機会がない c. Nursing Council を設立して欲しい d. 保健省の上層部が看護教育に対して全く関心を持っていない
3月24日(日)	資料収集整理		
3月25日(月)	JICAスリランカ事務所 稲見所員 日本大使館 金井書記官 保健省・看護教育部 Director Mrs. N. C. Decosta	地方国立病院視察報告 調査経過の報告 調査結果の報告	

月 日	訪問先・面談者	面談内容・調査内容
3月26日(火)	スリジャヤワルダナブラ病院 Director Dr.D.L.De Laneralle Deputy Matron Mrs.M.Dayananda Accountant officer Mr.D.S.Gamage 保健省・看護教育部 Director Mrs.N.C.De Costa 保健省・看護部 Director Ms.Kusum Vithama 保健省・公衆衛生看護部 Director Mrs.Karuma Saranguhewa コロombo総合病院 Matron Mrs.C.Wijenaika	地方国立病院・看護学校視察の報告 院内研修に関する資料収集 病院の年間収支の資料収集 コロombo総合病院見学の打ち合わせ NURSING COUNCILの設立に関する説明 地域看護・保健活動についての説明 病院視察・S.I.C.U.
3月27日(水)	スリジャヤワルダナブラ病院 Library Assistant Ms.I.P.Mahaliyonage 保健省・看護部 Director Ms.Kusum Vithama Deputy Matron Mrs.M.Dayananda	病院の図書に関する情報収集 NURSING COUNCILの設立に関する説明
3月28日(木)	コロombo総合病院 Tutor Mrs.P.A.Perera Ward Sister Mrs.Gunasbkara	病院視察・内科病棟視察、学生実習の見学
3月29日(金)	スリジャヤワルダナブラ病院 ナワロカ私立病院 Principal Mrs.E.K.Abupratne 公開大学 Faculty Ms.Chandra de Silba	病院視察・内科病棟視察、学生実習の見学 病院視察 教育の内容に関する情報収集
3月30日(土)	スリジャヤワルダナブラ病院	病棟視察・看護業務のシステムの確認

月 日	訪問先・面談者	面談内容・調査内容
3月31日(日)	資料整理	
4月1日(月)	スリジャヤワルダナブラ病院 Deputy Matron Mrs. M. Dayanand	人工透析室見学 N.I.C.U. 見学 小児病棟見学
4月2日(火)	スリジャヤワルダナブラ病院 Deputy Matron Mrs. M. Dayanand Matron Ms. H. A. S. Sri Chandra	C.C.U 見学 I.C.U 見学
4月3日(水)	スリジャヤワルダナブラ病院 Deputy Matron Mrs. M. Dayanand Matron Ms. H. A. S. Sri Chandra	院内研修年間予定作成について話し合い
4月4日(木)	保健省・看護教育部 Director Mrs. N. C. De Costa 保健省・看護部 Director Ms. Kusum Vithama Deputy Director Dr. K. E. S. Dalpatadu Additional Secretary Dr. Lucian Jayasuriya 保健省・保健次官 Secretary Dr. Dudley Dissanayake	地方看護学校視察報告
4月5日(金)	資料整理	
4月6日(土)	資料作成作業	

月 日	訪問先・面談者	面談内容・調査内容
4月7日(日)	資料作成作業	
4月8日(月)	保健省・看護教育部 Director Mrs.N.C.De Costa 保健省・看護部 Director Ms.Kusum Vithana 保健省・保健次官 Secretary Dr.Dudley Dissanayake 大蔵省・対外資源局 Deputy Director Mr.B.H.Passaperuma 保健省・公衆衛生看護部 Director Mrs.Karuma Saranguhewa 保健省・健康サービス局 Deputy Director Dr.K.E.S.Dalpatadu 保健省・保健次官補 Additional Secretary Dr. Lucian Jayasuriya スリジャヤワルダナブラ総合病院 Chairman Dr.T.B.Peiris Director Dr.D.L.De Laneralle 日本大使館・書記官 Secretary Dr. K.Kanai JICA 事務所員 Mrs.J. Inami スリジャヤワルダナブラ総合病院 Matron Ms.H.A.S.Sri Chandra	最終合同討議 1. 地方看護学校・病院視察報告 1) 視察目的 2) 調査内容 3) 現状と問題点 4) 改善点 2. S.J.G.H.の現状と問題点と対策 3. P.D.M.案の説明 4. T.S.I.案の説明 5. 保健省の理解と協力の要請
4月9日(火)	保健省・看護教育部 Director Mrs.N.C.De Costa スリジャヤワルダナブラ総合病院 Matron Ms.H.A.S.Sri Chandra	最終報告 最終報告
4月10日(水)	JICA事務所訪問 日本大使館訪問	最終報告 最終報告
4月11日(木)	スリランカ発	
4月12日(金)	成田着	

別紙ー 2 主要面談者

- (1) 日本側
- 1) JICAスリランカ事務所 中村所長
稲見所員
金井書記官
 - 2) 在スリランカ日本国大使館
- (2) スリランカ側
- 1) 財務省・対外資源局
Mr. B. H. Passaperu Deputy Director 海外援助局課長
 - 2) 財務省・国家開発局
Mrs. P. Alailima Director 国家開発局長
Ms. W. A. S. Mahawens Deputy Director 国家開発局課長
 - 3) 保健省
Dr. Dudley Dissanayake Secretary 保健次官
Dr. M. A. L. R. Perera Director General 保健サービス総局長
Dr. Lucian Jayasuriya Additional Secretary 保健次官補
Dr. K. E. S. Dalpata Deputy Director General 医療サービス局長
Dr. G. Jeganathan Deputy Director General 医療サービス局長
Mrs. N. C. De Costa Director Nursing Education 看護教育部長
Ms. Kusum Vithama Director Nursing Medical Education 看護部長
Ms. Karma Saranguhewa Director Public Health Nursing 公衆衛生看護部長
 - 4) スリジャヤワルダナブラ総合病院
Dr. T. B. Peiris Chairman 理事長
Dr. D. L. De Laneralle Director 病院長
Dr. Keinthe Kuwanage Deputy Director 副病院長
Mrs. M. W. Ranawala Tutor 看護教員
Mrs. S. Abeywardena Tutor 看護教員
Mrs. S. Samarawickrama Tutor 看護教員
Ms. H. A. S. Sri Chandra Matron 総婦長
Mrs. M. Dayananda Deputy Matron 副総婦長
Mr. D. S. Gamage Accountant General 会計部長
Mr. S. K. D. Dharshana Assistant Accountant 会計課長
Ms. H. Jayawardera Medicine Record Officer 診療録課長
 - 5) JICA 集団研修帰国研修員 (専門看護・看護管理コース)
Mrs. C. A. Jayasinghe Nurse コロンボ総合病院
Mrs. R. D. M. S. Weeratunga Nurse コロンボ総合病院
Mrs. M. F. J. M. Kurera Nurse コロンボ総合病院
Mrs. B. D. Chandralatha Nurse コロンボ看護学校
Mrs. N. S. Widyapathige Nurse コロンボ南総合病院
 - 6) クルネガラ総合病院・看護学校
Dr. Kamal Jayasinghe Director 病院長
Mrs. T. D. A. S. Gunatilake Matron 総婦長
Mr. H. B. P. S. Werahera Tutor 教員
 - 7) キャンディ総合病院・看護学校
Dr. N. S. Thalagahoda Deputy Director 副病院長

- 8) アヌラダブラ総合病院・看護学校
 Mr.E.M.S.Gunatilake Vice Principal 副校長
 Ms.N.D.K.Weerasinga Matron 総婦長
- 9) ゴール総合病院・看護学校
 Ms.M.G.B.Silva Principal 校長
 Mrs.Y.Malliyawadu Vice Principal 副校長
 Mrs.P.P.Daya Gamage Tutor 教員
- 10) ラトナブラ総合病院・看護学校
 Mrs.D.P.A.K.Weeraaratne Principal 校長
 Mrs.B.J.Yasaratne Tutor 教員
 Mrs.V.P.E.Ranatunga Matron 総婦長
- 11) コロンボ総合病院・看護学校
 Mrs.Sheila Paranaivithana Principal 校長
 Mrs.P.A.Perera Tutor 教員
 Mrs.C.Wijenaika Matron 総婦長
 Mrs.Gunasekara Ward Sister 病棟婦長
- 12) ナワロカ私立病院
 Mrs.E.Kusuma Abupratne Principal 校長
 Mrs.Heurawali Fernando Chief Matron 総婦長
- 13) 公開大学看護学部
 Mrs.Chandra De Costa Faculty 講師
 Mrs.Charlotte Sawarasekera Faculty 講師
 Mrs.Trixie Martinosz Faculty 講師
 Mrs.viola Perera Faculty 講師
 Mrs.Moirra Cawtron Faculty 講師
- 14) 卒後研修養成所
 Mrs.S.Abeyratne Principal 校長

看護教育の現状と問題点

1. 国立看護学校の現状視察

1-1 クルネガラ (KURUNEGARA) 看護学校

学校が開設されたのが1957年で、事務管理棟(2階建て)は1993年に新築した。現在、学生は看護コースが173名、助産婦コースに96名、STAFF NURSESの助産婦コースに52名が学んでいる。教員は9名ですべて教員の資格を持っている。学校内の設備としては350m位の大きな教室があり、3年生はちょうどHealth Departmentが実施しているunit毎の進級試験を受けていた。

図書室は広さが50m程度で、蔵書は約1,000冊で古い本が目立った。図書購入代として年間予算は35,000ルピーである。実習室は150mほどの広さで9ベッドが置いてあった。学生用宿舎は150人収容出来るだけで残りの120名はやむなく通学となっている。調理場を覗いて見たがガスレンジが故障していて使用出来ず、薪を使って調理をしていた。また水不足が深刻で時間給水が続いており、調理の業務にも支障を来しているとのこと。宿舎に住んでいる学生達は朝の授業が始まる前にポリバケツに水を汲んで置いて出かけるようにしている。教員からは、A. 教員の絶対数の不足、B. 学生宿舎の不足、C. 看護教材の不足、の問題点が挙げられた。要望として政府が看護教育の予算をもっと増やして学校の設備拡充に力を入れて欲しいと言うのが大方の意見だった。実習病院は道路を隔ててあるので徒歩で可能な距離である。病院長は臨床指導者の育成の必要と教員の増員を要望していた。

1-2 キャンディ (KANDY) 看護学校

本館はカソリックの教会だった建物を1957年に看護学校として開設した。学校は隣接して3棟から構成されている。この内の1棟は1995年に2階建ての校舎として建設された。看護コースは2年生が150人、3年生が15人で助産婦コースの学生が140人、スタッフナースの助産婦コースに75人が学んでいる。教員は14人いるが2名は休暇を取っており、2名はUNICEFの奨学生として海外に出ているので実質は10名で業務を行っている状態である。4名の教員補充がないので、業務の負担が多くなったと話している。実習室は広さが80m程で実習用ベッドが6台ある。図書室は広さが80m程で、中央に楕円形のテーブルと25人分の椅子が置いてある。蔵書数は1,500冊程あった。学生宿舎は150人収容出来るのみで、残りの学生は自宅通学せざるを得ない状態である。教員と看護教育の現状について話し合ったが、A. 看護教育への政府からの援助額が少なく、それが蔵書数の少なさ、教育用機材の不足、学生宿舎の設備不十分という形で現れている B. 男子生徒の宿舎が欲しい C. 現在の3年の看護コースに助産婦コースも1年加え4年制にして両方の資格が得られるような制度にして欲しい等の意見が出た。男子生徒は現在25名就学している。教員間の話し合いは定期的に月一度開催され、宿舎の運営・教授開発法について検討し合っている。病院はICU・CCU UNITを見学した。総婦長が、2年前までコロネ総合病院にICU・CCUで働く看護婦を研修として派遣していたが知識・技術の向上で現在は自分の病院で研修を実施出来るようにしていると自信ありげに語っていた。確かにUNIT内は医療器具も装備されており、入室にも予防衣着用・下履きの取り替えと清潔に心掛けていた。看護婦1名が患者1名を管理していた。

1-3 アヌラダプura (ANURADHAPURA) 看護学校

1964年に設立された学校も現在は老朽化し、学生宿舎80室(2人用)の内20室は雨漏りや電気の問題等で使用不可となっている。看護コースに2年生94名、3年生63名、助産婦コースが36名、STAFF NURSESの助産婦コースが47人の合計240人が在籍している。驚いたことに現在、教員はわずか5名しかおらず、ちょうど視察の日は教員1名が休暇を取った上、学生の進級試験の実施日ということで、業務も多忙で4人の教員でなんとか作業を進めていた。教員が少ないので、その日の業務を消化す

るだけで精一杯で教育について教員同士で語り合う時間の余裕もないのが現状である。宿舍の運営、水不足の問題、停電の問題、炊事用燃料の問題等、教育とかけ離れた問題が発生するので時間的な余裕がない。(Acting Principalの談)

図書室は40m程度で机1個と椅子が3個置いてあり、蔵書は約1,000冊位である。この学校も新しい参考書はあまり見当たらなかった。実習室は広く150mほどあり、実習用ベッドが7台ある。建物はかなり古いが、窓が多く、構造上、採光性を十分に考えて設計されているので学校内、宿舍内は全般的に明るく、しかもきれいに整備されている。特に、食堂は広くて、明るく清潔感を与える。その点で他の看護学校より優れている。病院のベッド数は1,100床で常に満床の上、病室に収容しきれない患者は病棟の廊下で入院生活を送っている光景も見られた。看護婦数は354名と非常に少ないので看護婦の院内研修を定期的には実施するのは難しい状況である(病院総婦長談) 確かに患者数が1,100を超えるなかでの看護婦数は少なすぎる。

1-4 ゴール看護学校 (GALLE)

学校の敷地が海沿いに面しているせいか、1956年に建設された学校は至る箇所で建物の破損が目立ち、本館は一部を除いて使用不可となり、閉鎖している。1992年に新築した別棟を利用してなんとか授業を行っている。隣接していたゴール総合病院も建物の破損がひどく、産科病棟と産科外来のみを残して閉鎖し、すでに1982年に6Km離れたカラピティア (KARAPITHIYA) に総合病院として移転している。しかし看護学校はその場に残っているので学生の実習にバスを利用して毎日通わなければならない、学生・教員の負担は増すばかりで、教員は運営・管理の大変さを強調して早い改善を訴えていた。学生宿舍2棟の内、1棟(40人収容能力)は老朽化して3年前から使用していない。看護コースの2年生158名(内45名は男性でARMYが37名)、3年生106名(内51名は男性のARMY)、助産婦コースの学生89名、STAFF NURSESの助産婦コースに56名の合計409名が学んでいる。入学生の教育レベルはG.C.E.Aが90%を占めている。教員数は校長も含めて9名でその内、7名は研修・奨学生としてイギリス、インド、タイなどの海外経験を持っている。実習室は100mほどで実習用ベッドが6台あった。図書室は狭くて40mほどの広さで約1,000冊の蔵書数だった。現在の学校の抱えている問題は前にも述べた通り、A.実習病院までの距離が遠すぎることに B.建物が老朽化してこれ以上学校の施設として使用していくには問題がある。保健省の関係者が施設の状況を視察しているが何の対応策も講じられていない C.教員の絶対数の不足 D.AUDIO-VISUALの機器を昨年保健省から受領したがソフトウェアのビデオテープがないので使用出来ない状態である。E.現在、4 BATCHESがあるも使用出来る教室は2教室だけで、やむなく隣接している閉鎖した病院の病棟を教室として利用し授業を行っている F.助産婦トレーニングコースを看護婦の資格を取得した後に1年間のトレーニングを得て資格を取得出来る日本式のプログラムに改訂して欲しい G.スリランカに4年制の看護大学を設置して欲しい H.図書数を増やして欲しい。等の意見があった。総合病院は病床数が1200で、看護婦は518人である。ICU UNITを見学した。広さは100m程で、6ベッドあり、未熟児3名が治療を受けていた。室内は広くゆったりしており、落ち着いた雰囲気 UNITだった。ただ、室内で蠅が飛んでいるのに気がつかないのか、気にも止めないのかそのままの成り行きだった。このICUでは1985年にJICA研修生 (Clinical Nursing Course) として沖縄の研修センターで7ヵ月研修を受けた看護婦が働いていた (In Charge of Nurses)。外科病棟を見学に行ったが病室が満床で、病室に入り切れない患者が5人ほどベッドが空くのを待ち廊下で寝ていた。外科病棟だけでなく他の病棟でも同じ状況であると総婦長が説明してくれた。暑いせいもあり、病院特有の臭いが感じられた。それにしても看護学校と実習病院が離れすぎているのはやはり問題がある。

1-5・ラトナプラ (RATNAPURA) 看護学校

看護学校と病院は1959年に設立された。現在看護婦コースに2年生67名、3年生28名、STAFF NURSESの助産婦コースに12名、助産婦コースに68名の合計175名が在籍している。教員は8名で、教室は3教室あり、机や椅子もかなり傷んでいる。建物も築後37年経過して古くなっている。学生用の宿舎は1部屋が10人用の大部屋となっており、現在56人が生活している。宿舎に入れない生徒は自宅から通学している。実習室は広さが100mほどで実習用ベッドは6台置いてある。給水設備はほんの小さい手洗いが1カ所あるだけで、マネキンも古いタイプのが2台あるだけだった。図書室は広さが50mほどでそれほど広くはないが蔵書の数はいくつもあった。A.D.B. (Asian Development Bank) から学校の備品として、冷蔵庫・コピー機・O.H.P.・実習用ベッド6台・宿舎用ベッド56台等がこれまでに寄贈された。ここでも教員の不足や教員の労働条件の悪さ、それによる学生への教育の質の低下を危惧していた。良い教育を進めていくためにも教員の増員、労働条件の改善を求めている。昨年、保健省から配分された視聴覚器材はテープがないので使っていない。病院は学校に隣接しており、病床数は894、看護婦は276名である。S.C.U・C.C.U室は現在中央配管システムに切り替えのための工事をしていた。この病院も病室に患者を収容しきれず、通路で治療を受けている光景をあちこちの病棟で見かけた。総婦長は、看護婦の絶対数の不足を挙げ、早く充足出来るようにして欲しいと訴えていた。また彼女は、スリランカにおいては、すべてMEDICAL COUNCILの支配下にあり、看護婦のそのもののパワーがどうしても出せない。一日も早くNURSING COUNCILの設立を望んでいると話してくれた。院内研修は毎月定期的に行われており、2月はJUNIOR NURSE (卒後3～4年) のための研修が行われた。内容としては、「看護婦のパーソナリティ」、「看護婦の責務」、「健康教育」といった看護原理から「心疾患について」、「感染予防」といった看護実践の研修まで盛り込まれていて、毎回30人程の看護婦が出席しているとのこと。4月にはSENIOR NURSE (卒後10年) のためのMANAGEMENT PROGRAMEを計画している。

1-6 コロンボ (COLOMBO) 看護学校

看護学校・病院とともにスリランカの看護・医療の中核を占めているだけに規模も大きい。看護婦コースに2年生250名、3年生72名、助産婦コースに130名が学んでいる。教員は11名である。図書室は広く、2部屋から構成されており、専門のスタッフが常勤している。蔵書は4,000冊ほどあり、室内も20人は座って読書出来る余裕がある。学生宿舎は150人の収容能力を持っている。部屋の構造は地方の看護学校の宿舎と変わらなく1部屋を2人で使用している。実習室は3カ所にあり、それぞれ部屋の大きさは違うが、大きい実習室で8台のベッドがあった。ただ問題なのは学校と宿舎が隣接していて、実習室の2部屋は宿舎の中に設けられていて、移動にも時間がかかることである。学生用の机・椅子は地方の各学校とも共通のサイズであったが、このコロンボの学校も机や椅子はやはり小さくて、学生は窮屈そうにしながら講義の内容を筆記していた。机と言っても椅子に20×30cmほどの板が取り付けただけでおよそ机とは言いがたい。ちょうど2年生の授業風景を見学したが、100mの教室で120人の生徒が講義を受けていて、隣同士の席の間隔が全くなく、また後ろの席では教員の話す声が聞き取りにくかった。この学生数ではやはりマイクがどうしても必要である。コロンボだけでなく、視察した各看護学校の教育環境はどこも同じで学生にとっては厳しい状況での学校生活と言える。2年生の病院実習 (内科病棟) を見学した。この病院はフィンランド政府の援助で建設された。朝7時に申し継ぎが始まるので、学生達 (7人) は10分前には病棟に来て、病棟に備え付けの実習簿に名前を記入し、看護婦詰所で開始を待っていた。教員も学生と一緒に病棟に来ていた。簡単な病棟婦長の挨拶があり、夜勤看護婦の記録した夜勤簿に日勤の看護婦と学生も一緒にまじって読み、それから婦長初め全員で各病室を回る。患者のカルテ (日本の様式と全く違い、看護記録紙・医師記録紙・配置指示紙・体温表などが紙のサイズも紙質も異なり、クリップで閉じて

カバーをつけているだけのもの)は患者のオーバーヘッド・テーブルに置いてあり、夜勤看護婦が特に、異常のあった患者だけ口頭で日勤の看護婦に伝えて病室を回る。病棟は52床で、見学時は46名の患者が入院していた。したがって7分程で全病室を回り、夜勤看護婦の業務は終了する。この病棟ではスタッフとして看護婦12名、看護助手5名、掃除人10名の構成で、日勤は看護婦6名、看護助手2名、掃除人5～6名、夜勤は看護婦2名、看護助手2名、掃除人2名の勤務体制で行われている。ところが日勤の看護婦が今日は足りないので、夜勤を終えた2名の看護婦は、通じて日勤の業務を続けることになった。夜勤の勤務が夜7時から朝の7時までで日勤が7時から午後1時までなので、彼女達は結局18時間労働になる。看護業務の中ではカーデックスを使用しておらず、したがって患者のニーズに沿った看護計画は立てていない。患者の入院があっても看護婦は部屋を準備し、医師が直接患者から病状を聞いて自分で血圧測定し、検査・注射の指示を出す。看護学生は1人で6名の患者を受け持っている。申し継ぎが済んだら今日はシーツ交換日なので自分の受け持ち患者のシーツ交換を行い、その後は患者のケアを始めた。寝たきりの患者の口腔清拭を行う学生、2人の学生でケリバードを使用して患者の洗髪をしたり、食事の介助の世話などを行っていた。横では教員が学生に対して色々とアドバイスを与えていた。しかし、教員も学生の講義を控えてあるので9時半には学校に戻った。内科病棟の実習は3年間で300時間以上あり、実習時間は午前7時から12時までで、午後は講義という形式である。このコロombo病院はTEACHING HOSPITALなので医学生が15人実習に来て患者の診察を行っていた。

1-2 国立看護学校の抱える問題と解決策

1-2-1 現状と問題

今回の視察で地方の看護学校5校、コロombo市内の看護学校1校を調査した。まず目についたのは建物の老朽化である。ほとんどの学校は築後30年以上経過しており、建物の内部は至る箇所で損壊している。屋根の瓦がはがれたり、天井板がはがれたり、水漏れ、電気の問題等で、特に悪い状態はゴールの看護学校だった。施設の半分は損壊が激しくて使用出来ず、隣接のゴール病院の病棟を教室として使用している状況である。また、2棟ある学生宿舎の内、1棟は建物の傷みがひどく使用出来ない状態である。ゴールの教員だけでなく、どこの教員も施設の老朽を訴えていた。全般的に建物の内部は暗く、照明も充分ではなかった。学校の設備も十分でない。スリランカにおいて看護学校設置の際の基準がないので、看護教材、医療器具、病理用標本等の数も非常に少ない。日本の看護学校の設備と比較して、もっとも過酷なのは授業用の椅子と椅子の間隔が狭く、50mの広さで70人から80人の学生が窮屈さを感じながら、授業を受けている。学生の教育環境は決して良い状態とは言えない。カリキュラムの問題もある。3年間で講義と実習の時間が4,107時間と多く、休暇制度もない。学生の健康にも影響する。日本の国立の看護学校では年間11週間の休暇が認められている。教員の皆が一致して訴えたのは、教員数の不足である。特に教員の少ない学校はアヌラダプラの看護学校で学生240名をわずか5名の教員で管理している。少なくとも、もう5名は必要であると訴えていた。彼らは教員の不足で学生に対する十分な教育が出来なくなることを懸念していた。次に看護教育への政府からの予算の額が少なすぎることである。そのため必要な教材を揃えることが出来ない状態である。各看護学校には政府から図書購入費として年間3万から3万5千ルピーの援助があるも少なすぎる。ほとんどの学校では古い書籍が多く、最新の本を欲しいと話していた。(資料参照) 1.

1-2-2 解決策

現状の山積みしている問題を解決するためには、

A. 教員の増員に努めることで、そのためには教員養成の卒後研修を毎年、定期的に実施して着実に教員を養成していくことが必要である。それとともに、教員の労働改善も検討する必要がある。

B. 長期展望で、日本のカリキュラムに合わせた看護教育を実施すること。

- C. 学校設備の拡大（図書室・図書数の増大、教材の補充）に努めることで、政府からの援助を拡大する必要がある。
- D. 教育方法の開発について教員間での情報交換の場を設けて国内外研修を実施すること。

1-3 国立病院の現状

各病院の総婦長が一番先に挙げるのが看護婦不足で、そのために各看護婦への労働負担が多くなっていると話す。また一般病棟は常に満床で、通路にも多くの患者が寝てベッドの空くのを待っている状況である。看護婦の院内研修は各病院で実施しているようだが回数、研修内容は一定していない。各病院間での看護婦同士の研修会や交流も全く行われていない。それと看護婦の業務そのものが医師の認識を得ていないのでどうしても医師の介助という立場に置かれざるを得ない点が挙げられる。各看護婦が自分の業務の役割意識を持つことがこれからの看護にとって大切なことである。

2. スリジャヤワルダナブラ (SRI JAYEWARNAPURA) 総合病院の現状視察・調査

2-1 看護学校の現状

2-1-1 学校の現況

この病院にはそもそも看護学校の建物が存在していない。今年の3月まで病院のWARD 10を看護学校として使用していた。しかしこのWARDも整形外科として使用することになったので、現在のSUPPLY UNIT BLOCKの一部を学校として使用しているにすぎない。看護学校として使用している部屋の広さはわずか100m²で、この中に教室、実習室、図書、教員室が1フロアに混在している。ここはあくまでも臨時に使用しているのみで、1年生が入る頃（今年の5月か6月）には病院のWARDをまた使用する予定である（病院長談）。学生用の椅子は50ほど、実習用ベッドは2台、図書は493冊といったところが主な備品である。年間25,000ルピーを図書購入費として病院から支給されるが定期的でなく去年は予算の配分がなかった。教員は3名である。昨年12月に卒業した学生32名は全員、スリジャヤワルダナブラ (S.J.G.H.) 病院に就職した。

2-1-2 学生の状況

学生は昨年12月に卒業したので現在は学生はいない。今年度の入学生の募集は昨年実施された。志願者は5,000人で書類選考で900人がパスして、筆記試験を行い、490人がパスした。そしてこの490人に対して面接試験を実施し、最終的に57人が合格し今年の開校を待っている。面接試験官は i. 保健省の看護部長 (Ms. Kusum Viithana)、ii. 病院長、iii. SJGH委員会の一員、iv. 総婦長（兼学校長）で、選考基準として、i. 身長5フィート2インチ以上、ii. 人物確認、iii. 語学証明書の確認、iv. 身体検査、v. 知性・信条の質問を基準にしている。入学すると修学金として1,800ルピーが支給される。宿舍費は無料である。食事代は実費で、朝食8ルピー、昼食20ルピー、夕食20ルピーとなっており、月平均で500～600ルピーが食事代となる。

2-1-3 施設設備

前記で述べた通り看護学校そのものの施設がなく学校としての機能を果たしていない。学生宿舍もなく、やむなく看護婦寮の一部を学生用として使用している状態である。部屋は大部屋2部屋と小部屋1部屋があり、大部屋は80m²の広さに2段ベッド12台設置されている。大部屋は24人用で、小部屋は20m²の広さで5人用という設定であった。各看護学校の学生宿舍を視察して、どこも満足と言える生活環境ではなかったがS.J.G.H.の宿舍は最悪である。S.J.G.H.の入学生で中途退学者が多いという理由として看護の適性がないので退学すると聞いたが、それよりも劣悪な環境の宿舍生活を嫌って学生が退学するのではないかと推察される。部屋の中には学習用机もない。部屋を出た廊下に長い机があり、学生達はここで勉強するシステムとなっている。

2-1-4 病院側の理解度

現在、スリランカにはNURSING COUNCILが設立されていない。看護婦の登録もすべてMEDICAL COUNCILにコントロールされているのが現状である。医師の大半はまだ看護婦の地位を認めようという意識がない。そのため看護婦の発言力も弱く、医師の言うがままに業務を遂行しなければならないのが現状である(S.J.G.H.看護婦談)。例えば病院の図書室を見ても一目瞭然である。図書室は50mの広さで蔵書は3,000冊である。この内、看護関係の書籍はわずか28冊ですべて古く、最新の書籍でも12年前のものである。しかも一番奥の本箱の最下段に申し訳なさそうに置かれているだけである。いかに医師主体の機構で動いているかが伺える。専門の図書係のスタッフにこの疑問を問うと、「看護側に書籍の注文リストを提出しても要望がないので購入していない」、と言う答えが返ってきた。ちなみに、LIBRARY COMMITTEEという組織があり、年4回開催されて購入書籍の選択について話し合っているそうだが、看護関係者は一人もメンバーに加わっていない。今後S.J.G.H.のトップが看護教育に対してどのようなPOLICYを持って臨んでいくか、彼等の看護に対する理解と協力がなければいつまでもこのままの地位に甘んじなければならない。

2-2 S.J.G.H.の現状

2-2-1 病院の現況

病床数1,000、3月31日現在看護婦は452人である。昨年8月の409名から8ヵ月で43名増加した(1995年統計資料別添参照)△。しかし、占床率は60%前後と看護婦は増加したのに占床率が伸びないのは問題である。常に満床の病棟は、産科の62床、婦人科の62床、外科の3病棟186床、内科の3病棟186床である。それでも看護婦不足で開設出来ない状態だった整形外科病棟は昨年の3月から、耳鼻科病棟は5月から開始され、また看護婦不足で閉鎖していた小児外科病棟も昨年の6月から再開された。そのほかにC.C.U.は現在4床開始している。

2-2-2 病院の施設設備

日本政府の援助で建設された病院は構造・機能ともに優れている。視察した他の地方国立病院とは比較にならない。病院内の手入れに力を注いでいるのがわかる。建設後12年経過しているとは思えないほど内部はきれいに清掃されていて、病院特有の異臭は全く感じない。外来は2階まで吹き上げになっていて天井も高くゆったりした感じを与える。病棟内もよく整頓されている。ただ驚いたのは一つの病棟の中に男子と女子の病室が混合していたことである。ドア式の病室ならまだ理解出来るが、病室間の仕切が天井の半分のため通路から病室が丸見えなのは気になった。また、病室の天井に吊り下げられている扇風機の高さが低すぎるのも気になった。人工透析室を視察したが、広さは200mの広さで内部は清潔にしており、治療室も広い。透析用機械は4台設置しており、水処理装置もトラブルなく稼働していた。スリランカでは毎年600人の腎不全症の患者が発生して人工透析の治療を必要としているのに国内の透析治療機がわずか14台しかないで治療を受けられない患者が多く、また治療代は全額自己負担であるため、患者の経済的負担が高く、経済的余裕のある患者でないと治療を受けられないという深刻な問題が生じている。国内で14台の透析機械の内、4台をSJGHが使用しており、その点で透析治療の中核となっている。N.I.C.U.は130mほどの広さで、入室の際は更衣を義務づけ、清潔と不潔の区域をきちんと実施している。集中治療室は8床、回復室は10床で、部屋は4部屋から構成されており、3部屋は集中治療室で、1部屋は回復室としてベビーをケアするように区別していた。保育器は13、ベンチレーターは6台保有していた。C.C.U. (6床)・I.C.U. (6床)は広さ300mほどあり、中央監視装置も設置されていて、機械の設備も十分だった。

2-2-3 看護婦の現況

病院内を歩いていて気がついたことは、高年齢の看護婦の多さが目についた。現在の看護婦の年齢構成を調べると、20～30才代94名、30～40才代104名、40～50才代45名、50～60才代158名、60才以上51名となっている。この数字からわかるように50才代～60才代が全体の35%を占めている。20才代、30才代の看護婦が少ないのは、SJGHの看護学校を卒業した看護婦数が現在まで179名と少ないことが理由に挙げられる。看護婦の職制は総婦長（1名）、副総婦長（1名）病棟婦長（25名）、一般看護婦（422名）で構成されている。なお、この4月1日からMATRONに2名昇級してSECTION MATRONとなり（内科・外科別）、合計4名のMATRONとなる。MATRONは青服で、キャップではなく、ベールをつけている。SISTERS WARD（12名）は白衣で、同様にベールをつけていて他の看護婦は白衣にキャップの服装である。看護婦の職階については資料のとおりである。（年）資料3

2-2-4 看護婦の勤務体制

看護婦の勤務は三交代制である。日勤7 am～1 pm、準夜1 pm～7 pm、深夜7 pm～7 amで週40時間の労働を義務づけられている。一般の看護婦の場合、1時間の超過勤務につき、20ルピーの手当がつく。看護婦の超過勤務時間は平均で、月70から80時間である。夜勤の回数は深夜勤を3日間続け、このサイクルを月2回行うことになっている。卒後1年目の看護婦の給料を例にすると、基本給3,412ルピー、勤務手当860ルピー、祭日勤務手当112ルピー、時間外勤務手当1,560ルピーで合計額5,948ルピーとなり、控除額245ルピーで、実際の受取額は5,640ルピーとなる。

2-2-5 院内研修状況

SJGHの副総婦長の提供資料によると、院内研修は1985年から実施されているが、1987年から8月から1990年12月までの3年間、1992年から1994年の2年間は実施されていない。また去年は1月に実施したのみで、今年は3月に初めて実施したばかりである。今年の研修テーマは「喘息」で26名が受講した。また、今年は研修の年間プランを立てて、第一シリーズとして「感染予防」をテーマにして研修が開催中である（月4回、毎週金曜日）。今年の研修年間予定表は資料のとおりである。資料4

2-2-6 看護婦の臨床実践状況

人工透析室では日勤が6名から7名の看護婦で業務を行っている。日本のように透析機械の保守・点検・修理を担当する技師がいないので機械のトラブルの際はどうか主任医師に聞いてみると、「業者に連絡して来てもらう」という説明だった。透析室での看護婦の業務は、機械を操作するケースが多く、特別な教育と技術と訓練の期間が必要であるが、新卒（入職1ヵ月）の看護婦がすでに治療終了時の返血操作を、しかもカンシを使わず行っていた。N.I.C.U.は視察時に11人のベビーが治療を受けていて一般状態の悪い児は1室4名の治療室を、隔離室として1室を脳脊髄膜炎の児1名、1室を外部の施設から送り込まれる重症児の部屋として1室を1名が治療中だった。未熟児の入院が多く、最近では出生時500gのベビー（27週目）という超低出生体重児の入院もあったそうで、現在も治療中である。この小児科で勤務している女医はカウンターパート研修で1年間日本で研修しており、日本のシステムを見事に導入していた。C.C.U.・I.C.U.では各患者の看護計画を立てて看護業務を実施していた。ただ問題は看護婦不足で、看護婦の月平均の超過勤務は1人90時間から100時間に達している。現在30名の看護婦だがもう20名の看護婦が必要だと婦長は話していた。

2-2-7 SJGH病院の年間収支・支出および看護学校の支出状況
1. 病院の収支・支出状況

	1992	1993	1994
TOTAL INCOME	232,000,000	256,812,806.11	265,743,516.26
Turnover		44,580,026.37	55,460,237.09
Government Grant		186,314,000.00	183,101,000.00
Interest Income		22,898,734.34	24,816,777.00
Other Income		3,020,045.40	2,365,502.00
TOTAL EXPENDITURE	255,600,000	285,550,252.25	331,468,140.90
EXCESS	23,600,000	28,737,446.14	65,724,624.64

1995年度は政府の援助が190,000,000ルピー

1996年度は政府の援助が200,000,000ルピー

[赤字の原因]

1. 人件費の高騰
2. 政府からの援助が少ないー 例年、申請額の40%は削除される
3. 治療費を値上げしたいが政府が認めない

2. 看護学校の年間支出状況

	1992	1993	1994
SALARIES	1,111,310.00	2,258,736.00	1,959,450.00
ALLOWANCES	17,483.00	32,020.00	35,722.00
EPT & ETF CONTRIBUTIO	182,635.00	328,721.00	276,494.00
TRAVELING	25,592.00	24,248.00	1,450.00
SUPPLIES	9,266.00	6,672.00	15,747.00
SUNDRIES	81,765.00	50,837.00	22,500.00
TOTAL	1,428,051.00	2,701,234.00	2,311,363.00

EPT - Employee Provident Fund

ETF - Employee Provident Fund

STATEMENT OF INCOME & EXPENDITURE FOR THE YEAR 1992, 1993, 1994 IN SJGH

	1992	1993	1994
TOTAL INCOME	232,000,000	256,812,806.11	265,743,516.26
Turnover		44,580,026.37	55,460,237.09
Government Grant		186,314,000.00	183,101,000.00
Interest Income		22,898,734.34	24,816,777.00
Other Income		3,020,045.40	2,365,502.00
TOTAL EXPENDITURE (Expenses)	255,600,000	285,550,252.25	331,468,140.90
EXCESS (Surplus of income over expenditure)	23,600,000	28,737,446.14	65,724,624.64
(Excess of expenditure over income balance as previously reported)		(323,452,921.19)	(354,228,319.67)
(Adjusted in respect of previous year)		(2,037,952.34)	(319,529.53)
(Excess of expenditure over income balance adjusted as at the beginning of the year)		(325,490,873.53)	(354,547,849.20)
(Excess of expenditure over income balance at the end of the year)		(354,228,319.67)	(420,272,473.84)

NURSES TRAINING SCHOOL - RECURRENT EXPENDITURE
IN SJGH

	1992	1993	1994
SALARIES	1,111,310.00	2,258,736.00	1,959,450.00
ALLOWANCES	17,483.00	32,020.00	35,722.00
EPT & ETF CONTRIBUTIO	182,635.00	328,721.00	276,494.00
TRAVELING	25,592.00	24,248.00	1,450.00
SUPPLIES	9,266.00	6,672.00	15,747.00
SUNDRIES	81,765.00	50,837.00	22,500.00
TOTAL	1,428,051.00	2,701,234.00	2,311,363.00

EPT - Employee Provident Fund

ETF - Employee Provident Fund

3. スリランカ側政府関係者の見解

前回の事前調査団の調査結果に基づいた見解を伝えた。

(1) 看護教育における問題および課題として

- A. 新しい知識や技術を学ぶ機会がない
- B. 学校管理についての関心の薄さ
- C. 学校内での基礎教育が充分行われていない

その理由として、a.カリキュラムが臨床実習に偏りすぎている b.図書の不足
c.看護教材の不足 d.機材の不足が挙げられる。

(2) 看護教員体制上の問題点として

- A.教員の絶対数の不足
- B.教材、教育機器、図書などの不足による教授法開発の限界
- C.国が教員養成に関する長期的計画を持たない

上記(1)、(2)の問題点に関して政府関係者のコメントを得た。

3-1 大蔵省・海外援助局副局長 (Deputy Director Mr. B.H.Passaperuma)

- 1. 日本側の指摘は正しい。大蔵省としてもこのプロジェクトに力を注いでいる。
- 2. 保健省のプロジェクトに対する取り組む姿勢に問題がある。
- 3. SJGHの運営・管理の問題がある。

3-2 大蔵省・国家開発局課長 (Director Mrs. P. Alailima)

- 1. 教員の養成がされていないのは問題である。
- 2. 看護教育の組み立てが系統化していない。
- 3. 看護教育に対する予算は十分に保健省に捻出している
- 4. SJGHがこのプロジェクトに対してどれだけの意識・熱意を持って臨んでいるか疑問である。
- 5. 保健省内部の看護教育に対する姿勢に問題

3-3 保健省・保健次官 (Secretary Dr. Dudley Dissanayake)

- 1. 国内のモデル学校を目指して日本側からの援助に最先端の技術を要請している。
(HIGH LEVEL HIGH STANDARD)
- 2. SJGHの看護学校を他校と別格にする特別校にしたい考えである。

3-4 保健省・健康サービス局総局長 (Director General Dr. M.A.L.R.Perera)

- 1. 保健次官は看護の現状を理解していない。
- 2. このプロジェクトはあくまでも看護学生の基礎教育を目指している。
- 3. プロジェクトの進行に全面的に協力する。

以上から保健次官と保健総局長との間で見解の相違があったので調整する必要がある。

4. 看護教育システム

4-1 看護教育プログラム

4-1-1 基礎看護教育課程 (国立看護学校)

今年度の入学予定の学生募集に全国から35,000人の応募があり、今年の2月に筆記試験が実施され、1,000人が合格した。試験に面接も取り入れる予定もあるが、政党の関係者、政府関係者からの縁故要請が生ずる可能性が高いので現在はまた、筆記試験だけにしている。各看護学校の学生の受入能力と学生の出身地により、人数は配分される。入学後、保健省試験課による学年毎の試験(筆記と実践)があり、両方とも合格しないと進級出来ない。3年間の教育を受けた学生は看護教育課が実施する看護婦国家

試験を受けて、合格者はSri Lanka Medical Councilに登録される。国立病院での就労義務は10年間で、最初の2年間は他の国立病院に転勤出来ず、その後は自分の希望の国立病院に転勤することが出来る。20年前の規則では、入職後、4年間は結婚も認められていなかった。5年間勤務すると、5年間の無給休暇(No Payment Leave)の制度があり、申請すると労働休暇(Working Leave)・留学休暇(Study Leave)として国外で生活することが出来る。しかし、1982年以来、留学休暇は中断して現在は労働休暇のみ2年間認めている。年間の枠は50人までと決められている。

4-1-2 基礎看護教育課程(スリジャヤワルダナブラ看護学校)

入学資格・カリキュラムは国立看護学校の内容に準じている。本年入学予定の学生募集は昨年(1993)の1月25日の新聞紙上で行われた(募集案内資料参照)。約5,000人の応募があり、昨年(1993)の11月29日に一斉の筆記試験を行い、900人が合格した。そして書類選考を行い、490人が今年(1994)の1月に面接試験を受けた。その結果57人が合格した。

4-1-3 卒後教育課程(Post Basic School of Nursing)

卒後教育のための学校(P.B.S.)はコロンボ看護学校内の2階にある。この学校では各種の研修が行われている。デプロマ・コースは下記の3コースで1年6ヵ月の研修期間である。

1. 教員養成コース(Diploma in Ward Management)
2. 看護管理コース(Diploma in Teaching & Supervision)
3. 公衆衛生看護コース(Diploma in Public Health of Nursing)

1993年以来、上記のデプロマ・コースは実施されていなかったが、今年は教員養成コースを6月に定員35名で実施する予定で、看護管理コースは100人定員で、公衆衛生看護コースは100人定員で各々、開講することが決まった。すでに募集要項も出来ているので今年は実施される可能性は高い。特に極度の教員不足に悩んでいる各看護学校ではこの教員養成コースの開講にける期待は非常に高い。何故、定期的に毎年開講されなかったかという保健省で決めているスタッフの認可数(Approved Cadre)がこれまで充足していて、毎年開講する必要はなかったとの看護教育課課長の説明だった。なお、P.B.S.は学校を独立した建物に移転する計画であるが、来年度の予算で建設される予定なので今年は今の看護学校内の敷地でそのまま開講される予定である。

4-1-4 公開大学(Open University)

1994年7月に公開大学が開始された(資料参照)。受験生の応募資格は看護婦の資格取得後2年経ている者で、2アカデミックコース(Accademic Course)のシステムを取っている。ジュニアクラスとシニアクラスの2学年(Batch)があり、1アカデミックは18ヵ月の期間で、就学期間は合計3年間である。卒業するとB.Sc.(Bachelor of Science in Nursing)の学位を取得することが出来る。現在、ジュニアクラスに75人、シニアクラスに60人が学んでいる。問題は通学しながらの学習ではなく、自宅での学習形式なので、入学したものの学習意欲が薄れて脱落する学生も多い。また授業料(3年間で10,560ルピー)が支払えず学業を中断する学生もいるとの主任教授の説明だった。

4-1-5 私立の看護学校・ナワロカ病院(NAWALOKA) 附属看護学校

1. 私立の看護学校および病院の現状

スリランカの財閥であるナワロカ・グループによって1985年に病院が開設され、翌1986年に看護学校が開設された。学生の募集は新聞紙上で行う。応募の条件は年令18才から25才、身長は4フィート10インチ以上の女性に限られていて、募集人員は約70名である。入学すると毎月、1年生時1,700ルピー、2年生時1,900ルピー、3年生時2,000ルピーの修学金をもらえる。看護教育のシステムは保健省管

轄の看護学校に準じているが、地域保健の実習だけは出来ない。3年間のコースで理論と実習の時間数は合わせて2,200時間である。現在1年生68名、2年生40名、3年生32名が学んでいる。教員は常勤が2名だけで、残りは非常勤講師で補充している。学校の施設・設備は非常に貧弱である。学校そのものが病院内の4階にある。教室は2教室だけで、1教室は100mほどの広さで、中央を境にして仕切なしで1年生と2年生が机を背合わせにしながら同じ教室で別々の授業を受ける構造になっていて驚いた。この教室には図書棚も置いてあったが、100冊程度で、人骨模型が1体、壁には人体解剖図が額入で3枚、他に部分臓器の構造図が数枚掛けてあった。離れた建物の中にもう1つの3年生用の教室があった。広さは50mほどで、学生用の机の他に実習室も兼ねていて実習用ベッドが3台置いてあった。宿舎はないので学生は通学している。学生の実習場となる病院内を視察した。旧館と新館があり、新館は地上11階、地下1階の近代的な建物で出来ていて内部の構造はまるで病院というよりホテルと思うほどのモダンさである。病床数は265で、I.C.U.室は広さ150mあり、ベッド数は5床で1994年に開設された。C.C.U.室も150mの広さに7床で医療器具も整っていた。透析室は透析機械が2台あったが治療の患者が現在いないので、使用していなかった。一般病棟の部屋を見学したが、この病院ではすべて個室となっており部屋代が1日850ルピーだった。

5. 看護教育の内容

5-1 理論と実習の時間数

THEORY 1st year		PRACTICE	
SUBJECTS	HOURS	SUBJECT	WEEKS
Foundamental of Nursing	250	Nursing of male & female surgical patients	24
Anatomy & Physiology	75		
Ehics & Profissional Adjustment	10		
History of Nursing	10	Nuursing of medical ward	16
Microbiology	30		
Pharmacology Part 1	20	Genecological ward	8
Pharmacology Part 2	35		
Nutrition	30	Orthopedic ward	4
Community Health	30		
Psychology	20	Neurosurgical ward	4
Sociology	20		
English	80	Cardiosurgery	4
General Sciences	20		
		Medical & surgical ICU	8
2nd & 3rd year			
		O.T.	4
Medicine & Medical Nursing	70		
Surgery & Surgical Nursing	70	O.P.D.	2
Paediatrics & Paediatrics Nursing	55		
Gynecology Obstetrics & Nursing	30	Paediatrics ward	8
Psychiatry & Nursing	80		
		Maternity & Obstetrics ward	8
		Coronary ward	4

入学後1ヵ月間は1日8時間の講義を受ける。2ヵ月目に月曜日から土曜日までの7 am～9.30 amは実習開始で、9.30 am～3 pmは講義の時間となり、2ヵ月間続く。4ヵ月目から実習時間が多くなり、5ヵ月間は7 am～10.30 amが実習時間となる。入学後9ヵ月目より2ヵ月間、実習時間は7 am～12 amで午後は講義となる。11ヵ月目に実習は7 am～1 pmまで増える。そしてCapping Ceremonyが行われて2年生のスタートというシステムである。学生の実習内容や看護婦の業務をゆっくりと観察出来なかったが実習先では婦長が学生の世話をしているという校長の説明だった。学生は卒業すると自分の病院に勤務するしか道がない。保健省が私立の看護学校を卒業した学生を看護婦として認めていないからである。校長の話しでは国立の看護学校に準じた教育を実施していると言うが、講義と実習時間は国立の場合、3年間で4,107時間であるのに私立のこの学校では2,200時間と約半分の教育時間数である。同じ就学年数であるので残りの時間は病院での労働奉仕と考えられる。ちょうど視察に出かけた日の午後は1年生の講義があるはずなのに非常勤講師が体調を悪くして休講となった。その代替がまた実習に切り替えられてしまうのである。教育というより病院の手助けとして養成されている感じを受けた。教員の2人は国立の看護学校を卒業しており、また病棟婦長の中にも同じく国立出身者はいると校長は話した。いずれにしても保健省が私立の看護学校を看護教育機関として認可しない限りは私立で養成する学生、卒業した看護婦の看護技術、看護・医療知識の向上を望むのは極めて難しいと思われる。

COMPARISON BASED ON THE STATISTICS DATA

As of March, 1996

	COLOMBO	KURUNEGALA	KANDY	ANURADHAPURA	GALLE	RATNAPURA	SJGH
No. of beds in hospital	2,665	1,140	1,500	1,100	1,200	894	1,000(600)
No. of nurses in hospital	1,400	485	700	354	518	276	452
Ratio of nurses to beds	1 : 1.9	1 : 2.4	1 : 2.1	1 : 3.1	1 : 2.3	1 : 3.2	1 : 1.33
Establishment of school (Year)	1,939	1,957	1,957	1,964	1,956	1,959	1,984
No. of students							
a. Nursing 93'	72	45	15	63	106	28	
95'	250	128	150	94	158	67	
b. Family Health Workers	130	96	140	36	89	68	
c. Staff Nurses Midwifely students		52	75	47	56	12	
No. of tutors	11	9	14	5	9	8	3
Ratio of tutor to students	1 : 41.1	1 : 35.7	1 : 27.1	1 : 48	1 : 45.4	1 : 21.9	
No. of reference books in library	4,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,500	300
Accommodation capacity of student's quarter	150	150	150	60	40	56	
No. of class room	4	3	5	3	4	3	
Structure of demonstration room	3	1	1	1	1	1	
a. Width	300 m	200m	80m	100m	100m	100m	
b. No. of beds	20	9	7	6	6	6	
Teaching material for nursing	* NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

* NS - NOT SUFFICIENT

SRI JAYAWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL-KOTTE
ANNUAL HOSPITAL STATISTICAL BULLETIN
- 1995-

IN-PATIENT SERVICE

=====	
Bed complement	981
Beds commissioned	981
Total patients admitted	36331✓
Total Discharges (including deaths)	36376
Daily Average Admissions	99.5
Daily Average Discharges	99.6
Average daily sick	544.7
Average length of stay	5.9
Bed occupancy	55.5%
General Ward bed occupancy	57.7%
pa. ng ward bed occupancy	38.8%

HOSPITAL DEATHS

=====	
Deaths under 48 hours	70
Deaths over 48 hours	718
No. of still births	49
Deaths rate	2.1%
No of postmortems	
1 Pathological postmortems	30
2 Judicial Postmortems	27

CLINIC	NO. OF CLINIC	NO. OF VISITS		AV. PER CLINIC
		First	Subsequent	
Medical	283	5855	36214	146.0
Paediatric Medical	189	969	4503	28.9
Pa iatric Surgical	59	273	626	15.2
Gynaecological	372	1923	3030	13.3
Obstetrics	328	4009	21571	77.9
Surgical	416	4741	18839	56.6
Eye	140	1829	7563	67.0
Psychiatry	52	51	424	9.1
Renal	106	486	2922	32.1
Cardio-thoracic	84	291	1400	20.1
ENT	68	1255	2845	60.2
Orthapedic clinic	58	825	1621	42.1
Epileptic	31	32	1853	60.8

*ENT clinic was opened from May

* Orthapedic clinic was opened from March.

* Paediatric surgical clinic was re-opened from June

PATHOLOGICAL SERVICES	
=====	
Biochemistry tests	173194
Special investigations in biochemisrty	29713
Histology investigations	25651
Microbiology investigation	84917
Haemotology , Blood Bank & OPD Laboratory	270249
Haematology (special) tests	1753
PHYSIOTHERAPY SERVICES	
=====	
No. of old patients (from previous month)	446
No. of new patients	1990
No. of patients visits	9457
No. of treatment units given	36023
ENDOSCOPY UNIT	
=====	
NO. of G.I.Endoscopies	1258
No. of Colonoscopies	238
No. of ERCP's	42
Sclerotherapy	182
Bronchoscopy examination	237
Total No. of endoscopy examinatings	1957
DIALYSIS UNIT	
=====	
No.of Haemodialysis	2177
removal of subclavian line	09
Insertion of femoral line	29
Heparinization of subclavian line	166
Heparinization of femoral line	254
Removal of femoral line	22
Creation of A.V. shunt	01
Inseration of subclavian line	10
De otting of A.V.shunt	27
EMERGENCY TREATMENT UNIT	
=====	
No. of patient visits	37570
No. of Dressings	1218
No. of admission(through E.T.U.)	11049
No. of Injection	10503
No. of Deaths on admission	48
No. of Deaths in E.T.U.	10
ICU/CCU	
=====	
No. of Admission C.C.U	234
No. of Admission to I.C.U.	372
Medical	234
Surgical	261
Gynaecological & Obs	121
No. of Deaths	123

Other and unspecified intracranial haemorrhage	01
Occlusion of cerebral arteries	02
Acute but ill-defined cerebrovascular disease	69
Other disorders of circulatory system	04
Pneumococcal Pneumonia	02
Bronchopneumonia, organism unspecified	19
pneumonia, organism unspecified	01
Bronchiectasis	03
Asthma	06
Chronic airways obstruction not elsewhere classified	16
Pneumonitis due to solids and liquids	06
Pulmonary congestion and hypostasis	01
Other disease of lung	04
Disease of oesophagus	01
Intestinal obstruction without mention of hernia	01
Chronic liver disease and cirrhosis	77
Liver abscess and sequelae of chronic liver disease	60
Other disorders of liver	02
Other disorders of biliary tract	01
Disease of pancreas	01
Gastrointestinal haemorrhage	10
Acute renal failure	01
Chronic renal failure	41
Renal failure unspecified	04
Other disorders of kidney and ureter	02
Hypertension complicating pregnancy, childbirth and other puerperium	01
Obstetrical pulmonary embolism	01
Anencephalus and similar anomalies	04
Other congenital anomalies of nervous system	01
Bulbus cordis anomalies and anomalies of cardiac septal closure	01
Other and unspecified congenital anomalies	04
Disorders relating to short gestation and unspecified low birth weight	24
Respiratory distress syndrome	09
Intrauterine hypoxia and birth asphyxia	03
Other respiratory conditions of fetus and newborn	02
Symptoms involving cardiovascular system	10
Symptoms involving respiratory system and other chest symptoms	01
Senility without mention of psychosis	03
Other ill-defined and unknown causes of morbidity and mortality	45
Injury to heart and lung	01
Injury, other and unspecified	01
Toxic effect of other substances, chiefly nonmedicinal as to source	01
Accident caused by explosive material	03
Infection of kidney	01

788

Hemamalini Jayaraman
MEDICAL RECORDS OFFICER

DIRECTOR

PATIENT DAYS

Ward	Class	Paying Patients	General Patients				Exempted patients	Total
			Rs.2501 & above	Rs.2001- Rs.2500	Rs.1500- Rs.2000	Less than Rs.1500		
01	Gen PBU	468	1938 1003	2294 701	279 47	5507 1917	751 212	10849 4348
02	Gen	-	7471	5358	1049	11672	597	26147
03	I	4202	-	-	-	-	-	4202
04	II	6514	-	-	-	-	-	6514
05	II	5876	-	-	-	-	1443	7319
06	Gen	-	3273	2840	566	9050	1253	16982
07	Gen	-	550	279	92	1570	444	2935
Neph-ro	Gen	-	1310	1018	115	2022	253	4718
08	Gen	-	2521	2549	295	8436	1270	15521
09	Gen	-	4276	4614	735	12723	515	22863
10	Gen	-	672	459	117	2338	1266	4852
11	Gen	-	1501	1145	128	2430	2706	7910
12	Gen	-	3106	3236	518	10311	1222	18393
13	Gen	-	2215	2028	711	7416	2697	15067
15	Gen	-	1952	2041	463	7188	1469	13113
16-A	Gen	-	1101	835	105	3722	2456	8129
16-B	Gen	-	06	08	-	20	-	34
17	Gen	-	2754	3463	520	10852	962	18551
18	CTU	64	1191	866	175	2318	304	4918
ICU/CCU		58	265	220	29	647	128	1347
TOTAL		17182	37015	33954	5944	100219	20398	214712

Education plan for 1996/1997

This will be a continuation of the existing programme.

Sessions will be held continuously every Friday from 10.30 a.m. to 12.00 noon. Topics are selected in order of day to day nursing service priorities in the Hospital.

Module I Topic - Infection Control Programme at SJGH

- (a) Introduction to Infection Control Programme at SJGH.
- (b) Nosocomial Infections.
- (c) Universal Infection Control precautions.
 - Sharps management.
 - Disinfection and sterilization policy.
 - Protocol in management of AIDS/HIV positive. client.
 - Hand washing
 - Protective attire.
 - Disposal of garbage.
- (d) Nurses role in controlling contagious diseases.

Module 2 Topic - Management of Cardio-Pulmonary Resuscitation

- (a) Introduction to Electrocardiogram.
- (B) E.C.G. arrhythmias and management.
- (c) Theory behind cardio-pulmonary resuscitation.
- (d) Crash cart (emergency equipment trolley).
- (e) Introduction of the C.P.R. team and demonstration drill.
- (f) How to act in a disaster situation in the Hospital and disaster preparedness.

Module 3 - Management and supervision

- (a) Introduction to the course.
- (b) Introduction to the management cycle.
- (c) Leadership development
- (d) Delegation
- (e) Problem identification, analysis and solving.
- (f) Interpersonnel relationship and communication.

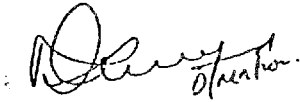
Module 4 - Special Department's Nursing

- (a) Intensive Care Nursing (surgical adult).
- (b) Operating theatre nursing.
- (c) Gynae. & Obst. nursing.
- (d) Paediatric Nursing.
- (f) Coronary care nursing.
- (g) Neonatal Intensive Care Nursing.

Module 5 - Other disease conditions

(a) Asthma, Diabetic, Heart disease etc.

Lectures followed by nursing care case discussion.



M. Dayananda

Deputy Matron

Sri Jayewardenepura General Hospital.

25.03.96.

NURSING UPDATE - (SESSION 18)

NURSING OFFICERS EDUCATIONAL PROGRAMME

SRI JAYEWARDENAPURA GENERAL HOSPITAL

From - 29/03/96 19/04/96

DATE	TOPIC	FACULTY	METHOD	VENUE
29/03/96	Nosocomial Infections.	Microbiologist - Dr. C.Palasundaram	Lecture	Clinical Lecture hall S.J.G.H
05/04/96	Introduction to Infection Control Programme at S.J.G.H	Deputy Matron Mrs. M.Dayananda.	-do-	-do-
12/04/96	Universal Infection Control Precautions.	Dputy Matron Mrs.M. Dayananda.	-do-	-do-
19/04/96	Prevention of Spread of Communicable diseases. Role of the nurse	Sister tutor Mrs.B.S.Abeywardena	-do-	-do-



Deputy Matron
S.J.G.H



Signature of Director
S.J.G.H. 25/3/96

スリランカにおける看護婦の職階

MATRON
(SPECIAL GRADE)

DEPUTY MATRON
(SPECIAL GRADE)

7 年の実務経験

WARD SISTER
(GRADE I)

IN CHARGE NURSES
(GRADE I)

7 年の実務経験

GRADE II A

1 年 6 ヲ月の研修
P.B.S. (POST BASIC SCHOOL OF NURSING)

試験合格後 7 年の実務経験

4 年の実務経験

EFFICIENCY BAR EXAMINATION
3 年の実務経験の資格が必要

STAFF NURSES
(GRADE II B)

NURSING STUDENTS

看護学校を卒業して看護婦として病院に勤務するとGRADE II Bという名称のSTAFF NURSES (一般看護婦) になる。昇進の道は2つある。1つは将来、看護婦の幹部候補生となるP.B.S (POST BASIC SCHOOL OF NURSING) という卒後研修養成所に入学するコースで、条件は4年以上の実務経験を有する者で募集定員の35%は筆記試験を実施して、残りの65%はSENIORITYで決定する。SENIORITYは10年以上の実務経験者で、書類選考と面接試験だけで筆記試験はない。P.B.S.で1年6ヵ月の研修を終えてGRADE Iと呼ばれるWARD SISTER (病棟婦長) になる資格を得る。WARD SISTERを7年以上経験した後にSPECIAL GRADEと呼ばれるDEPUTY MATRON (副総婦長) となり、その上はMATRON (婦長) である。これに対し、もう1つの道は実務経験だけで昇進するコースである。3年の実務経験でGRADE II Aの資格を取るためのEFFICIENCY BAR EXAMINATIONという試験を受けて合格したらその後7年の実務経験を得てGRADE II Aに昇格する。そしてその後7年の実務経験を得てGRADE Iと呼ばれるIN CHARGE NURSES (病棟婦長) に昇進する。しかしこのコースからの昇進はここでストップでDEPUTY MATRONやMATRONにはなれないシステムとなっている。

16th March 1996

INSERVICE EDUCATION PROGRAMME FOR GRADUATED
NURSING OFFICERS (SISTERS AND STAFF NURSES 1/C)
AT SRI JAYEWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL

Inservice education programme has been an ongoing programme from the start of this hospital since 1985.

The purpose of this programme was to update the knowledge and skills of the nursing staff, maintain and improve the high standard of patient care.

There were some constraints like lack of lecture room and seating accommodations, when we have to accommodate more than fifty Nursing personal, audiovisuals and reference material for the graduated Nurses.

Except for the interruptions due to exigencies of services and constraints the lecture programmes were conducted throughout.

A brief account of the programmes conducted from time to time and a programme intending for the current year are attached herewith.

Thanking you,



Mrs Dayananda

DEPUTY MATRON

SRI JAYEWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL

sh/-

FUTURE PLAN

Lectures and demonstrations and discussions on every Friday
from 10.30 a.m - 12.00 noon.

1ST MODULE - Intriduction to Intensive Education

- (A) Introduction to Electrocardiogram.
- (B) E C G arrhythmias and managment.
- (C) Theory behind Cardio Pulmonary Resuscitation.
- (D) C P R Demonstration drill.

2ND MODULE -

- (A) Introduction to Infiction Controll Programme at S J G H.
- (B) Universal Infiction Controll Precautions.
- (C) Nosocomial Infictions.
- (D) Disinfiction and sterilization policy.
- (E) Managment of Sharps.
- (F) Protocol in Managment of AIDS/HIV Positive Client.

3RD MODULE

- (A) A refresher courseon Managment nursing officers in charge of wards.
- I Introduction to the course and managment cyde.
- II Human Resource Managment.
- III Leadership and Team Leadership.
- IV Deligation.
- V Problem indentification, analysis and solving.
- VI Interpersonal relationship and communication.

4TH MODULE

- (A) Lectures and clinical discussions and demonstrations on specialized topics for examp Asthma, Diabetis , etc.

METHODOLOGY - Lectures, demonstrations and clinical discussions.

OFFICER RESPONSIBLE FOR ORGANIZING THE PROGRAMME -

Mrs. M. Dayananda, Deputy Matron, Sri Jayewardenepura G.H.

Mrs M Dayananda

DEPUTY MATRON

SRI JAYEWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL

sh/-

Examination 29. Nov, 1995
Interview Feb. 1996.

THE SUNDAY OBSERVER, FEBRUARY 05, 1995

SRI JAYEWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL TRAINEE NURSES

Applications are invited from Unmarried Female Nationals of Sri Lanka for training in General Nursing at the SRI JAYEWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL.

The course will be of Three (03) years duration and at the successful completion of which, suitable candidates may be recruited into the Nursing Service of the Hospital. Marriage will not be permitted during the training period.

Qualifications & Requirements:

1. G.C.E. (O.L.) Examination with Credits in Science, English, Sinhala/Tamil and Mathematics with a total of 6 passes at no more than 2 sittings.
2. G.C.E. (A.L.) Passes in Science subjects will be an advantage.

Age & Height:

18 - 22 years and Height - 5 ft. 2 inches.

CONDITIONS

1. Selection will be by an interview.
Canvassing will be a disqualification.
2. Selections will be paid an honorarium during the three (03) years training period on the same scale as in the Training Schools of the Ministry of Health. They will be required to live within the premises. Leave will be only for urgent compassionate reasons.

1st year - Rs. 21540/- p.a.

2nd year - Rs. 22200/- p.a.

3rd year - Rs. 22860/- p.a.

3. On admission to training, the selected candidates will be subject to other Rules and Regulations of the SJGH Nurses Training School and to other Regulations applicable to all employees of the Board.
4. On completion of the Training Course, Candidates will sit for the final examination. Suitable candidates will be absorbed into the Nursing Staff of the SRI JAYEWARDENEPURA GENERAL HOSPITAL on terms and conditions currently applicable according to existing vacancies.
5. Selected candidates selected for training will be required to enter into a **7 year Bond** with the Hospital Board effective from the date of passing the Final Examination. Bond must be signed before commencement of training.

**ONLY THOSE PREPARED TO DEDICATE THEIR LIVES
TO PATIENT CARE NEED APPLY.**

Application giving two (02) Unrelated Referees should reach

The Chairman,
Sri Jayewardenepura General Hospital,
Talapatthitly,
Nugegoda.

on or before 24.02.1995 marked 'POST OF TRAINEE NURSE' on the left hand corner of the envelope.

Chairman,
Sri Jayewardenepura General Hospital.

資料 6

Programmes at P.B.S.

<u>Year</u>	<u>Programme</u>	<u>Period</u>	<u>No. of Students</u>
1991-1992	Diploma in Teaching and Supervision		40
1992-1993	Diploma in Management and Supervision		150
1993	Curriculum Development		20
1993	Paediatric Course	2 months	40
1993	Control and Prevention of AIDS	5 days	20
1993	Teaching Learning Methodology		16
1994	Management Course	2 weeks	50
1994	Management Course	3 months	40
1995	Medical Surgical Course	2 months	40
1995	Midwifery Course S/N	6 months	70
1996	Orthopaedic Nursing Course		22
1996	Teaching Midwifery in Schools of Nursing and in the Clinical Setting		28
1996	Midwifery for Nurses	6 months	82

LIST OF ATTENDANCE ON FINAL DISCUSSION
FOR NURSING EDUCATION PROJECT IN SJGH

DATE 8th. April, 1996

PLACE Secretary Room Ministry of Health

[SRI LANKAN SIDE]

1. Secretary, Dr. Dudley Dissanayake
2. Additional Secretary, Dr. Lucian Jayasuriya
3. Director General, Dr. Reggei Perera
4. Deputy Director General, Dr. G. Jeganathan
5. Deputy Director General, Dr.K.C.S.Dalpatadu
6. External Resources Ministry of Finance Dupty Director, Mr. B.H.Passaperuma
7. Director, Nursing Education, Mrs. N.C. De Costa
8. Director, Nursing Medical Services, Ms. Kusum Vithana
9. Director, Nursing Public Health Services, Ms. Karuma Saranguhewa
10. Chairman, SJGH , Dr. J.B.Peiris
11. Director, SJGH, Dr. D.L. De Laneralle

[JAPANESE SIDE]

1. Secretary, Embassy of Japan, Dr. K. Kanai
2. ^{Assistant} Director, JICA of Sri Lanka, Mrs. J. Inami
3. Long - Term Study Staff, Mr. S. kobayashi

FINAL DISCUSSION FOR TECHNICAL COOPERATION PROJECT
ON NURSING EDUCATION BY JICA IN SJGH

「THE CONTENT OF DISCUSSION」

1. Reports of study result on national nursing school

A. Schools to be studied : Colombo, Kurunegala, Kandy, Anuradhapura, Galle, Ratnapura

B. Purpose of study :

- a. To comprehend the current status of domestic' nursing school in general
- b. To collect relevant information and data which could enhance the acquisisting of knowledge about nursing school
- c. To produce an informative and descriptive up to date study - report on the subjects mentioned above

* The information provided in the report has been designed for use by Japanese cooperation organizations as an invaluable reference in exploring the possibilities of formulating cooperation projects in Sri Lanka

C. Components of study

- to understand

- a. current status and conditions of nursing school and nursing education
- b. current status and conditions of nurses in hospital
- c. what is required from the Government of Japan, as an external resource
- and to collect
- a. relevant information.

D. Overview (Study Results)

I. The issues to be considered of present condition

- a. Decrepited building in nursing school
- b. Shortage of students quarter in nursing school
- c. Shortage of quality teaching materials and equipments in nursing school
- d. Absoulte shortage of tutors in nursing school
- e. No chance of exchange training programe among nursing school which will be able to strengthen teacing method for tutors
- f. Shortage of nurses in hospitals
- g. Inefficient structure of building supporting for better teaching system

II. The point for improvement

- a. To reduce an overload for tutors - supply of tutors
- b. To organize modern training programe in order to improve the quality of teaching
- c. Improvement of facilities and institution in nursing school
- d. Supply of nurses in hospital

2. P.D.M. (Project Design Matrix) for nursing education in SJGH

3. T.S.I. (Tentative Schedule of Implementation) of the Japanese Technical Cooperation

4. An importance of understanding and cooperation on this Project in Ministry of Health